

山田美妙雜稿

中學全科辭典校訂
うゑおみ

特別
15
1664
55



15
1664
55

う

う 卯 一、十二支の一、二、方向の名稱にして、正東をいふ、三、昔の時の名にして、今日の時に配すとときは午前六時に相當す。

う 馬 一、人名、縣の子、虞舜の時、治水の功あり、終に舜の後をうけて天子となり、夏后氏と稱す。

う 輪 一、動物、水禽類、全身の羽毛黒く、其形鳥に似たり、嘴は長くして尖端少しく下にまがれり、よく水を漕ぐり游泳中の小魚を捕ふ、多く遊がりに使用せらる。

う 得 一、我がものとする、二、よく爲す。

ウアンクワア 暹香坡、Tannuwa、地名、英領加奈陀のプリンセス、コロンボヤにあり、有名なる港。

うーい 羽衣 一、天の衣、二、樂曲の名。

うーい 鳥有 一、全く無くすること、火災にて家屋を燒き盡したること、鳥有に歸せし、な、いふ。

ウイクリフ Wythe 人名、W. M. の名、改革の先驅者、西紀一三八〇年、聖書の翻譯の事、此はウイクリフ畢生の大事業にして、實に十五年間を費して結んで大せしたるなり、(西紀一三二四一三三八四)。

ウイゲル 暹羅、草花、長舌、(C. W. G.) 地名、天山山脈の

種族、唐に從て強大となり、西紀八百年代の初、其一部は河西にありて西夏に服し、他の一部は高昌に往き、一大版圖をつくれり。

ウイスコシン Wisconsin 地名、北米の中部に在る一州なり、同名の河あり、此州を流れてミシシッピ河に合す。(446, 300, W. C.)

ウイスワラ Venetia 地名、バルト海に注ぐ獨逸の大河流、六五〇哩にして、全流殆んど舟楫の便あり、バルト海に運搬する材木、穀物等の大量は皆此便に依る、(VENETIA, I. J. B.)

ウイスビー Wexby 地名、バルト海の南部にありて、瑞典のゴットランド島の首府なり、(WEXBY, ISLAND.)

ウイスマル Wismar 地名、北獨逸メクレンブルグ、シュヴェツェン大公國の要港にして、商工業盛大なる地なり、バルト海に臨みり、(WISMAR, I. J. B.)

ウーデン Wudin 地名、アムステルダム、ドナウ河畔の市も重要なる地ありて、タリ戦争の時、頗る被害の地なりしも、西紀一八七九年の伯林條約にて悉く破壊されたり。(WUDIN, I. J. B.)

ウイデント Widdent 人名、サクソンの驍將にして、サクソ人を率て威カリ、大帝に叛し、終にコロロ大

帝の親征する所。なり。一八二二年アレクシエ河に於て。クソフ人四千五百を屠せられ一旦屈せし。翌年又群民を率ゐて蜂起し、大帝の爲にアトモルド及ハセに大敗するに及びて終に力屈し、七八五年大帝に降伏したり、後耶穌教徒となりたり。

ウイテンベルヒ Wittenberg 地名 普魯西の一市なり、三十年戦争 七年戦争并に宗教戦争の爲めに苦みぬ。

ウイテルスバハ Wittelsbach 家 ドイツ現今のパロリア王家にして、第十三世紀の中頃所調ドイツの空位時代に於ては他の大諸侯と共に各其領域に主權を確立するに力めたり。

ウイト Jan de Witt 人名 和蘭の有數なる外交政治家にして、一六五〇年のイリアム二世崩し、其子(後に英王ウィリアム三世となりたる人)未だ幼少なりしを以て、専ら外交の衝に當り、英國と和親條約を結び、一六六七年佛とアレダの條約を締結し、一六六八年春、英國及瑞典と三角同盟を結びて佛に當りし等其外交上の効勞顯著なりし人なり(西紀一六二五—一六七二)

ウイトストック Wistock 地名 プロシアに在り、三十年戦争の時、スウェーデン軍の將バチールが獨索の連合軍を敗りし地なり。 (53.11N. 12.27E)

ウイトルウイウス Vitruvius 人名 西紀一世頃、ローナに生れたる人にし、ケルセル及アウグスツスの 陸軍技監たりし羅馬の建築家たり、著書建築學十卷あり。

ウイトワールスランド Wiltwarsland 地名 南アフリカ洲トランスバルに在る一山脈にして、産金地として名あり。 (29.08. 27.0E)

ウイニク Winnipeg 地名 北米カナダ、マニトバの首府、湖、河の名。

ウイーン Wien (Vienna) 地名 オーストリア、ハンガの首都、ドナウ河に臨み交通頗る便なり。

ウインケルマン Winckelman 人名 獨逸有數の古物學者にして、一七 四年著はしたる古代美術史の著書多し。(西紀一七二七—一七六八)

ウインズル Windsor 地名 バークシャーの一市にして倫敦を距る西に二十三哩、テムズ河の右岸に在り、エートンと相對し、ブレンナム朝の王宮の所在地にして古き城廓を有す、人口一萬二千あり。(51.29N. 0.35W.)

ウインチェスター Winchester 地名 イギリスのハンチアシャー州に至る古市にして、倫敦の西北六十哩、イッチェン河の右岸に在り、一度イメグランドの首府となりしことあり、十一世紀頃の古寺院ある等古市として有名なり、人口

ウイムルウイウス

約二萬あり、(51.4N. 1.18W.)

ウイーンの列國會議 歴史、西紀一八一五年、歐洲各國の使臣ウィーンに會し、ナポレオン一世の爲めに蹂躪せられたる歐洲の善後策を議せしが、意見區々に分れて、其結果は充分ならざりき。

ウイーンのわき Wien の和議 一八〇九年、和議を此處に結びたり、其結果地 割き、大陸封鎖に加入せしめたり。

ウインフリード Winfried 人名 獨逸の宣教師、七一八年羅馬法王グレゴリウス二世より命を受け、東フラング、ヘッセン、フリースランド等に耶穌教の布教をなし、後漸次累進し、所々の大僧正となり、七五四年異教地に於て説教中擊殺せらる。

ウインペン Wimpfen 地名 獨逸にあり、三十年戦争の時、佛將のマルグラーフを破りたる地。

ウイムルウイウス Wimpfen 起電機 物理、感應によりて多量の電氣を起す器械にして其構造は二枚の硝子圓板と二本の金屬棒とより成り、圓板

1683
1599
84

印の二一なり、西紀一七三二一)
ウィリアムソン *Williamson* 人名 アレキサンデル、
ウィリアムソンは現存せる英國の有名なる化学者にして倫
敦大學化学教授なり、其化学上に於ける功績は 西紀一八
七〇年始めてエーテルに證明を與へ 其分子賦の式を確定
し 且混合エーテルの階級を發見し、又エーテル論の見地
の下に化 上の動力學説を立てたるが如き、其他尠少なら
ず、著書あり、(西紀一八二四年五月一日生)

ウィルミニア *Virginia* 人名 ローマの處女にして容姿
秀麗なりし、士官の子にして、ルキウス、インシリアスと許
嫁なりしを、ト、憲の一人アッピウス、クラウナウス之を奪
はんとせしも成らざりしかば収録なりとして死刑を宣告し
たり、後國人彼を惡みて獄に投せしかばクラウナウスは自
殺したり。

ウィルソン *Wilson* 人名 アレキサンデル、ウィルソ
ンはスコットランドの鳥類學者にして、稀鳥を捕へて名を
擧げんとて游泳し終に感胃を得て死す、七卷の著書あり
(西紀一七六六、一八一三)

ウィルソン *Wilson* はスコットランドの有名なる詩人にして且批評家にして、クリストファー、ノースの名を以て世に知らる (西紀一七八五、一八六〇)

て竣工せし真寔泊所あり、人口三萬餘 (*33,000 inhabitants*)
ウィルリギス *Wilrige* 人名 獨乙メインツの大僧正に
して、太后の崩後 皇后と共に政を聴く。

ウィルレミナ *Wilhelmina, Willemina* 人名 子イテ
ランドの女王、ワイルレム三世の子 (西紀一八八〇年生)
フレデリキ、ソフィアワイルレミナはフレデリキ大王の愛妹
にして、一七三二年バイロイト伯に嫁し、「記臚すべきこ
と」なる書を著はせり、(西紀一七〇九、一七五八)

ウイ 鐵 腹がへる、空腹。
ウウ 植 國一、俗にうるゑの意、二、種子をまく。
ウーウ 雨雲 地理 暗澹たる色を有し、雨を降らす雲
なり。

ウエイ *Wei* 地名 伊太利のエトルリアにある最古
の市なり、羅馬に近きを以て、羅馬と争ふ事數々なり、遂
にカメルハのために、十年間の長圍を けて降伏せり。

ウエークフィールド *Wetherfield* 地名 英國の市なり、
薔薇戦争の時、ホルクのクツチャード戦役せし所なり。

うにさぎ あさだ 上杉頼定 人名 山内第七代の主
扇谷の上杉定正、太田道灌を殺すや、頼定、定正を討つ、
利あらず、後遂に定正を破り、永正四年薨斃し可淳と號す
永正七年越後の土寇起り、頼定之を討めんとして奮戦し遂

て竣工せし真寔泊所あり、人口三萬餘 (*33,000 inhabitants*)
ウィルリギス *Wilrige* 人名 獨乙メインツの大僧正に
して、太后の崩後 皇后と共に政を聴く。

ウィルレミナ *Wilhelmina, Willemina* 人名 子イテ
ランドの女王、ワイルレム三世の子 (西紀一八八〇年生)
フレデリキ、ソフィアワイルレミナはフレデリキ大王の愛妹
にして、一七三二年バイロイト伯に嫁し、「記臚すべきこ
と」なる書を著はせり、(西紀一七〇九、一七五八)

ウイ 鐵 腹がへる、空腹。
ウウ 植 國一、俗にうるゑの意、二、種子をまく。
ウーウ 雨雲 地理 暗澹たる色を有し、雨を降らす雲
なり。

ウエイ *Wei* 地名 伊太利のエトルリアにある最古
の市なり、羅馬に近きを以て、羅馬と争ふ事數々なり、遂
にカメルハのために、十年間の長圍を けて降伏せり。

ウエークフィールド *Wetherfield* 地名 英國の市なり、
薔薇戦争の時、ホルクのクツチャード戦役せし所なり。

うにさぎ あさだ 上杉頼定 人名 山内第七代の主
扇谷の上杉定正、太田道灌を殺すや、頼定、定正を討つ、
利あらず、後遂に定正を破り、永正四年薨斃し可淳と號す
永正七年越後の土寇起り、頼定之を討めんとして奮戦し遂

て竣工せし真寔泊所あり、人口三萬餘 (*33,000 inhabitants*)
ウィルリギス *Wilrige* 人名 獨乙メインツの大僧正に
して、太后の崩後 皇后と共に政を聴く。

ウィルレミナ *Wilhelmina, Willemina* 人名 子イテ
ランドの女王、ワイルレム三世の子 (西紀一八八〇年生)
フレデリキ、ソフィアワイルレミナはフレデリキ大王の愛妹
にして、一七三二年バイロイト伯に嫁し、「記臚すべきこ
と」なる書を著はせり、(西紀一七〇九、一七五八)

ウイ 鐵 腹がへる、空腹。
ウウ 植 國一、俗にうるゑの意、二、種子をまく。
ウーウ 雨雲 地理 暗澹たる色を有し、雨を降らす雲
なり。

ウエイ *Wei* 地名 伊太利のエトルリアにある最古
の市なり、羅馬に近きを以て、羅馬と争ふ事數々なり、遂
にカメルハのために、十年間の長圍を けて降伏せり。

ウエークフィールド *Wetherfield* 地名 英國の市なり、
薔薇戦争の時、ホルクのクツチャード戦役せし所なり。

うにさぎ あさだ 上杉頼定 人名 山内第七代の主
扇谷の上杉定正、太田道灌を殺すや、頼定、定正を討つ、
利あらず、後遂に定正を破り、永正四年薨斃し可淳と號す
永正七年越後の土寇起り、頼定之を討めんとして奮戦し遂

て竣工せし真寔泊所あり、人口三萬餘 (*33,000 inhabitants*)
ウィルリギス *Wilrige* 人名 獨乙メインツの大僧正に
して、太后の崩後 皇后と共に政を聴く。

ウィルレミナ *Wilhelmina, Willemina* 人名 子イテ
ランドの女王、ワイルレム三世の子 (西紀一八八〇年生)
フレデリキ、ソフィアワイルレミナはフレデリキ大王の愛妹
にして、一七三二年バイロイト伯に嫁し、「記臚すべきこ
と」なる書を著はせり、(西紀一七〇九、一七五八)

ウイ 鐵 腹がへる、空腹。
ウウ 植 國一、俗にうるゑの意、二、種子をまく。
ウーウ 雨雲 地理 暗澹たる色を有し、雨を降らす雲
なり。

ウエイ *Wei* 地名 伊太利のエトルリアにある最古
の市なり、羅馬に近きを以て、羅馬と争ふ事數々なり、遂
にカメルハのために、十年間の長圍を けて降伏せり。

ウエークフィールド *Wetherfield* 地名 英國の市なり、
薔薇戦争の時、ホルクのクツチャード戦役せし所なり。

に殺す、年五十七。

うにすぎーうち 上杉氏 姓名 山内と扇谷と二家あり藤原良門より出づ、重房始めて上杉氏を稱し、其子頼重の子憲房の後に、大懸氏を稱するものと、山内を稱するものとあり、又憲房の兄頼重の後は、扇谷を冒すものと、越後の上杉等あり、謙信系の上杉氏は長尾景景より出づ、爲景上杉房能を弑し越後を奪ひ、後頼定の爲めに服せられ、子景虎即謙信に至り、頼定を殺し、越後を領し、山内家の許を得て上杉氏を稱したり。

うにすぎーうちのり 上杉氏憲 人名 朝宗の子なり、後頼秀を稱す、持氏の執事となり、後頼を辭し、足利義嗣と共に兵を擧げ持氏を逐ひ鎌倉を領せしも將軍義持に破られ遂に一族四十餘人と共に自殺す。

うにすぎーかけかつ 上杉景勝 人名 尾張政景の子、後謙信の養子となり軍旅に従ひ功あり、天正中信長と戦ひ秀吉と和す、慶長三年家康と戦ひ、後和して大阪冬陣に功あり、元和九年、十九にして歿す。

うにすぎーかげどら 上杉景虎 人名 北條氏京のセ子始め信玄の養子となり、後上杉輝虎(謙信)に養はれ、名を景虎と言ふ、始めの名は氏秀なり、謙信死して、上杉景勝と地を争ひ、破れて自殺す、年二十八。

うにすぎーかけどら 上杉景虎 人名 上杉謙信の始の名なり。

うにすぎーけんしん 上杉謙信 人名 初め景虎と言ふ長尾爲景の三子、父死し僧となり諸國を遊歴し、比叡山に至り、宇佐美定行に兵法を學び、後天文十二年歸國元し景虎と言ふ、景政と戦ひ越後を略す、時に村上義晴、信玄に破られ謙信に歸す、時に管領上杉憲政氏に追はれ越後に來りしを謙信に遇し、北條氏と戦ひ勝ら管領の職を譲られ上杉氏を稱す、永祿四年將軍義輝に謁し、其偏諱を受けて輝虎と名を改む、二十二年後連年武田信玄と兵を交へて決せず、又信長と對抗し兵を破れんとし俄然病にかゝりて卒す、年四十九。

うにすぎーさたまさ 上杉定正 人名 扇谷家六代の主にして鎌倉の執事持朝の四子なり、定正其忠臣太田道灌を殺し、扇谷の勢力衰へ上杉頼定に屬する臣下益多きを加へしかば遂に頼定と戦ひ、戦酣にして、落馬して卒す、年五十二。

うにすぎーてるどら 上杉輝虎 人名 上杉謙信の事なり。

うにすぎーのりあき 上杉憲朝 人名 憲房の子、尊氏に従ひ功あり、後事を以て尊氏と反目し、宗良親王に應じ

て尊氏に破らる、伊豆國清寺は氏の建設せし所なり。

うにすぎーのりた 上杉憲朝 人名 山内家五代の人なり、足利氏と戦ひ、克たずして死す、年二十二、憲實の子なり。

うにすぎーのりさね 上杉憲實 人名 山内家の四代の主、文武を尚び士民悦服す、持氏に思はれて退き、藤澤に居る、後持氏に召ふ、時に持氏將軍たらんせす、憲實大に諫めて大に持氏に思はれ去る、持氏征討の軍を送る、憲實之を京師に訴へ、義教に助けられ、持氏を破りて之を幽す、後管領たりしが、辭して諸國を巡り天正元年歿す、憲實嘗て足利學校を興し、田園を寄附し學費とし、書を異邦に求めて置く、世以て美譽となす。

うにすぎーのりはる 上杉憲春 人名 憲顯の子、氏滿の執事たり、氏滿將軍義滿を圖る、義滿憲春をして平和を圖らしむ、憲春氏滿を諷めて容れられず、歸り書を送りて自殺す、氏滿之を聞き、悔ひて義滿と和す。

うにすぎーのりふさ 上杉憲房 人名 頼定に養はれて山内家 代の主となる、父戦歿してより、平井城に退く、上田藏人が北條早雲に應ずるや、憲房討て之を抜き、關東管領となり、營中に歿す。

うにすぎーのりま 上杉憲政 人名 憲房の子、山内

家九代の主、享祿三年、鎌倉管領となる、北條氏康を滅さんとて、古河公方、大内氏等と氏康を討て、利あらず、謙信により、管領職を譲り、薙髮して立山と號す。

うにすぎーはるのり 上杉憲 人名 米澤の城主、吉憲の子、興讓齋を起したるは此人なり。

うにすぎーふさあき 上杉房顯 人名 憲實の子、山内家六代の主、享祿中關東管領となる、康正元年成氏を討て敗れ、寛正元年成氏の部下と戦ひ、京師に戦況を報ず、義政之を賞す、天正元年成氏と陣中病死す、年三十二。

うにすぎーもちども 上杉持朝 人名 山内持定の子、扇谷三代の主、薙髮して道朝と言ふ、屢々成氏と戦ふて決せず文正二年卒す、年五十二。

ウエストーインヂス West Indies 地名 太平洋中南北兩米の間に在る群島にして、大西洋ロメキンコ灣よりカリブ海を隔てり、キローバ、ハイチ、ジブマイカ、トリコ、パハマ等其主なるものにして實に全面積九四三九三方哩にわたり、人口五百八十四萬三千あり、産物の主なるものは砂糖、咖啡、煙草等なり、西インドの名あるは、西紀一四九二年コロンブスの亞米利加を發見するの直キローバ、ハイチ、パハマ等を發見し、之をアジアのインドなりと思ひしに依る、(29,027,73,0W)

ウエスト、ハム West Ham 地名 イングランドのウェセックス州にある城市にして、ロンドンの外部をなせり、人口廿萬五千餘。

ウエストフリア Westphalia 地名 プロシアの西北に在る一州にして面積七九八方哩、人口廿四萬あり、首府をミンステルといふ、西紀一八〇七年ナポレオン之を一王國としフライン同盟の中心となさんと欲し、弟ジョージムを以て王としたることありき、一八一三年ウィーン條約によりプロシアの屬州となれり (GISEN, OEB)

ウエストフリアでうやむ Westphalia 條約 歴史 西紀一六四八年、三十年戦争の講和會議に於ける條約

ウエストミンスター Westminster 地名 イギリス、ミッドルセックス州のテームス河北岸に在る市にして、もと一村落に過ぎざりしも、今はロンドン市の西端部となり議院及英國の帝王、英傑等を葬れる有名なるウエストミンスター、アッペーなる寺院あり、人口五萬五千人、歴史上有名なる長期議會 (西紀六四三年七月一日より六四九年二月二十二日) に至る の召集せられたるは此地なり。

ウエスバシアヌス Vespatianus 人名 羅馬十二帝中の第十の皇帝、西紀七〇—七九年、もと貧なりしが、遂に擢ばれ、位に即く、治世中外國を賑ひ克つ、七十にて歿せり。

ウエセックス Wessex 地名 英國南部の王國、國王エグベルトに至り、英國王となる。

ウエーゼル Wesel 地名 獨逸の大河の一にして全長二五〇哩あり、其本流のエラを合すれば、殆んど四三五哩あり、沿岸にアレマッ、ミンデン等の都市あり、フルダ河とウエラ河を會して成り、プロシアを貫流し、アレメルハーフェンの近傍にて北海に注げり。 (GISEN, OEB)

ウエーセル山脈といふはウエーセル河兩岸に在りてミウンデンよりミンデンに至れる間の山地及高原を云ふものなり

ウエチン Weitin 地名 サクソニアの市、人口三千四百餘、ウエチン家の古代の城壘の残れるもの甚だ多し。

ウエツラル Weizlar 地名 プロシアのライン州の一市にして、人口六千九百餘あり、千七百九十六年六月十五日日カロー大公爵の佛軍を敗りし地なり。 (GISEN, OEB)

ウエーデル Weidel 名 瑞典の西南にある、大の湖にして、湖中島多し (GISEN, OEB)

うわの—はかま 名 袴 東帯の時、大口の上に着る袴。

ウエハイウエー 威海衛 地名 イカイエーを見よ

ウエフスター Webster 人名 デニエル、ウエフスターは、合衆國の政治家にして、國會議員として、英國との境界問題に關し、アシューバートン、條約を結ぶに當り與て大に力ありし人なり、(西紀一七八二—一八五二年) ノア、ウエフスターは米國の言語學者にして有名なるウエフスター辭書の著者なり、此書は二十年の苦心を経て始めて大成せしものなり、(西紀一七五八—四三)

ウエーベル Weber 人名 カロロ、マリア、フォン、ウエーベルはドイツ有名の樂曲作者にして、種々のピアノの譜を書きたり、其處女作は「自由の保護」と名くるものにて之にて名聲を擧げしなり、(西紀一七八六—一八二六)

エルチスト、ヘンリー、ウエーベルは獨乙有名なる生理學者兼解剖學者にして、ライプナヒ大學の教授たりし人なり、ウエーベルの法則なるものを發見したり (西紀一七九五—一八七八年)

ウイルム、エドワード、ウエーベルは前者の弟にして、獨乙有名なる物理學者なり、電氣及磁氣に關し、理論及び實

驗上貢獻したる所少なからず、ゲッチンゲン大學の教授たりし人なり、(西紀一八四四—一八九一年)

アルブレヒト、フレデリキ、ウエーベルは獨乙著名の東洋語言學者にして、柏林大學の教授なり、西紀一八二五年生) シュルツ、ウエーベルは獨乙の歴史家にして、現時ハイデルベルグの高等學校長たり、萬國史十五卷、獨乙文學史等は其著にして、現時大に行はる、(西紀一八〇八年生)

ウエンチアウ Wenchau (温州) 地名 清國浙江省の東南岸にある開港地にして、人口八萬餘あり、省産として温州みかんあり、一八七六年のチーフ條約により一八七七年四月より外國貿易港として開かれたるものなり。 (GISEN, OEB)

ウエンツェル Wenzel 人名 カロロ第四の長子にして、獨乙帝なり、三歳ホヘミアの帝となり、次を羅馬王となり、一三七八年、父帝死するや、獨乙帝となりたり、治世中皇族と市民と軋轢を生じ、入獄せしが、後再び王位に即く、一四一九年歿す。

ウエンド Wends 族名 西紀六世紀獨乙の東北部に住せしスラブ族の一なり。

ウエーラウ Wehrau 地名 東プロシア城市、一六、一七年ブランデンブルヒ攝侯が此處にウエーラウ條約を結びたり

1843
1758
85

259
185
3

ウエルキリウス (Virgil Vergilius) 人名 アブアウス、ウエルキリウス、マロはアデンスの人にして、ローマ文學の極盛時代に出でし有名なる詩人なり。叙情詩及び教訓歌に巧にして、著書數十卷あり、皆名著なり、羅馬詩人の君子と稱せられ、詩人中最高潔なる人の一人なり。(西紀前七〇一—一九)

ウエルキリウス Virgil (Vergilius) 人名 アブアウス、ウエルキリウス、マロはアデンスの人にして、ローマ文學の極盛時代に出でし有名なる詩人なり。叙情詩及び教訓歌に巧にして、著書數十卷あり、皆名著なり、羅馬詩人の君子と稱せられ、詩人中最高潔なる人の一人なり。(西紀前七〇一—一九)

ウエルキンゲトリクス Veringotrix 人名 ガリアの司令官且アルメルニの首長、紀前五二年ケーザルに對し大叛逆を起し、自ら之が總指揮官となりて、強力ケーザルの軍に抗し、其ゲルゴビヤを防禦せし如き最戦術の術を得しかば、流石のケーザルも其到底降伏せしむるの容易ならざるを思ひ、終に圍を解くの己むなきに至らしめたり、ローマ人のアレシアに敗れし時、衆に代りて捕はれ、ローマに送られ西紀前四五年死刑に處せられたり。

ウエルス Walrus 地名 グレート、ブリテンの三大區劃の一にして、面積七四七〇方哩人口日五十一萬九千あり、北ウエルス、南ウエルスの二に分れ、元はグレート、ブリテンの名のみの皇領地なりしなり。

ウエルス Walrus 地名 グレート、ブリテンの三大區劃の一にして、面積七四七〇方哩人口日五十一萬九千あり、北ウエルス、南ウエルスの二に分れ、元はグレート、ブリテンの名のみの皇領地なりしなり。

ウエルスリー Walkley 地名 マライ半島の西岸に在る英領海峽植民地の一行政區劃上の一州なり。(520N, 10030E)

ウエルスリー Walkley 地名 マライ半島の西岸に在る英領海峽植民地の一行政區劃上の一州なり。(520N, 10030E)

ウエルデル Weider 人名 獨逸の將軍、西紀一八七〇年ナポレオン三世と戦ひ、一軍國を率ゐて、諸處に轉戦し終にストラズブルグを陥れて南進したり。

ウエルト Worth 地名 エルサス州の一邑にして、西紀一八七〇年八月六日プロシア皇太子の率ゆる軍がマクマホンの率ゆる佛軍を破りて大勝を得しは此地の附近なり。

ウエルト Worth 地名 エルサス州の一邑にして、西紀一八七〇年八月六日プロシア皇太子の率ゆる軍がマクマホンの率ゆる佛軍を破りて大勝を得しは此地の附近なり。

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

百十

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

ウエルツワオス Wordsworth 人名 英國の有名なる詩人にして、サワシーに次ぎ欽定詩人となりし人なり(西紀一七七〇—一八五〇)

質物相接し、倒立するものを言ふ。

ウォリック Warwick 地名 パーミンガムの東南アホン

河上に在るウォリック州の首都にして人口二萬一千餘あり、

ゲーサの大塔、ウォリック伯の邸宅等あり、(GOSLON, 1857)

ウォリック Warwick 地名 英國の將軍にして普魯戦争

の時エドワード四世の爲めに破られて殺されし人なり、ソ

ールスマリー伯の長男にて、始めヘンリ大世を擁立してエ

ドワード四世を立て又後、を廢してヘンリを位に復せしか

ばキングメーの綽名を得し人なり(西紀一四二八—一四七

一)

ウォリス Wallace 人名 アルフレド ラッセル、ウォリ

スは英國の有名なる博物學者にして、グーヴィンと同時に

生物進歩論を唱へし人なり、(西紀一八二二年一月八日生)

キ、ワイルム、ウォリスはスコットランドの愛國者にして

獨立の爲に盡したる人なり、(西紀一七四一—一七五五)

レイス、ウォリスはアメリカの將軍にして外交家法律家

なりメキシコ戦争等に從軍したり、著書も數卷あり、(西

紀一八一九—一八八八)

ウォリスはアイルランドの音樂家(西紀一八一五—一八六

五)

ウォルフ Wolf 人名 十八世紀後半に於ける獨逸の博

言學者なり

ウォルフ Wolfe 人名 カロロ ウォルフはアイルラ

ンドの僧にして詩人なり、埋葬なる詩名高し、(西紀一七九

一—一八三三)

ジェームス、ウォルフはマールボロの下に中將たりし英國

の將軍なり、(西紀一七二七—一七五九)

カタリナ、ウォルフはアメリカの慈善家なり(西紀一八二

八—一八八七)

ウォルフ Wolff 人名 クリスチアン、ウォルフはライ

アニツの高足にしてカント以前の獨逸哲學派の祖なりし獨

逸有数の哲學者なり、數學者としても一家をなせり、(西紀

一六七九—一七五四)

アルベルト、ウォルフはドイツの有名なる彫刻家にして、

フレデリック大王、ワイルム二世等其他名士の像を彫刻し

たること多し、(西紀一八一四—一八九二)

ヘンリ、ドルモンド、ウォルフは英國 外交家 政治家に

して、東メリア事件の委員たりし人なり(西紀一八三〇

年生)

ウォルバハムトン Woburn 地名 イギリス、

スタフォード州の一部市にして、石炭、鐵の産額多きを以

て名あり、銃器製造所あり、其他刃物、業鐵等の製出盛な

る

ラストンはイギリスの哲學者にして、倫理學者なり、樂天

主義の正理論を唱へたる人なり、自然宗教なる著あり、

西紀一六五九—一七二四)

ワイルム Waid 人名 ウォルラストンは前者の孫にして、

有名なる英國の化學者及物理學者なり、パラザウム及ロサ

ウムを發見し、光學及電氣學に於ては種々の研鑽を積み、

日光スペクトラム及紫外光線に於ける黒線を發見し、礦物

實驗用具たる反射測角器を發明したる、其貢獻したる所甚

多し、(西紀一七六一—一八二八)

うかいこ 鳥喙骨 動物 鳥類に於て能く發達せる

骨にして胸骨の上端より上膊骨の基部に連る大なる骨なり

人類にては只肩胛骨の前方に一突起として存せるのみ、鳥

類は是により飛行力が多くなるものなり。

ウエリントン Wellington 人名 英國の名將にし

て、西紀一八一五年、ワーテルローに茶室を敗れり。

うかがひ 伺 問ふことの敬語。

うかがふ 窺 一、ひそかに見る、二、機會を待つ。

うがつ 穿 一、脚につける、袴をうがつ、二、秘密を

いひあてる、「真相をうがつ」

うがひ 嗽 湯水を以て口中をすすむること。

うがひぎよせん 鞆阿玉川 人名 府中の藩士、我

○ 中學全科要義 五

ウォルバハムトン Woburn 地名 イギリス、スタフォード州の一部市にして、石炭、鐵の産額多きを以て名あり、銃器製造所あり、其他刃物、業鐵等の製出盛なる

Handwritten notes in the top margin of the left page, including names like 'ウォルバハムトン' and 'ウォルラストン'.

○ 中學全科辭典

國富貴の鼻祖なり、明治十二年五月卒す、年八一、
 うかみ 浮 國 一、うかす、舟をうかぶ、二、思ひ出す。
 うかみ 浮 國 成佛す。
 うかみ 浮 國 烏合之衆 寄り集りの軍勢。
 うかみ 浮 國 地名 英領東部アフリカの一州にして、西紀一八九〇年以來英國保護の下にあり、
 うかみ 浮 國 宇冠 漢字の冠の名、ハ字形なり。
 うかみ 浮 國 血脈の親戚、みより、みうち。
 うかみ 浮 國 源氏節の類、三味線を入れて謡ふ。
 うかみ 浮 國 藝妓娼妓酌婦などの類をいふ。
 うかみ 浮 國 一、釣具の名、小さき木片にて、糸につけて水面にうかべ、之によりて水の深淺及び魚の餌につけるや否やを知るなり、種々の色に塗りて水面にありて見易からしむ、二、錨を下すために浮ぶ木片。
 うかみ 浮 國 心配なことを、うればしきこと。
 うかみ 浮 國 一、水上に浮べる木、二、いかだ、三、佛敎の語、「首龜の浮木にあへるが如し」などといひて佛の道に縁に出遇ふことに喩ふ。
 うかみ 浮 國 水に浮びて生ずる水草の總稱。
 うかみ 浮 國 一、空中にただよ雲、二、定めなく積みたがきことに喩へて用ふる語。

うきしまがいはら 浮島原 地名 駿河國駿東郡にあり、原に沼あり、浮島ゆ又は富士沼と云ふ。
 うきたーいつけい 浮田一恵 人名、京都の人懐慨家。
 うきたーうち 宇喜田氏 姓名 備前の人、兒島高徳の子孫。
 うきたつ 浮立 國 うきくする、面白くなる。
 うきたーひでい 宇喜田秀家 人名 直家の子、秀吉に仕へてより、四國を征し、征西に従ひ、相州を平げ、明を討て功あり、後石田三成等と共に家康と關ヶ原に戦ひ、利わらずして島津家久に捕はれ、八丈島に流さる、薙髮して禿頭と稱す。
 うきーどうーたい 浮燈臺 國 航海に便ならしむるために水上にすま置く燈火。
 うきーな 浮名 國 惡しき評判（事に男女の間に關して）
 うきーね 浮寝 國 一、水上に浮びて寝ること、船の中に寝ること、二、寝ても氣の落ちつかぬこと、三、小唄の名
 うきーはし 浮橋 國 わまのうきはしの略。
 うきーばかり 浮科 國 物理、液體の濃淡の度を簡単に測るために用ふるなり、其種類色々あり。
 うきーひど 憂入 國 われにつれなき人。
 うきーひやう 浮標 國 航路を示し又は水量を計るために

うかみ 浮 國 一、水上に浮べる木、二、いかだ、三、佛敎の語、「首龜の浮木にあへるが如し」などといひて佛の道に縁に出遇ふことに喩ふ。
 うかみ 浮 國 水に浮びて生ずる水草の總稱。
 うかみ 浮 國 一、空中にただよ雲、二、定めなく積みたがきことに喩へて用ふる語。

水中にたてたる木標。
 うきーぶくろ 浮籠 國 鯨どもかく、魚類體 内の背部にあり、空氣を充たす囊、魚は之を伸縮して浮沈するなり。
 うきーぶくろ 浮籠 國 革などにて製し、水泳の時に用ふるきーぼり 浮刺 國 撲撲を高く刺り上げし形り物。
 うきーみ 憂身 國 世に容れられぬ身、零落沈淪せる身。
 うきーめ 憂目 國 心苦しき目にあふこと。
 うきんーかう 香 國 植物、草の名、香氣高し。
 うきやう 右京 國 古、京都の全市は、朱雀大路を界として、東と右京、西と左京と稱せり、右京は當今にては全く田園とせり。
 うきやうーし 右京職 國 右京の宅ノ戸籍租調課證等を掌りし役所なり、左京職も同じ。
 うきやう 雨脚 國 あまわし、雨の降り来る貌。
 うきよ 憂世 國 うきふし多き世、面白からぬ世。
 うきよ 浮世 國 浮きて定めなく頼みす、なき世。
 うきよ 右京 國 桓武帝の平安に都を奠め玉ふや、朱雀門より南端羅城門に逼する朱雀を界とし、其東を右京と言ひ、右京職之を管す。
 うきよ 紆曲 國 まはり遠きこと。
 うきよ 浮世繪 國 江戸繪、錦繪の類にて、役者の似

顔、武者繪などをかく、岩、又兵衛の畫風なり。
 うきよーぢうし 浮世草紙 國 元祿以後大に行はれたる小説なり。
 うく 受 國 一、贈ひ戻す、二、收むる、三、蒙る、被る。
 うくひ 石斑魚 國 動物、いくひ、わかばら、うごひ。淡水魚にして、形あめの魚に似たり。
 うくひす 鶯 國 動物、鳴禽類、黃鳥、金衣公子などの異稱あり、形小さく、羽毛灰黄色にして、囀聲美なり、故に人家に飼養す、古來梅と關係して詩客歌人の歌ふ所なり。
 うくひすーさう 鶯草 國 植物、草の名なり、水色の花さく、葉は廣くして毛あり。
 うぐひすーな 鶯菜 國 植物、こまつなの類なり。
 うぐひすーのふん 鶯糞 國 鶯の糞にて製したるもの、皮膚と白くはつややかならしむる効ありといふ。
 うぐひすーまゆ 鶯眉 國 徳川時代に流行せり。
 うぐひすーもち 鶯餅 國 餅菓子的一種、中にあんをつめ鶯の形にさせて、外部にあごきなこをふりかけしもの。
 ウクライナ Ukraine 國 地名 ロシアの一州にして、ドニエプル河に沿ひたる地方なり、元歐羅巴露西亞波瀾に對する邊境地たり。

うかみ 浮 國 烏合之衆 寄り集りの軍勢。
 うかみ 浮 國 地名 英領東部アフリカの一州にして、西紀一八九〇年以來英國保護の下にあり、
 うかみ 浮 國 宇冠 漢字の冠の名、ハ字形なり。
 うかみ 浮 國 血脈の親戚、みより、みうち。
 うかみ 浮 國 源氏節の類、三味線を入れて謡ふ。
 うかみ 浮 國 藝妓娼妓酌婦などの類をいふ。
 うかみ 浮 國 一、釣具の名、小さき木片にて、糸につけて水面にうかべ、之によりて水の深淺及び魚の餌につけるや否やを知るなり、種々の色に塗りて水面にありて見易からしむ、二、錨を下すために浮ぶ木片。
 うかみ 浮 國 心配なことを、うればしきこと。
 うかみ 浮 國 一、水上に浮べる木、二、いかだ、三、佛敎の語、「首龜の浮木にあへるが如し」などといひて佛の道に縁に出遇ふことに喩ふ。
 うかみ 浮 國 水に浮びて生ずる水草の總稱。
 うかみ 浮 國 一、空中にただよ雲、二、定めなく積みたがきことに喩へて用ふる語。

中學全科辭典
 二百四十九

(2,1) = 14c 43 (12, 19) 4148
20.3.18
10:9
5:5

7-1677

○ 中野全形類典 5

二百五十三

うし 雨師 雨の神、風伯雨師をいふ。

うし 大人 一、貴人又は師匠などの敬稱、二、書牘文に宛名の下に添ふる語。

うし 憂 一、心を苦し、二、うるさいの俗言におなじ。

うし 蛆 動物、蠅の幼虫をいふ、一端は尖て一端は切りたるがごとし、灰白色にして、長さ三四分、後には尾を生じ、蛹となりて蠅に羽化す。

うし あはせ 鬮牛 牛の角つき、牛と牛とを闘はせて其勝負を見る鬮。

うし うじと 遊巡 一、くづくづと、もちもちと、二、うさめひて居ること。

うし うま 牛馬 大隅地方に産する馬の一種にして、首は馬に似、體は牛に似たり。

うし たふもの 牛追者 鎌倉武士の間に、行はれし遊戯にして、牛を放ちて、馬上より射を行ふなり、以て、尙武の氣風を養へり。

うし かつ 牛方 一、牛車の牽領を業とするもの、二、牛を使ふ人。

うし かわ 牛飼 牛を飼ひ、又は使ふもの。牛飼童に至るまで。

うしかひば 牧牛場 牛を飼ひ置く場處。

うしき 有識 阿闍梨などの僧侶をいふ。

うしじく 羽軸 動物、鳥の羽の軸なり。

うしぐさ 牛草 植物、草の名。

うしくすし 牛醫 牛の病氣を療する醫師。

うしぐるま 牛車 一、牛にひかする車、古、貴人有司などの乗りしもの、二、牛のひく荷物車。

うしごめく 牛込區 地名、東京市十五區の一、て牛を屠ることを業とする人をいふ。

うしころし 牛殺 食用に供する牛を殺すこと、轉じて牛を屠ることを業とする人をいふ。

うしざき 牛製 古代の刑罰の名、罪人の四肢を四頭の牛に結びつけ、牛に負はせたる薪に火をかけ、牛は其あつさに堪へずして、縦横にかけ出さんとし、從て人の身體を四つにひき裂くなり。

うしたき 牛瀑 瀑の名、和泉國和泉郡に在り、この瀧のある山を、牛瀧山といふ。

うしつぎ 牛附 牛にかひに同じ。

うしつつき 動物 アフリカ南部及西部に産する鳥、よくムクドリに似て、牛の背に止まり、之に寄生するアアの仔蟲を喰食するものなり。

うしごら 丑寅 方向の名、東北の隅、鬼門、長位、うしごら 宇品 港名、安藝國廣島の海岸にある港。

○ 中野全形類典 5

二百五十二

うさ 宇佐 地名、豊前宇佐郡にあり、宇佐八幡の鎮坐の社あり、官幣大社宇佐宮と言ふ、神護景雲三年清原此地に來り神託を受けたり。

うさい 有罪 罪あること。

うさい 烏原園 藥の名。

うさうさ 瑞福 瑞福園 うようよとに全じ、虫などのうさめくさまをいふ、俗語。

うさうさ 有象無象 世に有らゆるもの、かたちあるものかたちなきものすべての意、即、森羅萬象。

うさうさ 有象無象 ことごとと、澤山あるもの。

うさうさ 兎 動物、齧齧類、山兎、熱兎の別あり、性質怯懦にして多く山野に生息す、前肢は短小、後肢は長大故に坂路を走るに適す、目赤く、耳長し、其肉は食用に供すべし、其毛は筆につくる。

うさうさ 驢 動物、奇蹄類、耳殻長くして尾は細長なり死に似たるを以て此名あり、普通の馬よりも稍小さく、全身暗褐色なり、性質遲鈍なれども、物を負ひて人力をたすく、我國には極めて少し。

うさうさ ばね 兎跳 身を風し足に力をこめて跳ぬること。

うさうさ みるみ 兎耳 一、耳のながきことをいふ、二、他人の秘密をさぐり出すに巧なる人をいふ。

うさうさ はちまんぐう 宇佐八幡宮 神社の名、官幣大社宇佐神宮なり、和銅年間の創建にて、譽田別尊、比賣神、大帯姫尊を祭る、豊前國宇佐郡宇佐町に在り。

うさうさ はらし 豐收 さまはらし、豊收をやること。

うさうさ さたゆき 宇佐美定行 人名、上杉氏の宿將なり、資性謹嚴、書を好み、兵に通じ、常に參謀たり。

うさん 胡散 うるん、怪しむべきこと。

うさん がほ 胡散願 不審らしき顔つき、不安心なる様子。

うさん くさし 胡散臭 怪し、訝かし、合點しがたしうさんらしにれなし、俗語。

うし 牛 動物、反芻類、頭に兩角あり、身體肥満して脚短く、尾は細長なり、胃は四室に分れ、一旦食物を咀嚼して、嚥下し後更に之を精嚼す、故に反芻類の名あり、力強くして、よく物を負ひ、車を曳き、又耕作の助をなす、肉及び乳は滋養となり、皮骨角蹄みな用途あり。

うし 丑 十二支の一、二、方角の名、北北東、三、昔の時の名、今日の午前二時にあたる。

うし 羽枝 動物、鳥類の翼の羽軸より出づる枝をいふ、うまうを見よ。

うしなふ 失 一、無くす、二、死別れとなる、三、通常ならぬやうになる、一色を失ふのたとし。
 うしに あせしむ なき一にみつ 汗牛充棟 蔵書の多きをいふ、牛の汗を出して、あへくはど、又、棟に達するほど澤山書を蔵する意なり。
 うしぬすびと 牛盗人 動物、いしよしの異名。
 うしのこづの 牛角 牛の角の中にある、堅き骨なり、薬となるといふ。
 うしのさうめん 牛索麵 植物、草の名、ねなしかづらにたなし。
 うしのした 牛舌 西洋料理にて珍とす。
 うしのちち 牛乳 牝牛の乳、頗る滋養物なり、みるく等をも製す。
 うしのつのがひ 牛角貝 動物、貝の名にして、其形状、恰も牛の角に似たり、色は概ね白し。
 うしのつのもじ 牛角字 五の字をいふ。
 うしのとき 丑時 昔の時の名、今日の午前二時、
 うしのときまわり 丑時参 夜、丑の時刻に、神佛にまわり、祈願するなり、怪氣深き婦女が悪くしと思ふ男女を、のろふためなり。
 うしのはこほれ 植物、仙人掌にたなし。

うしのめいし 牛目石 礦物、青黒色の石にして牛の目に似たる白色の點あり。
 うしはく 領 我がものとする、占有、古語。
 うしはへ 牛蠅 動物、牛に寄生する蠅にして、大五分ばかり、體に細毛を有し、翅は褐色を帯び、雌の尾端には硬き産卵器あり、之を以て牛の皮膚中に孔を穿ちて産卵す、二翅類に屬す。
 うしほ 潮 一、海水の日月の引力のために干満すること、二、海水の稱なり。
 うしほかせ 潮風 霧の如き潮水を交へたるかせ、俗にしかせといふ。
 うしほだたかのり 潮田高敷 人名 赤穂四十七士の一人、原田村右衛門ともいふ、元禄十六年二月、義に死す。
 うしほに 潮煮 料理の語、吸物の一種。
 うしほぼづき 牛酸 植物、草の名。
 うしほりう 潮流 尾州家能留の一流なり。
 うしほまつり 牛祭 山城國太秦の廣隆寺に於て、陰曆九月十二日の夜に行ふ祭、僧を牛に乗り、種々の戯れなす、此寺は聖徳太子の創建する所なり。
 うしほみつ 丑満 一、今の午前二時、二、深更。
 うしむし 蛆虫 動物 うじにたなし。

うしん 有心 心あること、情あること。
 うじん 右衽 元正天皇の養老元年制定せられたる服制なり。
 うしや 牛屋 一、牛を飼ひ置く家、二、牛を賣買する人、三、牛肉を販賣する家、牛肉屋。
 うしや 巧者 ぬりもの師をいふ、左傳註「塗者也」。
 うしや 烏蛇 動物、からすへびにたなし。
 うしやう 右相 うふを見よ。
 うしやう 有情 佛語 生きて情あるもの、人類は勿論、草木までも含む。
 うじやうじやう 一、小さき虫などの氣味わるきはと多く居るを形容する語なり、二、下手な物語を、くだらなく、つづくるを形容す。
 うしやうこく 右相國 うふ、を見るべし。
 うじやくけう 烏鵲橋 かささぎの橋にたなし。
 うしやめほし 危宿星 星の名 二十八宿の一。
 うしゆうぶきやう 羽州奉行 足利時代、出羽に置かれたる官。
 うしろ 後 一、前の反對、あと、二、背後、せなか、
 うしろあし 後脚 四肢動物の うしろの足。
 うしろあはせ 後合 せなか合せ、互に背と背とを合はすること。
 うしろいぶせし 行末安心ならず、未來のことが氣にかかつて心安からず。
 うしろなし 後押 一、かげになりて助くる人、二、おとれし、後より押すこと。
 うしろかけ 後影 行人のうしろ姿。
 うしろがみひかる 思ひきれず、後がみをひかるるやうに思ふ、人に別れる時などにいふ。
 うしろがろし 後輕 しろろやすし、にたなし、思ひのことなきをいふ。
 うしろぐらし 後暗 一、俗に、うしろぐらい。
 うしろげざに 後袈裟 袈裟をかけたたる如く、背後より、斜に斬りさぐるにいふ。
 うしろごご 後言 かげごと、かげにてぞしる。
 うしろさし 後挿 女の髪の後方にさす簪。
 うしろだて 後櫛 一、背後の防禦として、櫛にとるもの、二、表たすして 援くる人、黒幕、後援。
 うしろで 後手 一、背後、二、両手を背にまはすこと、「後手にしはる」などにいふ。
 うしろはば 後幅 戴冠の語、背中のぬひ目より、わきのぬひ目までの幅。

うしろべたし 後痛 ㊦ うしろめだし、にたなし。
 うしろまき 後巻 ㊦ 敵を後よりまく勢をいふ。
 うしろみ 後見 ㊦ 後に居て他を扶助すること、從て後見人といふ意に用ひらる。
 うしろめたし 後痛 ㊦ 後の方が氣にかかる、こゝろもどなし、うしろぐらし。
 うしろやく 後厄 ㊦ 厄年の次の年、俗に、あとやく、うしろやくし 後安 ㊦ 氣がかりなし、むどに心のこりせず、心配なし。
 うしろゆび 後指 ㊦ 人の後をゆびさしてせしめること、「うしろ指をさす」。
 うす 白 ㊦ 穀類を精白にし、物をくたくさす、多くは木にてつくらる。
 うす 失 ㊦ 一、俗に、うせる、二、死す。
 うす 薄 ㊦ うすき意を示す語、「うす桃色」「うす茶」。
 うす 髻華 ㊦ 古代に於ける、髪のかざり。
 うすあかり 微明 ㊦ 微かに明るきこと、(空などの)
 うすあばた 薄痘痕 ㊦ あばたの甚だしからぬもの。
 うすい 雨水 ㊦ 地文二十四節の一、陰曆の正月の中なり
 うすいし 白石 ㊦ 白形の小石なり。
 うすいろ 薄色 ㊦ 一、縹色の一、二、うすむらさき

のぞめ方、三、縹の色目の名。
 うすうす 薄薄 ㊦ はのかに、いくらか、多少。
 うすうす 薄葉 ㊦ 紙の名、鳥の子又は雁皮紙の、極めて薄く漉きたるもの。
 うすがすみ 薄霞 ㊦ 一、うすき霞、二、目まどの、うすく霞むこと。
 うすがね 薄金 ㊦ うすき金にて作りたる 鏡の一種、源氏重代の鏡の名。
 うすき 薄着 ㊦ 時候不相當なる、うすき衣服を着ること。
 うすきぬ 薄衣 ㊦ 羅紗の衣、夏用などに用ふ。
 うすきぬ 薄絹 ㊦ 一、紗にたむし、二、うすき衣。
 うすくも 薄雲 ㊦ 動物、貝の名。
 うすくも 薄雲 ㊦ 微雲、うすき雲。
 うすくもり 薄曇 ㊦ ぼんやりせる天氣。
 うすくらし 薄暗 ㊦ 俗に、うすくらし、少しくらし。
 うすけしやう 薄化粧 ㊦ 淡白に化粧すること。
 うすこうばい 薄紅梅 ㊦ 植物、梅の一種、淡紅の花咲くなり。
 うすざくら 雲珠櫻 ㊦ 植物、櫻の一種にて、淡紅の花開く、山城國鞍馬山にゐるもの、最も有名なり。

り其土を併せしが、後、漢に降りぬ。
 うろりやま 宇曾利山 ㊦ 山の名、陸奥の恐山の別稱、
 うた 歌 ㊦ 一、詩想を、あらはすもの、二、三十一文字三、音節を入れて、うたふもの一切。
 うたあはせ 歌合 ㊦ 詠み人を左右に分ち、判者ありて其優劣を定むる遊戯にして、初は宮中に行はれしが、後には、公私共に之を行ふに至りぬ。
 うだい 宇内 ㊦ 天が下、天地乾坤。
 うだいし 右大史 ㊦ 右大辨と共に、右大臣に屬し、文書記録を司る。
 うだいじん 右大臣 ㊦ 左大臣の次に位し、衆務を處理し、三公の一なり。
 うだいしやう 右大將 ㊦ 右近衛大將の略。
 うたいのみ 有待の身 ㊦ 凡夫の身といふにたなし、老少不定の意なり、佛敎の語。
 うたいべん 右大辨 ㊦ 官名なり、右大臣に屬す、うべんくわん、を見よ。
 うたうたひ 歌謡 ㊦ 巧みに歌をうたふ人。
 うたうら 歌占 ㊦ 歌を以て、吉凶を判定するなり、
 うたがき 歌垣 ㊦ 古、男女一處に相集まりて、歌を唱ひ、舞踏して遊びしこと、今日、地方に行はる、盆踊りは

之より出でしものなりといふ。
 うたかた 泡沫 ㊦ 一、水上に出来るあわ、二、轉じてはかなきことに用ふる語。
 うたかたの 泡沫 ㊦ きなやすき、にかけていふ。
 うたがたり 歌語 ㊦ 一、歌に関する物語、二、歌につきて書ける漫筆の類。
 うたがはくじまき 歌川國政 ㊦ 人名、有名なる浮世繪師にして、文化七年十一月歿す、年三十八。
 うたがはけんすい 宇田川孝隨 ㊦ 人名、槐園と號す、名は晋、津山藩の醫師、蘭學に長せり、寛政六年十二月歿す。
 うたがはとよくに 歌川豊國 ㊦ 人名、一陽齋と號す、最も風俗畫を得意とす、文政年間歿す、年五十六。
 うたがはし 疑 ㊦ 不審なり、いふかし、あやし。
 うたがはようあん 宇田川榕庵 ㊦ 人名、江戸の人、始めて、西洋植物學、及び、化學を唱へし人なり。著書には植物啓原、舍密開宗あり。弘化三年卒す。
 うたがふ 疑 ㊦ あやしむ、訝る、不審に考へる。
 うたがふらくはこれ さんかのさうてんよりたつるかーと 疑是銀河落九天 ㊦ 李太白、廬山の瀑布をよめる詩の一句なり、天の川の、天空より落ち來るかと、疑はるの意。

うたがらた 歌骨牌 歌人集まりて、歌の下の句を、かきたるものを、ならべ置き、上の句をよむに從て、これを拾ふ遊戯、多くは百人一首の歌なり。

うたぐりこつ 烏啄骨 動物骨の名、鳥類によく發達せる骨にして、胸骨の上端より、上膊骨の基部に連る大なる骨なり、翼を動かすに緊要なるもの。

うたぐせ 歌辭 一、和歌を詠することと好むこと、二、其よみ方に辭のあること。

うたぐち 歌口 一、歌體、二巧によむこと、三、拙劣なる和歌。

うたぐつ 歌屑 拙劣なる和歌。

うたぐる 疑 一、うたがふ、にたなし。

うたげ 酒宴 拍上の略にて、掌をうちあけて、興するの意、さかもり、宴會。

うたげんじ 宇多源氏 宇多天皇の皇子、敦實親王より出づ、敦實の子、雅信、始めて源氏を稱し、支流多し。

うたごとは 歌詞 歌のみに用ふる語、韻語。

うたごぞ 歌好 一、好んで和歌を詠する人、二、端歌、部々一、などを好む人。

うたた 轉 一、うたて、にたなし、二、漸次に、次第に、ますます。

うたたね 轉 一、假名、かりそめにねること。

うたづか 歌塚 塚の名 大和國添上郡櫻木村にあり 柿本人麿の墓なりといふ、其故は、藤原家隆の猶みたる柿本講式に、青陽の春の花に、無常の雲一たははひ、黄腸の秋の露に、別離の嵐長く吹いて、大和國添上郡石上寺のほとり、沿道の森の中に、一の草堂を建て、爰に柿本を葬す」とあるに基く。

うたづかさ 雅樂寮 一、うたれうにたなし。

うたて 轉 一、甚しく、二、なみなみならず。

うたてし 轉 一、甚しく、二、面白くなし。

うたてんわう 宇多天皇 御父は光孝天皇、人皇六十代の帝、在位十年、承平元年崩す、御年六十五。

うたてんわうじつろく 宇多天皇實錄 書名、林道春の著なり。

うたぬし 歌主 和歌の作者、よみて。

うたのくわい 歌會 歌人集りて歌をよむ會。

うたのなやかやませいかんじ 歌中山清閑寺 京都東山に在り、延暦十一年、紹繼法師の創建にかかる。

うたのはま 歌濱 地名 下野國都賀郡、中禪寺湖の南にあり。

うたひ 謡曲 能楽に合せて詠ふもの、觀世、寶生、金春、喜多、などの諸流あり。

うたひぢめ 謡初 徳川時代に、正月始めに、殿中に催せし式。

うたひびと 歌人 巧に歌をよむ人。

うたひひめ 歌女 歌をうたふ女、藝妓。

うたふ 歌 音聲に抑揚をつけて、思想をいひあらはすこと、吟ず。

うたまくら 歌枕 歌によみ込むべき名所。

うたよみ 歌人 一、和歌をよむ人、二、上手に和歌をよむ人、よみて。

うたよみどり 歌詠鳥 一、うぐひす、の別名なり。

うたむら 字・村 地名 大和宇陀郡の地、神武東征の途、兄背を誅し、弟背を以て縣としたる所。

うたれう 雅樂寮 樂曲に關することを掌りし役所。

うたろぎ 歌論議 歌の巧拙を論ずること。

うたに 歌繪 歌の文字を繪にかきたるもの。

うち 内 一、外の反對、二、間、三、近きうちに來る三、及ばぬ時、以内。

うち 内 一、内裏、禁裡、二、天皇の敬稱、三、妻が夫のことをいふ時、夫が妻のことをいふ時、に用ふることあり、四、我が住家。

うち 打 かるたわそびの語。(花ふだなど)

うち 打 語氣を強むるために用ふる語にして、別に意義なきなり、「打立つ」「打放つ」。

うち 氏 古往、種族を分つために用ひたる稱にして、同族の義なり、大伴、物部、蘇我、降りては、源平藤橘のごとし、後、氏と姓と同一に用ひられ、中古以後に至て同姓の中を分ちて、此稱を用ひ、多くは其住所によりて、名づくるに至りぬ、徳川氏足利氏のごとし。

うち 宇治 地名 山城久世郡にあり、茶の名所なり、源平、南北、承久等の亂此地にありき。

うち わかす 打明 腹藏なく露く語る、秘密を包まずかくさすに語る、俗に、うちあける。

うち あく 打上 一、上方に打つてあぐる、二、手をうちて酒宴に興する、三、波濤の陸におがること。

うち あげ 一、うたげ、にたなし、二、着物の縫ひ方裏の見えざることに、縫ひあけをなすをいふ。

ウチアナ 烏伎那 地名 北インド古代ルナー種族の王國。

うち あはず 打合 一、打ち合ふ、二、前以て相談して置く、豫め交渉し置く。

うち あはせ 打合 一、打ち合ふこと、二、前以て相談又は交渉すること。

うちあひ 打合 一、互に打ち合ふこと、二、砲戦。
 ウチアン Wu-chang 武昌 地名 清國湖北省の首府にして、湖廣總督の所在地なり、近傍に赤壁あり。
 (30.33N, 114.27E)
 うちいでーのーはま 打出濱 地名 近江國滋賀郡にあり、古來有名なる濱なり。
 うちいり 内入 一、負債の幾分を返却すること。
 うちう 宇宙 一、天地間、又、世界、淮南子に、往古來今謂之宙、四方上下謂之宇。
 うちうちーに 内内 表だたすに、俗に、ないないに。
 うちうみ 内海 一、内地に入りこみたる海、入江、二、湖。
 うちーうら 内奥 一、衣服の裏地、二、内部。
 うちーたごす 打落 一、たたく落す、二、斬り落す。
 ウチカ Uchika 地名 北アフリカにある元のチヤアの一帯民地なり、西紀前四六年少カトー此地にて自決を遂げたり、カルタゴ滅しの後、繁榮せしか、後羅馬の一市となれり、四三九年バンダール人に苦しめられ、七百年頃サラセン人により苦められたり。
 うちーかけ 打掛 一、古の武將の禮裝、二、婦人の禮服、儀式の時、帯の上のうちちかくる小袖をいふ。
 うちかた 打方 砲銃を放つこと、號令に「打方止め」
 うちかた 内方 他人の妻女の敬語。
 うちがね 打金 小銃の弾き金、錫頭。
 うちがは 内側 裡面。
 うちがは 宇治川 川の名 近江國琵琶湖より流出して、大阪灣に注ぐ、上流を勢多川、中流を宇治川、下流を淀川と稱す、佐々木高綱と梶原景季とが、先登をわらそふて、馬を乗り入れし川なり。
 うちかぶと 内胃 胃のうちらを云、麻などにて作る。
 うちかぶとーをーみる 内胃を見らる 内胃を見すかざるといふ、他人に自己の弱點を看破されしをいふ。
 うちがへ 袋 一、長き袋にて、両端に口あり、金銭などをに入れて腰につくるなり。
 うちかへし 打返 田畑を打ちかへすこと。
 うちかへす 打返 くりかへす、にれまじ。
 うちがみ 氏神 同系一族にて祭る神なり、轉じて、後世は、産土神のことに用ふ。
 うちき 内氣 一、控に於ける氣質、二、慮がちなること、
 うちさす 打傷 打ちて傷けたる傷なり。
 うちさぬ 打衣 女の單衣又は「あこめ」などの上に着るもの、枕草紙に「いと、つややかなる打衣の 露に

たくしめりたるを」
 うちきみ 内君 うちかた、奥方、人の妻の敬稱。
 うちきん 内金 支拂金の幾部分、手附金にれまじ。
 うちくつろぐ 打寛 うちとくにれまじ。
 うちけし 打消 一、打ちけすこと、二、文法上に於ては、否定、然らずといふ意を示すもの。
 うちこ 氏子 氏神の末裔の義なり、今日は、産土神の守護の下にある人々をいふ。
 うちしふゐーものがたり 宇治拾遺物語 源隆國の撰なり、後冷泉院の時権大納言たり、宇治に居る、世人の談話を筆記して、今昔物語、宇治拾遺物語等を作る。
 うちすう 打掃 一、たたく倒す、俗に、うちすゑる。
 うちだいーなごん 宇治大納言 人名 源隆國なり、其著、宇治拾遺物語、今昔物語、などあり。
 うちだし 打出 一、打ち出すこと、二、金具の模様を裏より表に打ち出したるもの、三、角力などの終り。
 うちーちや 宇治茶 山城國宇治より産出する茶、日本第一の良品と稱せらる。
 うちーちらす 打散 一、ちらす、にれまじ、二、敵を敗走せしむること。
 うちつけーに 打附 一、にわか、直に。
 うちつけーめ 打附目 一、ふと見たる目、俗に、一寸見。
 うちつーものーのーべ 内物部 一、上古、宮中を護りし武士、物部は、後に氏となれり。
 うちーでーのーこつち 打出小槌 大黒天のもてる小槌にして、財寶を打ち出すことを得といふ。
 うちーでし 内弟子、門下生。
 うちーどく 打解 一、互にへだてなく交はる、二、油斷す。
 うちどけーごと 打解事 一、損喪なること。
 うちどど 宇治殿 人名 藤原頼通をいふ。
 うちどーのーふみ 内外書 佛教の書と儒學の書。
 うちどーのーみや 内外宮 伊勢の内宮と外宮をいふ。
 うちどめ 打止 一、興行のをはり、千秋樂。
 うちならし 替 樂器の名。平たき石又は銅をつるし置きて、之を打ちならすなり。
 うちにーかへりみてーやましーからす 内省不疚 一、良心に耻づる如き言なきゆゑ、何も心配なしとの意。
 ウチ子 Uchiko 地名 北緯四六、五、東經一三、四〇イタリヤの東北部にある州の名、面積二五四一方哩、人口五千餘萬あり。首府をウチ子といふ、人口三萬餘。
 うちーの 内野 地名 大内野の舊地なり、今の京都市

上京區の西北にあたる。天正十三年、秀吉此地に聚樂の第を起しぬ。

うちの一あきさち 宇治源左府 人名 藤原頼長の異名なり。

うちのたほたみ 内大臣 図 ないだいしん、にれなし。

うちのいかみ 氏上 図 うちのちやうじや、にれなし。

うちのくく 内蔵 図 三藏の條を見よ。

うちのくわんはく 宇治關白 人名 藤原頼通が、宇治莊に屏居して後の稱なり。

うちのちやうじや 氏長者 図 諸氏の中にて宗家たるものの稱、後には同族中、官位威望共に高きものに當れり、徳川家を源氏の長者といふが如し。

うちのどうじよう 内道場 図 聖武天皇の設けし所、帝大に佛法を信じ、内道場なるものを建て、佛を祈られたる所なり。

うちのわかいらつこ 菟道稚郎子 人名 仁徳帝の弟、帝に天位を譲らんがため、自殺せられぬ。

うちは 團扇 図 扇に似て圓きもの、風を起すために、用ふるもの、深草團扇、名古屋團扇、などの種類あり。

うちはいび 團扇蝦 図 動物 てながいび、の異名。

うちはし 打階 図 かりに架けたる橋にして、自在に取

りはづし得るもの。

うちはだいこ 團扇太鼓 図 うちの如き形の太鼓なり。日蓮宗信徒の題目を唱ふるときに打つもの。

うちはちもんじ 内八文字 図 遊女などの、練りあるく時の、あゆみ方にして、八の字の如くわゆるあり。

うちはふく 團扇河豚 図 動物 魚の名、ふくの一種。

うちはらふ 打拂 図 一、掃ふ、二、砲撃す。

うちひも 打紐 図 糸にて組みたる紐、まるきものと、平たきものと、一種あり。

うちぶ 打歩 図 手敷料、まじきん。

うちぶどころ 内櫃 図 一、内の方ふどころ、二、他人の秘密。

うちぶみ 内文 図 秘密の手紙、密書。

うちぼり 内濠 図 城の内のはり。(外濠に對して)

うちまく 内幕 図 内情、俗に、ないまく、といふ。

うちまたがうやく 内股膏藥 図 内股につくる膏藥は、左右双方の股いづれにもつきやすし、此の意義よりして、甲乙双方につく人を、罵る語となれり。

うちまいり 内參 図 宮中に參内すること。

うちみ 打見 図 外部より見し有機、外視。

うちみつ 打水 図 炎の日に涼をとるために、まく所

の水。

うちむらさき 内紫 図 植物の名。

うちもの 打物 図 一、刀劍、兵器、二、菓子的一種、三、つづみの類。

うちもちす 討漏 図 殺し損ずるをいふ。

うちやうてん 有頂天 図 一、天の最も高き處、佛語、二、或事に心を奪はれて、一切他を顧みざる有様。

うちやぶる 打破 図 一、やぶる、にれなし、二、敵を敗走せしむる。

うちやる 打遣 図 捨て置く。

うちゆう 雨注 図 雨の如くに注ぐこと、「彈丸雨注」又「彈丸雨飛」

うちゆうじやう 右中將 図 右近衛中將、の略なり。

うちゆうべん 右中辨 図 官名、右少辨、右大辨、どならび存せり。

うちよす 打寄 図 一、涙のよせ來ること、二、敵兵の進撃し來ること。

うちろんぎ 内論議 図 正月宴會の終に、天皇の前にて經をよむこと。

うちわ 内輪 図 一、親戚、みうち、二、同類、同志、二、うちうちにして他人に明かさぬこと。

うわ 内譯 図 全額のうちを小分けして其理由を記すこと。

うわわたり 内邊 図 大内裏、禁城、にれなし。

うわもめ 内輪揉 図 家内の争、仲間の紛議。

うわむ 打纏 図 うちひも、にれなし。

うわむ 打纏 図 気が晴々とせぬこと、俗に、ふさぐ。

うつ 打 図 一、たたく、二、立む、三、放つ、發す、四、批難す、非をならす、五、勝負事をやる。

うつ 珍 図 賞する意。

うつ 渦 図 きりきりと、まはりて流る、水、「渦をまく」

うつ あう 図 ひし曇きこと、あつくるしきこと。

うつ いう 圖 憂 圖 ひすばる、靚 不平、ふさぐこと。

うつ いう 圖 憂病 圖 病名、氣力衰へて、萬事に悲觀し、快眠し能はざるなり。

うつ いう 圖 鬱鬱 圖 一、快々たる靚、二、草木の繁茂せるをいふ、「鬱々鬱々然」鬱鬱。

うつ かひ 圖 鶴使 圖 鶴飼を業とする人。

うつ ぎ 圖 空木 圖 植物 幹は中空にして、其實堅し、鋸齒狀の葉對生し、初夏の候 花さく。

うつ ぎ 圖 卯月 圖 陰曆四月のこと、うのはなのさく月。

うつ ぐ 圖 空 圖 一、内の空處になる義、二、心を空ふ、

うつく 疼 痛 づきつきと痛む。
 うつく 美 麗 一、奇麗なり、うるはし、二、いさまよ
 うつくし 愛 愛 かはゆ 思ふ。
 うつくしむ 愛しむ 愛 いたくしむ、といふもたなし。
 うつくす 風 風 氣のむすばる、こと、風托。
 うつくまる 聯 體をかめ居る。
 うつけ 空 虚 一、中空、二、茫然たる貌、衷心、三
 うつけもの、の略、痴漢、たはげもの、まねけもの。
 うつこ 電 子 電 子 うつつと、にたなし。
 うつこさん 電 散 氣はらし、電を散ずること。
 うつし 寫 一、うつすこと、二、寫し取りたる書畫。
 うつしごころ 願 心 願しき心、夢心地の反對にして
 は、きりとせし心地をいふ。
 うつしごの 假 殿 神宮造營の時などに、假りに神體
 を遷したく殿堂なり。
 うつしびと 現 世 人 一、凡夫、二、通常の人。
 うつしみ 現 身 現世の人の身軀。
 うつしもの 寫 物 一、かきうつすべきもの、寫本、
 二、模造品。
 うつしゑ 寫 繪 かげゑ、にたなし。

うつす 寫 一、書畫をうつし取る、二、模造す。
 うつす 移 一、物の位置を變更す、二、すさす。
 うつす 映 影などを現はすこと。
 うつせみ 空 蟬 一、蟬のぬけがら、轉じて、單に、
 蟬其物をもいふ、二、世又は命などの枕詞。
 うつらみ 願 身 うつしみ、にたなし。
 うつらうし 體 心のむすばれたるをいふ。
 うつたかし 推 高く積りてあり、積み重りてあり。
 うつたふ 訴 一、正邪曲直を決するために、法廷に其
 處決を願ひ出づる、告訴す、二、不平をいふ、三、終にそ
 のことに及ぶ、干戈に訴ふ。
 うつたへ 訴 俗に、くじといふ。
 うつたへに 只 管 一向に、ひとむきに、ひとへに。
 うつつ 現 一、現世、二、有頂天になること、即一切
 他を顧みず、一事に熱中すること。「現をぬかず」
 うつて 討 手 従はざるものをうつ兵、追討兵。
 うつてかはつて 打 變 一變して、反對に。
 うつてがへ 打 手 替 一、替ること、二、圍碁の語、
 他の一目を取れば、却て自己の石を取らるること。
 うつどり 恍 惚 氣を取られて、茫然たる貌。
 うつのお 諾 承諾す、承知す、肯んす。

うつりのみや 宇 都 宮 地名 下野國第一の都會にし
 て、人口三萬餘、もと月田氏の藩地。
 うつのみやさんつな 宇 都 宮 公 綱 人名 初め北條氏
 に屬して、官軍に抗せしが、尊氏叛せる時、新田義貞に従
 へり、正平年間卒す、年五十五。
 うつのやま 宇 津 山 地名、宇津谷嶺と稱す、駿河
 國安倍郡にあり、東海道國道に横はる、今日は隧道にて
 通るなり、楓などの名所にして、古歌にも屢々詠せらる。
 うつのみやうち 宇 都 宮 氏 姓名 中原宗忠の子、僧
 宗圓の弟なり、宗圓下野宇都宮の座主となる、子孫宇都宮
 を稱す、後盛となり、鎌倉幕府時代關東八將を以て推さる
 うつのみやさんあん 宇 都 宮 通 庵 人名、周防の儒者
 寛永六年五月歿す、其著に日本人物史あり。
 うつは 器 一、物を入れるもの、二、道具、三、器量
 うつはもの 器 物 うつはに全し。
 うつばり 梁 はり、の古語。
 うつぶん 體 體 晴れぬ遺恨。
 うつぼ 罪 動物 魚名、はも、に似たるもの。
 うつぼ 鞞 鞞 羊又は毛皮
 にてつくり矢を容る、器
 うつぼいちぢい 鞞 鞞

植物、草名、いちぢい一種なり。
 うつぼから 猪 籠 草 植物、猪籠草科、Nepenthes
 Rafflesiana Jack. 種類多し、葉は一半は變じて、瓶子と
 なり、其中に液を貯ふ、小動物此中に入れば、再び出るこ
 とを得ず、植物は之を消化吸収して養分となす。
 うつぼがひ 靱 貝 動物、貝の名、螺の一種にして、
 蝸牛に似たり。
 うつぼくさ 靱 草 植物、唇形科、草名、多くは路の
 旁に生ず、花は深紫にして、稀に白色のものあり。
 うつぼころも 空 衣 昔の衣服、素絹の類なり、
 うつぼつ 靱 勃 不平、心中にわだかまる思、
 うつぼぶね 空 船 大木をえぐりて造りし舟、丸木舟。
 うつぼものがたり 宇 津 保 物語 書名 二十卷あり、
 作者未詳、我國に於いて、最も古き物語なり。
 うつまき 渦 卷 一、うづ、にたなし、二、菓子の名。
 うつまく 渦 卷 渦の形をなして卷きめぐる。
 うつまさ 宇 豆 麻 佐 人名 秦始皇三世孝武王の弟なり
 其孫秦酒、秦氏の流能せるものを集め、雄界帝の時、置
 業を興し、絹を作り献す、帝之を嘉して、宇豆麻佐の姓を
 賜ふ。

うづまさくわうりうーじ 太秦廣隆寺 寺名 山城國太秦にあり、聖徳太子の創建、峰阿寺といふ、京都市より西へ一里余、境内楓樹多し。

うづまめーぐさ 過豆草 植物、草名、黄色の花開く。

うづみーどうふ 埋豆腐 料理の名、豆腐を飯の中に、うづみたるもの。

うづみーび 埋火 一、火桶又は爐などの火を、灰にて蔽ひたるもの、二、爐又は火鉢の稱。

うづみーひ 伏樋 土中に伏せ、水を通ずる樋。

うづむ 埋 俗に、うづめる、物を以て蔽ふなり。

うづむく 俯 面を下に向ける、うづむき。

うづもん 鬱悶 心快々として寤まざる事。

うづもる 埋 一、物の下又は中にかくる、二、名聲の聞こえざる事、「世にうづもる」

うづら 鶺鴒 動物、鳥の名、形、鶺鴒に似て適かに小なり、首は小さく、尾は短し、全身黄赤色にして、黒白の斑點あり、晝は草木にかくれ夜に入れば田野に出づ、鳴聲幽靜なり、肉は最も珍重すべし。

うづらーいし 鶺鴒石 礦物、瑪瑙の一種なり。

うづらーうつら 熟 づらづらに、たなし、現在に。

うづらーがひ 鶺鴒 動物、蝶の一種、斑點あり。

うづらーぐさ 鶺鴒草 植物、草の名。

うづらーごも 鶺鴒 破れて短くなりし衣。

うづらーなく 鶺鴒 ふる、にかけていふ。

うづらーのーご 鶺鴒床 鶺鴒のねご、此鳥の巢は草ふかき處にあるが故に、人の野邊などにゆけるを、「鶺鴒の床に臥す」などいふ。

うづらーはま 鶺鴒濱 筑前國にあり。

うづらーまめ 鶺鴒豆 植物、豆の一種、赤褐色白斑あり。

うづりーか 移香 衣服などに残れる香氣。

うづりーかはり 移變 次第に 變遷しゆくこと、沿革「世のうつりかはり」

うづりーざ 移氣 物にあき易き心、かはり心。

うづりーやまひ 傳染病 他人に、うつりやすき病、例へば、黒死病、肺病、コレラ、チフス、のごとし。

うづる 映 一、物の影又は光の、うつるをいふ、二、よく似合ふ、「色彩などの」

うつる 移 一、かはりゆく、二、位置をかふる。

うつる 染 一、そむ、二、感染す。

うつれーばーかはる 移れば變る 變遷するをいふ。「うつればかはる世の中の」

うつろ 空虚 中空なること、うつほ。

うつろふ 移 うつる、の延びたる語、此より彼に移る

うつろふ 映 光又は影の映ること、映す、花の散るにも用ふ。

うつろーぶね 獨木舟 うつばぶね、にたなし。

うで 腕 生理、肘と手頭との間にあたる部分をいふ。

うで 腕 うでまへ、技術「うでがある」

うでーあて 腕當 體の名。

うでーたし 腕押 遊戲の名。

うでーぎ 腕木 ちんぼ。

うでーぐみ 腕組 両腕を胸のところにて組むこと(思案するときなどに)

うでーぢるひ 腕揃 器量ある人の揃ひ居ること、敏腕家連。

うでーだて 腕立 他に敵對せむとすること。

うでーづく 腕盡 一、極力闘ふこと、二、力づく。

うてな 壺 一、高樓、二、上り得る壺。

うてなーのはな 壺花 極樂浄土の蓮の花。

うてーぬき 腕貫 一、腕かざり、うてわ、二、腕袋、寒氣を防ぐために手糸などにて製せしもの。

うてーまへ 抄備 是たらさふり。

ウテン 干闥 地名 西域の夷狄、漢の頃匈奴之を統監

うづらーぐさ 鶺鴒草 植物、草の名。

うづらーごも 鶺鴒 破れて短くなりし衣。

うづらーなく 鶺鴒 ふる、にかけていふ。

うづらーのーご 鶺鴒床 鶺鴒のねご、此鳥の巢は草ふかき處にあるが故に、人の野邊などにゆけるを、「鶺鴒の床に臥す」などいふ。

うづらーはま 鶺鴒濱 筑前國にあり。

うづらーまめ 鶺鴒豆 植物、豆の一種、赤褐色白斑あり。

うづりーか 移香 衣服などに残れる香氣。

うづりーかはり 移變 次第に 變遷しゆくこと、沿革「世のうつりかはり」

うづりーざ 移氣 物にあき易き心、かはり心。

うづりーやまひ 傳染病 他人に、うつりやすき病、例へば、黒死病、肺病、コレラ、チフス、のごとし。

うづる 映 一、物の影又は光の、うつるをいふ、二、よく似合ふ、「色彩などの」

うつる 移 一、かはりゆく、二、位置をかふる。

うつる 染 一、そむ、二、感染す。

うつれーばーかはる 移れば變る 變遷するをいふ。「うつればかはる世の中の」

うつろ 空虚 中空なること、うつほ。

せしが、後漢の初め班超西域を征し之を降したり。

うーご 烏兔 鳥と兔と、日と月とにたとへて、日月又は光陰のことにいふ、金烏玉兔の略、「烏兔勿々」

うーご 土當歸 植物、五加科、Aralia Cordata Thunb 莖は刺を有し、葉は掌狀複葉なり、通常五個の小葉より成る、小葉は小鋸齒を有して、殆ど平滑なり、又花瓣は綠黄色なり、藩籬となし、又其葉を食ふべし。

うーご 宇土 地名 肥後國宇土郡にあり。

ウーグー Outh 地名 英領インドのメルガルの一州にして、面積二四二七方哩人口千二百五十五萬餘、世界中人口最稠密なる地なり、(STATION STONE)

うーごーご 疎遠 無沙汰なり、甚だうごし。

うーごーごーご 眠むるさまをいふ。

うーごーごーご 善知鳥 動物、水禽類、形、鴨に似て、嘴の根に赤色の瘤あり、陸奥、北海道、あたりによく産す

うーごーごーご 有徳 德行すぐれたる人、

ウーグーサス Endoxas 人名 エワドクソスの事なり。

ウーグーサン 烏德提山 地名 外蒙古の地なり、唐の玄宗の頃、回紇が突厥の衰に乗じ、此地を併せ、牙を置きたり。

うーごし 疎 一、親密ならず、二、よく心得ず、三、耳

とはし。

ウドセニ

鄔羅衍尼國 地名 印度のラーナプターナのウヂヤインの地に建てられ、超日王の時、勢あり、學者詩人多く此朝に集まり、印度の黄金時代と稱せらる。

うどねり

内舎人 中務省に屬し、刀を帯びて、車駕の前を護衛するものなり、大寶令によりて置かれしなり

うどのはま

有渡濱 地名 駿河國に在りて、風光佳なり。大谷の二村にまたがれる海岸の稱にして、

うどのよのこ

鶴殿の子 人名 加茂眞淵門下の三才女の一、天明八年、六十才にて卒す、遺稿、涼月遺草。

うどむ

疎 一、愚にする、二、遠ざくる。

うどんげ

優華 佛語、三千年にして、始めて花さくといふ、世に稀なることの譬にいふ、うどんげの花、ちたたる心地して

うどんげ

優華 動物 Edge of Inoc-wing 或はうどんげ、などもいひ、柿、菜などに附着するものにして細き糸の先端に白色の小粒あるものなり、これ、くさかげるふの卵にして、植物にあらす。

うどんす

疎 一、愚にする、二、遠ざくる。

ウドマナ

烏迦雅納國 地名 今の印度カプールの東北にありし小國、巴特瑪撒巴特此國より出で、吐蕃に入り

て、一種の密教を唱へ、喇嘛教の祖師となる。

ウトライクイスト

Urquists 黨名 英國宗教の黨派 西紀一四一九年、フスの慘刑に處せられしを憤りて 起れるものにして、異教を奉じて兵力によりて之を斷行せんとしたり、蓋、ウトラクイストなる名稱は、マンと赤酒とを一般に頑たんと要求せしによる。

ウトレヒト

Utrecht 地名 和蘭のウトレヒト州の府 アムステルダムより東南へ二十餘哩。大學及び圖書館あり 人口約十萬、鐵道の中心にして王宮こ、に置かれたることあり。

ウトレヒトのしんぎん

Utrechtの條約 歴史 西紀一七一三年、佛國と英和普蘭同盟との條約にして、此條約によりて、西班牙と佛國とは全く分離せり、西班牙王位承繼の亂之によりて漸く局を結べり。

うながす

促 一、そがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。

うながみ

いそがす、俗に、さそくする。



富みて味頗る美なり。

うながみのかはやき 饅頭焼 料理の名 饅頭を香よりひらき、串にさして焼きたるもの。

うながみのほり 饅頭 官位などの順次上るにいふ。

うながみめし 飯 又は、うながみとんぶり、といふ。

うながみ 飯の上に、饅頭の焼をのせたもの。

うながみ 厭鬼 俗に、うながまれる、恐ろしき夢を見て、呻くをいふ。

うながみ 項 糸りくび。

うながみ 項垂 首を前方にたれる、俯む。

うながみ 項垂 首を動かして承引するをいふ。

うながみ 海岸、うみへ、うなび。

うながみ 海岸、うみへ、うなび。

うながみ 風箏 風につけてならすもの。

うながみ 物 振動散音異りたる二個の音又を同時に振動する時は、其音に浮沈あるべし、此強張浮沈を生ずる現象をさして、うなり、といふ。

うなり 呻吟 うめくこと。

うなり 髪 一、幼少なる男女の項に垂れたる髪の種類なり、二、幼き男女。

うなり 髪 一、髪をうなりに結び居る童子の

うなり 髪 一、髪をうなりに結び居る童子の

うぬぼる 自惚 國 自貢す、自分は完全なりと思ふ、自分一人にて天狗になり居ること。
 うぬぼれ 自惚 國 うぬぼること、自貢。
 うぬぼれかがみ 自惚鏡 國 實際よりもよく寫る鏡。
 ウヌヨロ Dnyoro 國 地名 英領東亞弗利加の一王國にして、赤道直下の北にあり、人口約百五十萬、主權者はガンダ族のウヌヨロ土族なり。
 うね 哇 國 田畑の土を堆高くせる線。
 うねの 宇羅野 國 地名、近江國蒲生郡にあり、蒲生野ともいふ、古今集、「近江より、朝立ちくれば、宇ねの野にたづねなくなる、明けぬ此夜は」
 うねびやま 畝火山 國 山名 大和國高市郡備原村にあり、神武天皇が都を奠められしは、此山の麓なり、現今、備原神社あり。
 うねめ 采女 國 天皇御膳の供御に侍る女官なり、諸國の國造の子女中、容貌美はしきものを採用す。
 うねめの一しやう 采女正 國 采女司の長官。
 うねめの一つかさ 采女司 國 采女の檢校を司る處。
 うねる 盤針 國 右に左に、まがる。
 うのけ 兎毛 國 一、兎の毛、二、極めて小さきものに譬へていふ。
 うのいはな 卯花 國 うつぎの花、四月の頃白き小さき花を開く。
 うのはなたどし 卯花職 國 白糸織りの織。
 うのはなくもり 卯花曇 國 四月頃の、くもれる空。
 うのはなごころも 卯花衣 國 表白、裏青のかさね。
 うのはなづさよ 卯花月夜 國 卯の花の白きを月になぞらへていふなり。
 うのいはら 海原 國 うなばら、にたなし。
 うのいまねするからず 學鴉之鴉 國 鴉は鴉の眞似して、水中に入れば溺死を免かれず、此意よりして、自分の身の程を忘れて、他にならひ、失敗するに譬ふ。
 うのみ 鶉吞 國 鶉が魚を吞む如く、食物をよく嚙まずして嚥下すをいふ。
 うのめたか一のめ 鶉目鷹目 國 よく注意すること。
 うば 姥 國 一、年取りたる女、二、乳母、俗にたなし。
 うばい 優婆夷 國 佛典の語、有髮にて佛道に入りたる女をいふ、全上の男を、うばとく、といふ。
 うばいり 上癮 國 裁縫の語、俗に、はんわり。
 うばがき 上書 國 書狀などの上に文字をかくこと。
 うばさ 浮氣 國 心のうかれやすきこと、多情、輕浮、て、たちつかぬ人、俗に、うばてうし。

うはさぎ 上着 國 一番上に着る衣服。
 うはぐすり 沓藥 國 つや藥、薬燒の陶器にぬりて、光澤を出す藥。
 うばくち 姥口 國 物の蓋のよく合はぬことをいふ、蓋老人の口はよく齒の合はぬものなるより來りしなり。
 うはげ 上毛 國 表面の毛。
 うはごと 謂語 國 熱病などにて、熱のために、わけもわからぬことをいふこと。
 うばざくら 姥櫻 國 植物、さくらの一種。
 うはざし 上差 國 一、腹にさし添へたる二本の矢、二、狩衣などの飾り縫ひをいふ。
 うはじる 上汁 國 一、うはずみ、二、他人の利益の幾分をばぬくことをいふ。
 うばろく 優婆塞 國 有髮にして佛道を修行する事、全上の女を、うばら、といふ。
 うばたま 烏羽玉 國 菓子の名。
 うばたまの 烏羽玉 國 ねばたまの、にたなし。
 うはつら 表面 國 俗に、うはつら。
 うはて 上手 國 一、上方 二、川かみ 三、技能の他にまさる人。
 うはてうし 上調子 國 輕浮なる性質の人、うさうさして、
 うはてなげ 上手技 國 相撲四十八手の一。
 うはなり 後妻 國 二度目の妻
 うはなりうち 後妻打 國 前妻の親戚が、後妻を罵ふこと、足利時代に流行せりといふ。
 うはぬり 上塗 國 一、上を塗ること、「壁のうはぬり」
 うはのら 浮空 國 一、少しも注意せぬこと、二、空漠なること。
 うはばみ 辨蛇 國 一、蛇の最も大なるもの、二、よく酒をのむ人を、嘲つていふ。
 うばふ 奪 國 一、人の物を無理に取る、二、掠む。
 うはべ 上邊 國 一、表面、二、外觀、俗に見ゆ、三、體裁。
 うはまへ 上前 國 一、着物を前にてかき合せたるとき上に出る方をいふ、二、他人の利益の幾分を着しすること
 うはむぎ 上向 國 一、上に向くこと、二、相場の騰貴する勢、強氣。
 ウバンギ Changi 國 地名 佛領コンゴの東部に位する州にして、コンゴ河の流域を占む。
 ウバンギ Changi 國 河の名 佛領コンゴとコンゴ自由國との間を流る、河にして、コンゴ河に流入す。

うはやく 上役 上旨、自己より位地の高き役人。
 うばら 茨 植物 ばら、いばら。
 うはな 上納 染めぬきし色を、更にかきわくすること
 うひ 初 始めてなること。
 うひうひし 初初 物なれぬ、初初らし。
 うひちん 初陣 始めて戦場に出づること。
 うひのやまぶみ 宇比山踏 本居宣長の著書。
 うひ 初孫 始めて生れし孫。
 うひまなび 初學 學を修め始むること。
 うひやうえのかみ 右兵衛督 右兵衛府の上長官。
 うひやまぶみ 初山踏 山の麓に入り立つといふ意にて、始めて學に志すことをいふ。
 うふ 右府 右大臣の異名。
 ウーファー Wever (蕪湖) 地名 支那安徽省太平府の港にして、西紀一八七六年の芝罘條約に依り翌年五月より開かれたる開港場なり、製絲製茶の業盛なるを以て將來大に望を置くに足る、人口約八萬あり。(SHAN, TUNG)
 うぶ 初 一、修飾なきこと、二、俗に、うぶなこと。
 うぶぎ 産衣 生れし兒に、始めて着せる衣。
 うぶごゑ 産聲 始めて泣き出す聲。
 うぶすな 産土 人の生れたる地、うぶは産、すなは

土の善なり。
 うぶんかく 宇文覺 人名 南北朝西魏の宇文泰の子、恭帝の三年自ら周公となり、四年西魏を襲して周國を立つ然れ共在位一年に滿たずして、從弟宇文護のために弑せらる。
 うぶんたい 宇文泰 人名 北周の孝閔帝の父なり西魏の丞相となり、專横を極めぬ、西紀五五六年、卒す。
 うぶーや 産屋 産をすする室。
 うぶーゆ 産湯 一、生兒に始めて湯をつかはしむること
 ウフサラ Uffers 地名 瑞典國の東部に在る、ウフサラ州の首府にして、ストックホルムの西北二十一哩サラ河畔に在り、人口二萬餘、大學及び圖書館あり。
 ウフラウダ Uprada 地名 エスタニアヌスの藩名。
 うへ 上 高き方、下の反對。
 うへ 上 天皇陛下といふ義に用ふ。
 うべ 宜 俗に、なるほど、といふにおなじ。
 うへさかーはんざもん 上阪牛左衛門 人名、劍道の達人、念心流を開けり。
 うへーさま 上様 一、舊幕時代は、將軍を敬していへる語、主公などいひむがごとし。
 うへーした 上下 一、上と下、二、政府と民衆、三、

事の顛倒すること。
 うへさぎーあさだ 上杉顯定 人名 山内第七代の主なり、長享元年、上杉定正を破り、後入道して可淳と號す
 永正七年、越後に戦死す、行年五十七。
 うへさぎーけんしん 上杉謙信 人名、景虎後に輝虎と改む、不識庵と號す、最も兵を用ふるに長じて、關東及び北越を打ち從へぬ、天正六年三月卒す、年四十九。
 うへさぎーはるのり 上杉治憲 人名 米澤の領主、性學を好み、鷹山と號す、文政五年三月卒す、年七十二。
 うへーだ 上田 地名 信州小縣郡にあり、松平氏の舊城あり。

兼ねたる人。
 うへーびと 上人 殿上人におなじ。
 うへーぶし 上臥 古 禁中に密直するをいへり。
 うべんーくわん 右辨官 古代の官名、右大臣に屬し、兵部、刑部、大藏、宮内 に関することを執行せり。
 ウホル Uhol 地名 サモア群島中の一島にして、周圍百四十哩、面積五百五十方哩、人口約二萬、首府は、アピアといふ、英國の領する所なり。
 うま 馬 動物 奇蹄類、家畜の一なり、顔長く、上下各六枚の齒を有し、項にたてがみあり、蹄は圓形にして、底くぼみ、尾は多數の長き毛より成る、世界中最も其馬を産するはアラビア國にして、我國にては奥州地方の産をよしとす、其毛色によりて種々の名稱あり、又用方により區別すれば、乗用、挽車用、農耕用、などの別あり、肉は食用に供すべく、蹄、尾などは皆用途あり。
 うま 午 十二支の一、一、方角の名、正南 二、昔の時の名、今日の正午にあたる。
 うま 甘 一、物の味のよきをいふ、二、貴き意を示す
 うまーあぶ 馬虹 動物 虫名、牛馬につくあぶ。
 うまーい 熟寝 よく、ねむること。
 うまーいかだ 馬筏 馬を水中に並べて、筏の如くした

うへだーあさなり 上田秋成 人名 和學者、京都に住み茶事を好み、粟田焼を創作す、文化六年十一月歿す。
 うへーつーがた 上方 高貴の人、官位高き人。
 うへーつほね 上局 天皇の御座に近くある局。
 うべーなふ 諾 同意すること、承引す。
 うへーの 上野 地名 伊賀國阿拜郡に在り。
 うへーのこうぞん 上野公園 地名 東京市下谷區にあり、維新の當初、彰義隊の據りし山にして、今日は東京市第一の公園となり、博物館、動物館等あり。
 うへーのーはんくわん 上判官 藏人にて 檢非違使を

兼ねたる人。
 うへーびと 上人 殿上人におなじ。
 うへーぶし 上臥 古 禁中に密直するをいへり。
 うべんーくわん 右辨官 古代の官名、右大臣に屬し、兵部、刑部、大藏、宮内 に関することを執行せり。
 ウホル Uhol 地名 サモア群島中の一島にして、周圍百四十哩、面積五百五十方哩、人口約二萬、首府は、アピアといふ、英國の領する所なり。
 うま 馬 動物 奇蹄類、家畜の一なり、顔長く、上下各六枚の齒を有し、項にたてがみあり、蹄は圓形にして、底くぼみ、尾は多數の長き毛より成る、世界中最も其馬を産するはアラビア國にして、我國にては奥州地方の産をよしとす、其毛色によりて種々の名稱あり、又用方により區別すれば、乗用、挽車用、農耕用、などの別あり、肉は食用に供すべく、蹄、尾などは皆用途あり。
 うま 午 十二支の一、一、方角の名、正南 二、昔の時の名、今日の正午にあたる。
 うま 甘 一、物の味のよきをいふ、二、貴き意を示す
 うまーあぶ 馬虹 動物 虫名、牛馬につくあぶ。
 うまーい 熟寝 よく、ねむること。
 うまーいかだ 馬筏 馬を水中に並べて、筏の如くした

るさふ。

うまーしんが 馬戦 馬に乗りて、戦ふをいふ。

うまーじり 甘事 一、食物の味のよきこと、二、物事に巧なること、三、他より羨まるる如きこと、俗語。

うまーいしや 馬醫者 馬の病氣を療治するもの。

うまう 羽毛 動物鳥の翼にある羽及び全身を蔽ふ綿毛の總稱なり、綿毛を絹といひ、翼尾の羽を翼といひ、冠の根を冠といふ、翼の軸をなす部を羽軸と稱し、羽軸より出でたるを羽枝といふ。

うまーうま 旨旨 旨きもの、(子供などに向つて)

うまーうまーと 甘甘 たくみに、手際よく。

うまーたひ 馬逐 動物 虫の名、其なく聲が、馬などを追ふ叱聲に似たるよりいふ。

うまーかけ 競馬 馬に乗りて、先着を争ふなり。

うまーかた 馬方 荷馬をひくことを業とする人。

うまーがほ 馬顔 顔の長き人を嘲つていふ語、又、馬づら、ともいふ。

うまきたし 體弱 植物、草名、小さき菊形の花を開く。

うまーざぬ 馬衣 馬に着せしむるもの、布にてつくる

うまーぐ 馬具 馬に用ゆる道具、(あぶみ、くら等)又ばぐ、ともいふ。

うまーご 孫 まご、におなし。

うまーごやし 苜蓿 植物、草名、原野に生じ、托葉は細裂し、花梗は短くして、少數の黄花を生ず、果實は莢にして、螺旋状をなして鋭尖なる刺を有す、此草は肥料及び家畜の飼料に供せらる。

うまーごり 美織 美麗なる織物をいふ。

うまーざけ 美酒 あまき酒、美酒。

うまし 甘 一、味よし、二、巧みなり、上手なり、三時機よし。

うましーくに 美國 よきくに、にたなし。

うましーま 馬島 島名、周防國の海中にあり。

うましーまでーのみこと 可美真手命 人名 饒速日命の子、物部氏の祖先なり、父と共に神武天皇に歸順す。

うましーみち 真道 よき道なり、うまし は美しの義よき人を、「うましびと」といふがごとし。

うまーじりし 馬標 軍中に立て置きて、大將の所在を示すものにして織田信長の頃より始まる。

うまーずめ 不登 植物 草名 やませり、ともいふ。

うまーせり 馬岸 植物 草名 やませり、ともいふ。

うまーだし 馬出 城門外に築きたる一廓、出丸。

うまーたて 馬立 馬の留置場。

うまーつき 馬付 馬の口取、馬丁、馬卒。

うまーつなぎ 馬繫 馬をつなぐ木。

うまーどめ 馬架 馬をつなぐ木。

うまーに 旨煮 料理の語、魚などを、砂糖を澤山入れて、あまく煮しめたるもの。

うまーのーあし 馬脚 下劣なる俳優を嘲ける語。

うまーのーあしがた 毛茸 植物、毛茸科、一名きんばうげ、濕地に生ずる草にして、初夏黄色の花をひらく、五葉五瓣より成る、葉は掌状をなす、全體粗毛を被りて、果實は集合せる漿果にして一見金米糖に似たり、莖草なり。

うまーのーかひ 午貝 昔 午の刻に知らせのため、吹きし所の貝。

うまーのーかみ 右馬頭 官名、右馬寮の長官。

うまーのーせきーみなご 馬の關港 港名、馬關港。

うまーのーす 馬尾 馬の尾の毛。

うまーのーすずさ 馬鈴草 植物 馬鈴草科、一名うまのすずかけ、又、おはぐるばな、ともいふ、上昇木本にして、鈍頭長心形の全邊葉と上部の黒紫色にして下部の綠色なる葉とを有す、薬用植物なり。

うまーのーすずかけ 又、おはぐるばな、ともいふ、上昇木本にして、鈍頭長心形の全邊葉と上部の黒紫色にして下部の綠色なる葉とを有す、薬用植物なり。

うまーのーすずさ 馬鈴草 植物 馬鈴草科、一名うまのすずかけ、又、おはぐるばな、ともいふ、上昇木本にして、鈍頭長心形の全邊葉と上部の黒紫色にして下部の綠色なる葉とを有す、薬用植物なり。

うまーのーすずさ 馬鈴草 植物 馬鈴草科、一名うまのすずかけ、又、おはぐるばな、ともいふ、上昇木本にして、鈍頭長心形の全邊葉と上部の黒紫色にして下部の綠色なる葉とを有す、薬用植物なり。

うまーのーすずかけ 馬のすずさ、におなし。

うまーのーたま 馬玉 牛、豚、などの腹中に生ずる石の如きもの、金屬類の破片等、食物と共に混入して、終に塊となりしものなり。

うまーのーつかさ 馬寮 衛府に屬して、馬に關することを司りぬ、左右二寮に分かれ、各其長官あり、左馬頭、左馬頭と稱するもの即是なり。

うまーのーはなむけ 馬饒 人の旅立ちする時、其行く方向に馬の鼻先を向けしめ、又は物をわくるより出でし語轉じて、旅立ちする人に贈くる品物をもいふ。

うまーのーほね 馬骨 薬性の知れざる人を嘲る語。

うまーのーみみーにかぜ 馬耳東風 いくら説き聞かせても、一向解せざることを譬。

うまーのり 馬乘 一、馬に乗る人、二、馬術にたけたる人、三、馬に跨る如く、物に跨ること、「馬乘になつて」四、馬乗務の略。

うまーのりーばたり 馬乗羽織 乗馬用の羽織。

うまーのりーばかま 馬乗袴 乗馬用の袴。

うまーばへ 馬蠅 動物 虫名、馬に群集する大蠅にして、頭大に、眼黒く、全身に白色の細毛を蒙り、胸部は灰色、腹部は淡褐色の斑紋あり。

うまーびじり 馬聖 〇 普化僧 こもそう。
 うまーびど 貴人 〇 官位德行並び高き人、門地高き人。
 うまーびる 馬姪 〇 動物、虫名、ひるの一種、梅雨の頃に發生す、甚だ大にして四五寸に達す。
 うまーぶね 馬槽 〇 かひばをけ にたなし。
 うまーへん 馬偏 〇 漢字の偏の名、馳、駒、駄の如し。
 うまーまはり 馬廻 〇 主公の馬のまはりにつく士。
 うまーみ 甘味 〇 甘き味、二、うまさ加減、於味。
 うまや 厩 〇 馬を飼養し置くところ、馬小屋。
 うまや 驛 〇 宿場 旅客のために、馬又は人夫などを留意し置く處。
 うまやーち 驛路 〇 宿場のある道路。
 うまやどーのーわうじ 厩月皇子 〇 人名 聖德太子の本名、其條を見るべし。
 うまやーばし 厩橋 〇 上野國前橋市の前名なり、もと橋城のありしところ、群馬縣に屬し、人口二萬余。
 うまる 生 〇 一、母體より子が分離するをいふ、出生、二、世に出づ「人とうまれて」「男とうまれて」
 うまる 埋 〇 うづもる にたなし。
 うまれ 生 〇 一、出生すること、二、生れたる地方、出生地「東京のうまれ」三、素性、四、うまれつき。

うまーれう 右馬寮 〇 うまのつかさ、を見るべし。
 うまれーかはる 生變 〇 再生すること。
 うまれーこさやう 生放郷 〇 生れたる故郷。
 うまれーたて 生立 〇 生れてより時間の多かつたぬこと
 うまれーつき 生付 〇 天性、性質、生來、天資、資性。
 うまれーどき 生時 〇 出生の時。
 うまれーどし 生年 〇 出生の年、生年。
 うまれーび 生日 〇 出生の日、誕生日。
 うみ 海 〇 一、鹹水の大に満ふるところ、二、水の溜れるを、窪にたとへていふ、「碗の海」
 うみ 腹 〇 うみしる、臍物などの、うみたるところより出づる汁。
 うみーうし 海牛 〇 動物、腹足類、淺海の底にあり、骨酪なくして、前方に一對の突出物あり、其狀牛角に似たり因て此名あり、鱉は裸出して被物なし、雌雄同體なり、一名、あめふらし。
 うみーうちは 海團扇 〇 動物 珊瑚虫の一種。
 うみーかん 海雁 〇 動物 雁の一種、淡灰色にして、普通の雁よりも稍小なり、多くは海濱に棲む。
 うみーがめ 海龜 〇 動物、有脊動物、爬虫類中の龜類 小笠原諸島、土佐などの海に産す、大なる物は、長さ五尺

に達するものあり、脊の甲は突起すれども、其實堅硬ならず、肉は美にして滋養に富む、一名、しよわかくばう、其大なるものを、海坊主といふ。
 うみーざし 海岸 〇 海邊、はまべ。
 うみーくさ 海藻 〇 植物 海中に生ずる植物の總稱。
 うみーくらげ 海水母 〇 動物 水母の一種。
 うみーさち 海幸 〇 海上にて漁したる獲物をいふ。
 うみーしじみ 海蛸 〇 動物 海中にすむ蛸の一種。
 うみーしやうが 海蓋 〇 動物 石の一種、能登の方言。
 うみーすぢぬ 海雀 〇 動物 魚名、一名、かはしふぐ、體の末端尾に似たれども、尾はなしといふ、脊部は黒く、腹は灰白色なり、其形、むくとり、に似たり。
 うみーたけ 海菊 〇 動物、貝名、九州地方の泥海に産す
 うみーち 臍血 〇 一、うみ及び血、二、臍の交りし血。
 うみーち 海路 〇 航路 ふなみち。
 うみーつき 産月 〇 胎兒が生れる月（人類にありては、孕みてより十ヶ月目）臨月。
 うみーつく 生付 〇 一、物にうみつくるをいふ、二、俗うみつける（性質についで）
 うみーづら 海面 〇 海の表面、海上。
 うみーのーたや 生親 〇 眞實の親、（養父母に對して）

うみーのーこ 生子 〇 實子、（養子に對して）
 うみーのみづーのーせいふん 海の水の成分 〇 化學 海水の含有物は所によりて異なれ共、其主たるものは、食鹽にして、其他鹽化マグネシウム、硫酸マグネシウム、硫酸カルシウム、鹽化カリウム、炭酸カルシウム、臭化マグネシウム、臭化ナトリウム、硫酸ナトリウム等を含めり。
 うみーばうず 海坊主 〇 一、海龜の大なるもの、二、海上にあらはるる怪物の名、俗に、ふなゆうれい。
 うみーひば 海檜葉 〇 動物、珊瑚の類、海底の石又は海藻に附着し、群體の形狀檜葉に似たり、紅白、黄紫など種々あり、外軟かにして、内に骨あり。
 うみーへび 海蛇 〇 動物 海中にすむ蛇に似たる動物。
 うみーほぼづき 海酸醬 〇 動物 ながにし、と稱する螺（まさがい）の卵にして、中央の穴は人工によりて之をうがち、内容物を流出せしめたるものなり、女兒の弄する部は卵殼に相當す。
 うみーやし 海椰子 〇 植物 「ヒリッピン」又は馬來諸島に産す、極めて短小なる幹を有し、其實は恰も「たごのき」の實に似たり。

うみゆりるる 海百合類 動物、芒刺動物、海百合類、體は球形にして、石灰質の小板にて被はる、口を上方に開き、下方は有節の長柄にて海底に固着す、然れども老成に至れば之を失ひ、自由に移動す、體の周圍に有節の五腕を有せり、肛門は口の側に開く。

うみへん 紡苧 紡みたる苧。

うむ 有無 一、有ると無きと、二、應ずると否と、三、然りと然らず。

うむ 生 一、胎兒を胎内より生ず、産す、二、殖やす増す。

うむ 熱 一、熱す(果物についでいふ) 二、うみをもつ、化膿す。

うむ 織 苧などを、細く長くさきて、つぎ合すをいふ。

うむ 湯に水を加へて、其熱温を少くするをいふ。

うむ 海蛤 動物 はまぐりの異名。

うん 運 一、運はせ、天命、天運。

うん 暈 物理、太陽又は月の周圍に時として現はるる輪にして、大氣中に浮べる水の細片が、光線を屈折分散するによりて生ず。

うん 諾 承諾の意をあらはす語。

うん 蕙 蕙 ねくふかきこと、事理の道理の深秘

「學問の蘊奥を極む」

うんう 雲雨 一、雲と雨と、二、立身の機會。

うんうん 云云 一、しかしか、これこれ、などと同しく、多くの詞を略するに用ふる語、二、いふにいはれぬ事情。

うんうん 非常にくるしむ時に、發する聲。

うんうん 雲煙、雲と煙と。

うんうん 雲煙過眼 一、一時の愉快、二、事物を冷淡に見すこと。

うんか 浮塵子 動物 虫名、空くもるとき、橋下又は河邊に群飛する小虫にして、遠方より其群を望めば、雲霞の如し。

うんか 雲霞 一、雲霞、二、群集の意「雲霞の如き大軍」

うんが 運河 水運の便に供するために、陸地を掘削りて通せる河、俗に、はりわり。

うんかう 運行 運轉して行くこと、(太陽又は月の如き天體の)

うんかく 雲客 殿上人、雲の上人、「月卿雲客」

うんかん 雲間 雲のたわま、雲の中。

うんかん 雲漢 一、天空、大空、二、天の河、銀河

大空に白く長く一帯の川の如く見ゆる群星。

うんき 運氣 天運、しあはせ、因縁。

ウンスケレス Ukhar-Skelag 地名 アンキアル

スケレスともいふ、コンスタチノブルの東北オスボロス河

上に在る小アジアの一邑にして、唯一小邑に過ぎざれども

西紀一八三三年ロシアが自國の利益のためトルコと條約を

締結せし地として有名なり。

うんきやく 雲脚 一、雲わし、雲のゆくさま、二、番茶の異名。

うんきよ 雲居 人名 高徳なる聖僧、松島瑞巖寺に住せり、奇行少からず。

うんけい 雲慶 人名 有名の佛師なり、備中法印と號す、初め京師に在り、後に鎌倉に移る、其手になりし佛像は、今日多くは寶物として珍重せらる、後鳥羽、順徳帝の頃の人なり。

うんけい 雲鏡 雲のたちあがること。

うんけい 雲のたむがごとし 加賀雲鏡 望の切なるをいふ、「大早に雲鏡を望むが如し」

うんけん 煙燭 燭工の語、くまらり。

うんけん 煙燭のたみ 煙燭の煙 白地に雲形を置きたる模様をつけし疊、寺院などに多く用ゐらる

うんくくは 雲谷派 僧雪舟より出でたる宗派なり。

うんくくどうがん 雲谷等願 人名、有名なる畫工、雪舟より出で、別派をなす、之を雲谷派と稱す。

うんさい 雲織 織物の名、木綿布の一種にして、地あらく、厚く織りたるもの、足袋の底に用ふ、雲齋といふ人始めて織り出したるにより、この名あり。

うんさう 運漕 船にて荷物を運搬すること。

うんざり 物にあきたる様子にいふ。

うんし 耘籽 耘は、くまざる、籽は、つちかふ、即農業をいふ。

うんしうみかん 雲州密柑 密柑の一種 味最も美なり出雲國に産するもの。

うんじふ 雲集 雲の如く群集すること。

うんじやう 運上 徳川幕府が、商工、漁獵、運送等に課したる營業税なり。

うんじやう 雲上 雲上の人、二、禁中の人、二、くものうへびと。

うんず 倦 云やになる、うむ。

ウンストルト Ustrut 地名 リアア附近にある河の名、獨乙帝國の始祖、ハインリヒ一世がハンガリヤ人を

此河時に破り、ナポレオン亦此處に戦へり。
うんすい 雲水 雲か水かの如く、居所不定の意にて行脚の僧をいふ、「一身如雲水悠悠任去來」
うんせう 雲霄 ① 大空をいふ、蒼空。
うんせんがーだけ 温泉嶽 ① 山名 肥前國南高來郡の中央にある噴火山。
うんろう 雲層 ① 地名 Cloud Stratum 空中にある雲の層をいふ。
うんろうせん 運送船 ① 貨物を運送するに用ゐる船。
うんろうごりあつかひにん 運送取扱人 ① 契約に従ひ他人の計算を以て、自己の名の下に、貨物の運送を取扱ふことを業とする人。
うんろうほけん 運送保険 ① 運送中、貨物の危険に對する保険なり。
うんちゆう 運籌 ① 計略を廻らすこと、「運籌帷幄之中」
うんちく 蘊蓄 ① 修養をつみたること、素養あること
うんちん 運賃 ① 貨物を運送する賃錢。
うんてい 雲梯 ① 攻城に用ふるもの。
うんてい 雲泥 ① 雲・泥と、天と地と。
うんでひばり 雲泥萬里 ① 事物の甚しく相違せるをいふなり。

うんでい 一も一たならず 雲泥不啻 ① 天上の雲と海底の泥との差、即懸隔の甚だしきものをいふ、霄壤の差。
うんてん 運轉 ① 一、廻ること(車などの) 二、運用すること、「資金の運轉」
うんてんしゆ 運轉手 ① 流轉の運轉をなす人、
ウンテルワルデン Unterwalden ① 地名 瑞西國中、森林を以て有名なる四縣の一にして、ルツェルンの東南、ウーリ及メルンに隣す、オアワルド及びニドワルドの二部に分け、各ザルチン及びスタンプを以て首府とす、面積二九五方哩、人口、二萬七千あり。
ウント Wundt ① 人名 ヲイルレム、マクス、ウントは有名なるドイツの生理學者にして萊府大學の教授なり、生理心理學は最も其長所にして、之に關し著書あり皆名著なり、(西紀一八三二—一八七五)
うんどう 運動 ① 一、運ぐり動かすこと、物體が位置を變動すること、二、散歩、遊歩、
うんどうしんけい 運動神經 ① 生理、脊髓の前方より出づる神經にして、先端筋肉に終り、身體の運動を司る。
うんどうのエネルギー 運動の Energy ① 物理 運動せる物體は或る仕事をなし得る力を有す、例へば落下する所の水は水車を運轉し得べく、落下する石は地を穿ち得る

うんどう エネルギー
 合成
 運動の速度
 マサワ イースク
 マサワ
 マサワ

が如し、斯の如く物體が運動の状態にあるが爲めに有するエネルギーを運動のエネルギーと稱す而して運動のエネルギーは、物體の質量と、運動の速度の二乗との相乗積を二分したるものを以て計算す。
うんどうのくみだて 運動の組立 ① 物理、二力全時に、全二物體にはたらく時は、其二力の方向を二邊とする平行四邊形の對角線の方向に向つて、其物體は運動す、之を合運動といひ、かく合運動を求むることを、運動の組立又は運動の合成といふ。
うんどうのしゆるい 運動の種類 ① 物理 一、運動の有様より分つ時は、變位運動、迴轉運動、及、振動となる、二、運動の速度により分つ時は、等速運動、不等速運動となる。
うんどうのたいいちていりつ 運動の第一定律 ① 物理 静止せる物體は、外力の作用を受けざれば、永久に静止の状態を保ちて、決して其位置を變ずることなく、又運動せる物體は、外力の作用を受けざれば、常に同一の方向に等速運動をなして、決して静止することなかるべし。
うんどうのたさいさんていりつ 運動の第三定律 ① 物理 凡て力の作用せる場合には、必ず之と全し強さにして、且反對の方向に向つて、反對作用を生ずるものなり。

之によりて起る運動を反動といふ。
うんどうのたいにていりつ 運動の第二定律 ① 物理 或る力のために發したる運動量の變化は、其力の大きさと、其作用せる時間との相乗積に正比例し、且つ其力の方向に於てして、毫も他力の有無に關係せず。
うんどうのまさつ 運動摩擦 ① 物理 一物體が他物體の表面を這る時相接する表面は其運動を止めんとして、反抗する力を生ず、之を運動摩擦と言ふ。
うんどうのまさつけいすう 運動摩擦係數 ① 物理 Mなる質量を有する物體を机上に置き、其物體にFなる質量の物體を吊り下げてMを引き動かせば、少し動き始めて後はFを減少するも、猶運動を持續すべし、今其運動の速度一様となる迄Fを減少したる時 F/Mなる分數を運動摩擦係數と言ふ。
うんどうのりやう 運動量 ① 物理 運動せる物體の質量と、其速度との相乗積を、其物體の運動量といふ、運動の大きさを量るに屢々用ひらるる所のものなり、例へば、一單位の時間に、Aなる質量を有する物體が、Bなる速度を有すすれば、其物體の運動量は、其相乗積なる Aを以て示めすことを得べし。
うんどうん 鹽鈍 ① 小麥粉にて製したるもの、うんん。

うんばん 運搬 持運ぶこと、運送、
 うんばんさよう 運搬作用 地文 水が砂石其他の物
 體を運搬する作用をいふ、地球表面の状態を大に變ず。
 うんびつ 運筆 筆の運び方、かきかた。(書畫の)
 うんぷてんぷ 運風天賦 人の運命は天の定むる所な
 りといふ意。
 ウンブリア Umbria 地名 伊太利の古き州名にしてエ
 トルリヤの東にあり、有力なるフテン民族之に住したりし
 が、羅馬人に敗られて、漸次羅馬の感化を被りぬ現時のウ
 ンブリアは、伊太利王國の一區劃にして、ペルギア州此中
 にあり。
 うんべう 雲表 雲の外、天空。
 ウンベルト Humbert, Umberto 人名 ビクトル、エマ
 ヌエルの子にして、西紀一八七八年位に即ける伊太利王な
 り、其末の皇太子たりし時、伊太利合一のため大に奔走し
 その豪膽を以て聲望ありたり、(西紀一八四四年生)
 うんぼ 雲母 礦物、さらさら、其種類多く、加果雲母
 若土雲母、紅雲母、等の別あり、多くは花崗石の主成分を
 なし、彈性あるものは、船中に於て、磁石に代用せらる
 うんぼさびよかん 雲母輝綠石 礦物 斜長石輝石
 及び雲母より成る。

うんぼてつこう 雲母鏡礦 礦物 赤鐵礦の一種にし
 て、雲母を含む。
 うんぼへんがん 雲母片石 礦物、片状岩の一種にし
 て、雲母及び石英の片状集合より成る、多量の雲母を含む
 が故に、劈開性顯著なり。
 うんもんちく 虎斑竹 植物 「はちく」の一種 幹面
 に斑紋を有す。
 うんめい 運命 うん、におなし。
 うめ 梅 植物 薔薇科、葉は廣楕圓形又は卵形にして
 花は五瓣より成りて、紅白の種あり、皆一種の香氣を放
 つ、果實の内部は核に附着す、果實は之を食用に供すべく
 樹幹は堅くして、種々の用あり。
 うめあはず 埋合 利益を以て損失をばふ、俗に、う
 めあはせる、といふ。
 うめがーい 梅枝 一、梅の枝、二、小唄の名、
 うめがーか 梅香 梅花の芳香、
 うめがさう 梅傘 植物 鹿蹄草科、小草木にして、葉
 は卵状披針形をなし、花は白色にして花梗の頂上に單生す、
 うめがさね 梅殿 かさねの色目。
 うめさき 墳木 木材のつぎ目なとに、他の木片をはめ
 て、すき目を修繕すること。

うめさきいへく 埋木細工 種々の木を、つぎ合せて、
 つくりたる細工物。
 うめく 呻吟 一、うなる 二、嘆息する。
 うめず 梅酢 梅の實を鹽漬にして、之をしぼりたる
 汁、味甚だ酸し、染料となる。
 うめぢの 梅園 梅を澤山植ゑたる園。
 うめだうんびん 梅田雲濱 人名 幕末の志士、若狭
 小濱の藩士なり、通稱源次郎、安政年間、尊攘の説を唱へ
 て幕府に忌まれ、終に獄舎に卒せり、年四十四。
 うめだつ 埋立 凹地を土にて埋むること。
 うめち 埋地 埋立地、築地。
 うめづけ 梅漬 一、梅の花を鹽につけたるもの、二
 うめはし、三、梅酢に大根などをつけたるもの。
 うめつぼ 梅壺 凝華舎、内裡の一殿にして、後涼殿
 の北、藤壺と雷鳴壺との中間にあり。
 うめのきごけ 植物 地衣類に屬す、莖葉の別なく、
 扁平、白色なり、老樹又枯木の表面に生じ、濕へば柔に、
 乾けば堅く、表面に胞子を作る。
 うめばち 梅鉢 家紋の名、梅の形なり。
 うめぼし 梅干 食料品、梅の實を鹽にて漬けたるも
 の。

うめほしーたやち 梅干章 梅干の如く、章のよりたる
 男を、嘲りていふ語。
 うめみ 梅見 梅花を見て賞すること。
 うめもごき 梅擬 植物 冬青科、落霜紅とも書く、
 葉は一年生にして鋸齒を有し、花は短き柄を具して帯赤色
 又は白色なり、雄蕊は花瓣より短く、果實は赤色又は帯赤
 色にして、觀賞植物なり。
 うめやしき 梅屋敷 梅の園におなし。
 うめわかづか 梅若塚 塚の名、武藏國南葛飾郡にあ
 り、梅若丸遂に此處に死すといふ。
 うめゆ 注入湯 湯に水を加へたるもの。
 うめう 羽毛 動物 鳥類の體を蔽へる毛を言ふ、角
 質にして、皮膚の變形物なり。
 うめれぎの 埋木 わらはるることなき、にかけてい
 ふ、「埋木の身」源賴政「埋木の、花さくことも、なかり
 しに、身のなる果ぞ、わはれなりける」
 うやうやし 恭 謹みてあり、貴ぶさま。
 うやまふ 敬 敬 尊敬す。
 ウンコルデンギ Uinkolangi 地名 清國滿洲黑龍
 江省の東部に在る山脈。
 ウユルツーブルグ Weiz Burg 地名 獨乙バロリアの

一市なり、アレシアの條約により、タスカナ公、フェルナンドに屬せしが、西紀一八一四年、パリアに歸せり、一七九六年、カロ公は此附近にて、佛軍を破りぬ。

ウエルテンベルグ Württemberg 地名 獨逸聯邦の一にして、もとスウェーデンの一部なりしが、西紀一二六五年、一國となり、一四九四年、公國となりぬ。

うよ 紆餘 一、まはり道きこと、二、上手にそれとなくいひまはすこと。

うんようかん 雲揚艦 日本海軍艦、明治八年我國韓帝國と修好せんとしたるに大院君應ぜず、我軍艦を砲撃したり、依て翌年黒田清隆を全權辦理大臣として其罪を責め、修好條約を定めたり。

うよく 羽翼 一、羽と翼との義よりして、輔佐すること

うよく 右翼 一、うよくたいの略。

うよくたい 右翼隊 中軍の右方に在る部隊。

うら 一、表の反對、二、衣服の内面につくるきれ地、三、家屋の背後、四、うらはら、あてこべ。

うら 浦 海陸の陸地に海入せる所。

うら 己 吾れの、俗語なり。

うら いた 裏板 一、天井、又、屋根のうらに張りたる板。

うら うち 裏打 一、衣服にうらをつけしもの、二、紙を幾枚も張りて厚くすること。

うらうへ 裏 一、うらと表と、二、反對。

うらうら 長閑 一、うららかに、晴晴と、のどかに、

うら じり 裏裏 一、裏裏につけたる小切。

うら が 浦 地名 相模國三浦郡にあり、横須賀より一里半計に在る港。

うら が き 裏書 一、裏面に文字をかくこと、二、手形などの譲渡を證明するために、文字を其裏面にかくこと

うら が き 一、ゆづりわたり 裏書譲渡 一、法律の語、權利を譲渡すむねを、手形の裏面にかくこと。

うら が き 一、ゆづりわたり 一、裏書譲渡人 一、裏書により、權利を他へ譲渡す人。

うら 一、かく 射洞 射通すこと、裏まで通る。

うら 一、かく 裏切 一、背いて味方たりしものが、不意に敵となること、俗に、うらざりする。

うら 一、かぜ 浦風 一、浦をふく風、はまかせ。

うら 一、かた 占形 一、占に現はれたる吉凶の象をいふ。

うら 一、がなし 心悲 一、心が悲し。

うら 一、かね 裏鐵 一、薄き鐵板にて、鐵の裏につくるもの

うら 一、がへる 裏返 一、ひっくりかへる、二、うらざり

す、内應す、味方と信せしものが、却て敵となる。

うらかみ 浦上氏 一、姓名 紀氏にして世々赤松氏の臣なり、應仁の頃大に振ひ備前を管す。

うらかみ 一、ぎよくたう 浦上玉堂 一、人名、有名なる文人 畫家、文政三年九月歿す、年七十六。

うら 一、ざり 裏切 一、内應すること、二、反對に立つこと(仲間のもの)

うら 一、ぐち 裏口 一、家の裏手の口、勝手口。

うら 一、くりう 有樂流 一、茶道の一派。

うら 一、さだめ 卜定 一、占にて吉凶を定むること。

うら 一、ざん 浦里 一、漁村。

うら 一、ざん 心淋 一、俗に、心ぼそ。

うら 一、ざん 心寂 一、うらさびしく思ふ。

ウラジホストツク Vladivostok 港の名、露國の軍港にして、朝鮮との國境にあり、日本海に面す、毎年冬期は氷結し、其間殆んど三月に及ぶ。

うらしま 浦島子 一、長壽の人のたごへなごに用いて芽出度こととする語、其故は、昔、丹後國浦島に住みける人、龍宮に至り、三年を経て歸りしに、世はかわり果てて己は既に白髮の老人なりきとの、物語によるなり。

うら 一、じろ 裏白 一、植物 蕨類、隱花植物にして、山野

に生じ、葉は、せんまい、に似て、其裏白し、環帯は横にありて全周す、子葉は縱裂して胞子を有す、其葉は正月の飾りに用ひらる。

うら 一、ち 浦路 一、浦邊の路。

うら 一、づたひ 浦傳 一、海邊の路をゆくこと。

うら 一、なご 浦和 一、浦の波の靜穩なること。

うら 一、なひ 占 一、吉凶をうらなふこと、二、うらなひしやの略、賣卜家。

うら 一、のつかさ 陰陽寮 一、天文、曆數を司るところ、

うら 一、はづかし 心耻 一、氣耻かし、心耻かし。

うら 一、はん 裏判 一、證書類の裏書へ押す判、二、たぐん。

うら 一、はら 裏腹 一、うらなもて、反對、うらうへ。

うら 一、びと 浦人 一、浦里に住する人、漁民。

うら 一、びと 憂へて思ふこと、うれへわぶ。

うら 一、べーうち 卜部氏 一、姓名 藤原氏と祖を同くす、世々占卜を世職す。

うら 一、べーけんこう 卜部兼好 一、人名 和學者 吉田兼好ともいふ、故實、老莊の學に精通し、京都双ヶ岡に住せり

其著、徒然草は有名なる書なり、觀應元年二月、伊賀國
見の岡の草庵に歿す、年五十七。

うらーぼん 孟蘭盆 七月十五日、百味の飲食を盛りて
佛に供するをいふ、齊明天皇の三年七月始めて行はる、生
靈祭、盆。

うらーま 浦苗 浦のまがりたる所、古語。

うらまつーうじ 浦松氏 姓名 内膳の番、日野氏より
出づ、日野時光の子資康、烏丸を稱し、其子重光に至り、
浦松を稱し、其女を常に足利氏に入れ、幕府に権威を逞ふ
せり。

うらみ 恨 一、怨むること、二、遺憾に思ふこと。

うらみーこつすゐーにてつす 怨徹骨髄 痛切なる怨
をいふ。

うらーみち 裏道 一、裏口より出入する道、二、間道

うらみーのーたき 裏見流 瀧の名、下野日光山にあり

高さ十丈、瀧の裏面を見るを得べし、故にこの名あり。

うらむ 恨 一、他の任打を不平に思ふ、二、残念がる

ウラントン 烏蘭布通 地名 天山北路にあり。

うらむーらくーは 憾 残念なることには。

うらーむらさき 紫 紫 残念なることには。

ウラン Uranium 化学 元素の一、原子量は、三九、

五、銀白色の光澤を有する金屬、比重一八、七少しく延性
を有す、空中にて熱すれば表面酸化して黒色となる。

ウランゲル Wernicke 人名 フレデリキ、ウランゲル

は薩州革命時代のプロシアの將軍にして、西紀一八四九年

四月廿日丁抹軍をウランゲルに破り、又一八六四年普墺の

聯合軍を率ゐるシャルスヴィヒに侵入したる人なり、西紀一

七八四一八七七年

カロロ、グスタフ、ウランゲルは瑞典の有名なる將軍に

して獨乙丁抹波蘭等に轉戦したる人にして、三十年戦争に

尤も勳功あり、西紀一六三一一一六七六

フェルナナンド、ウランゲルは露西亞の海將且探險家、一

八一七より一八一九年に至る間にゴロブニアンの下に世界

を一周し、又一八二〇年單身北氷洋の探險を企て遂に北緯

七二、二の地迄達し、ヤクトト人の住地を視察し後再び北緯

七〇、五一の地に至りしも、之より北に航する能はざりしか

ば前進を止め歸りたり、是等の紀行の著はされたるものあ

り、(西紀一七九六一一八七〇年)

ウーランド Uhland, Johann Ludwig 人名 獨乙の詩人

にして、チロリゲンに生る、一八〇五年ゲナヒテなる

詩集を作れり、又多くの戯曲を作り、一八二九年ナッリ

ンゲン大學に教授として任命されしを辭したり、西紀

一七八七一一八六二年)

うらめし 恨 俗に、うらめしい、怨に思ふ。

うらやすーに 心安 安心して。

うらやすーのーくに 浦安國 我が日本國の古名。

うらやまし 羨 俗に、うらやまし。

うらやむ 羨 一、他のよきことを見聞して、我もそれ

を得んと思ふこと、二、他のすぐれたるをねたむ。

うららかに 麗 晴々とのどかなる有様。

ウラル Ural 地名、ワラル山の東部に、源を發して、

歐亞三洲の界をなし、南西南に流れ、三角洲をつくりて、

裏海に注ぐ、長七八〇哩、オレンブルグより大船を通ずる

ことを得入し。

うらーわ 浦曲 浦の曲り込みしところ。

うらーなーかく 裏切 うらぎりにたなし。

うり 瓜 植物 一、南瓜、胡瓜の如き蔓草の總稱、二

まくわうり。

ウリ Uli 地名 瑞西國の森林を以て有名なる四縣の

一にして、ワントルタルテンの北に位す面積四一五方哩、

人口一萬七千餘あり。

うりーおけ 賣上 一、賣終ること、二、賣上高。

ウリアスタイ Uriahtai 地名 北緯四七、三五、東經九

2 1 3

○、蒙古西北部の同名の州の一市にして、ウリアスタイ河

上にあり、滿州將軍の居所にして、鞏固地方守備隊あり、

シャリアとの通商上樞要の地たり、人口五千餘。

うりーかけ 賣掛 物品を賣り、現金にて代價をうけ取

らず、一定の時期に至りて、集め取るをいふ。

うりーかひ 賣買 賣ると買ふと、あきなひ。

うりーかへで 植物 槭樹科の木本にして、葉は掌狀な

り樹皮は製紙の糊料に供せらる。

うりーされ 賣切 悉く賣れたること、残らず賣りて品

ざれになりたること。

うりーぐひ 賣食 一定の職業なく、家財道具を賣りて

其代價にて活計を立つるをいふ。

うりーこ 賣子 商家に雇はれて、其商品を賣り歩く人

うりーこば 賣詞 他を怒らすために言ふ暴言。

うりこばーにかひこば 賣詞買詞 他より暴言せ

られ、我よりも更に暴言を以てすること。

うりざねーがほ 瓜核顔 美人の相、たもなが。

うりーしろ 賣代 一、商品の代價、二、賣上金。

うりーだし 賣出 一、賣り始むること、二、一定の日

に景物などを添へて、商品を賣ること。

ウリチ Woolwich 地名 テームス河の右岸にあるケン

ト州の一市にして、國中最も重用なる武庫あり、武器の製造甚だ盛なり、人口四萬餘 (Garrison, 0.5E)

うりーのき 瓜木 植物 山菜萹科、葉は積みをぎりの葉に類し、花瓣は細長くして白色なり、八角楓、又一にうりばかへで、ともいふ。

うりーはらふ 賣拂 賣りはなす、賣却す。

うりーひろめ 賣弘 俗に、うりひろめること。

うりん 羽林 近衛の大中少將の唐名。

うりんけ 羽林家 近衛司を経て、近衛の將官に昇り得る家柄、中山、飛鳥井、六條、等の家々をいふ。

うりんげんこう 羽林源公 人名 松平定信の事なり。

ウリヤンハ 兀其哈部 人名 滿州吉林地方の通古斯族なり、惠帝と戦ひ功により地を得て強大となる、後帝親征し、次で太子仁宗位に即き、兀其哈部の軍を破る、之より振はす。

ウリヤンカタイ 兀其合台 人名 支那の將軍、元の速不台の子なり、憲宗即位の初、兀其合台として西南を平げしむ、兀其合台即ち雲南より交趾を侵し、其王を降せり

うりよう 雨量 地文 地面に降したる雨雪が地中に浸透せず又蒸發もせざるものと假定したる時、地面に堆積すべき分量を言ふ、通常ミレートルにて其深さを計る。

うる 糶 五穀類のねばりなきものをいふ。

うる 賣 一、物を渡して錢を得る、二、だしぬく、例へば「國をうる」、「友をうる」の如し。

ウル 地名 太古アブラハムが始めてカーンンの地に向て出たせし所なり、バビロニアの最古部として、楔形碑文を以て有名なるウールの地と同一なりといふ、現今はユーフラテス河の右岸なる、ムギチルの遺跡は即ちウルなり。

うるう 閏 陰曆にては、五年に二度づ、十三ヶ月を以て一年となす、之を閏年といふ、陽曆にては、四年毎に一度第二月が二十九日となる、其年を閏年といふ。

ウルガ 地名 外蒙古の中心たる都市にして、人口約三萬、喇嘛教徒頗る多く、殿堂壯麗を極む、支那政府より派出せる辦事大臣二名此地に駐在して、邊境の經營に従事す、西紀一八七一年、露國より守備兵及び領事を置けり。

ウルカン 人名 トルコ人の酋長スリマンの曾孫にして、小亞細亞の全部を畧し、イェニツェリと稱する勇敢なる軍隊を組織し、歐人に當る、之よりオスマンリ、トルコ勃興す、(一三二五—一三五六年)

ウルゲアイ 國名、南亞米利加中の最小なる

共和國にして、ブラジル及び大西洋と、ウルゲアイ河との間にあり、面積七二七二方哩、人口七十七萬餘、首府をモンテビデオといふ、十七世紀の頃、西班牙のセスイット教徒の創設せし所なり。

ウルゲアイ Uruguay 河名 南亞米利加の大河にして、ラプラタ河の支流なり、長さ九百五十哩あり。

ウルゲンチ Urgentz 市名 中央亞細亞の一市にして、阿母河の支流に沿ひ、人口三千余、露西亞、波斯、及アフガニスタンとの間に通商行はる。

うるさし 頰 眼はし、うるさい。

うるし 漆 植物 漆樹科 小葉は中助の両側に、十五個内外の脈を有す、莖より汁液を出し、之を漆に製して器物を塗るに用ふ、果實よりは臘をつくり、木材は種々の用に供せらる。

ウルジー Walsey Thomas 人名 英國の牧師、英王ヘンリ八世に仕へ、大法官となる、一五三〇年反逆の罪を以て拘留せらる。

ウルシス Uryk Sabhalanus de 人名 伊太利のベスイット派の僧にして、支那明朝に來り、布教に従事せり

ウルス ウルス汗 人名 白黨汗なり、金黨汗の後絶つて、白黨、月即伯、哥里米の三汗正統を争ひ息まず、帖木

兒之に乗じ、白黨部より出で、ウルス汗を追ふ。

うるはし 麗 一、美し、二、親しむべし。

ウルバノ Urban 人名 八人の羅馬法王の名なり、即ち、ウルバン一世は西紀二三三より二三〇まで在位、同二世は有名なる第一十字軍の首唱者にして、一〇八八より一〇九九まで在位、同三世は一〇八五より一一八七まで在位、同四世は一二六一より一二六四まで在位、同五世は一三六二より一三七〇まで在位、同六世は一三八七より一三八九まで在位、同七世は在位僅に十三日、同八世は一五六八より一六四四まで在位せり。

ウルビノ Urbino 市名 中央伊太利の舊都市にして、ペサロの西南二十哩の小丘に在り、人名五千余、第十五、十六世紀の間、文學美術の淵藪として著名なり。

ウルビーアヌ Urbanus 人名 羅馬五大法律家の一にして、其名著三卷は民法全典の基礎をなしたり。

ウルフィラ Ulfila 人名、有名なるゴート語の學者にして、聖書をゴート語に譯せり、西紀三八一年コンスタンチノーブルに於て死せり。

うるふーどし 閏年 一年は三六五日五時四八分五〇秒なり、便利のため、一年を三六五日とし、之を閏年と言ふ、然る時、凡そ四年間に一日の違ひを生ず、依て、

三六六日の年を作りて之を補ふ、其年を閏年と言ふ。

ウルフィーベク Ulfh Beag 人名 韃靼の王子、天文学に通じ、サマルカンドに觀測所を設けぬ。

うるぼす 潤 一、しめり氣を含ませしむ、二、利す、富ます。

うるまのーしほ 琉球國 地名 琉球の異名。

ウルマン Weermann 人名 カロロ、ウルマンは獨乙の有名なる美術史家なり、初めハイデルベルグ等の諸大學にて法律を修め、西紀一八六〇年 生地ハンブルグにて辯護士となりしが、後英佛北米を歴遊してより身を美術史の研究に委ね、遂にミッソンヘンにて「ギリシア及羅馬の田舎的自然の意義につきて」なる論文を公にしたり、後ハイデルベルグ大學の講師となりしも、伊太利亞、ギリシア等に旅行し、「太古人民の美術に於ける地方」なる一大論文を出し又、ローマのエスキルの岡の太古オデシ地方をも公にす、一八七三年アムステルダム美術學校の美術史の教授に任ぜらる、後再び歐洲諸國を漫遊し、其紀行に南北歐の美術及地圖を附して出版す、一八八二年ドレスデンの繪畫展覽會長に擧げられ目錄を作る、其他書法及繪物に關する著書及詩集をも作りたり(西紀一八四四年七月四日生) アドルフ、ウルマンは前者の弟にして壯時より海外に賀

易觀察として歴遊し後アフリカ航路鐵船株式會社を設立したる人なり、一八八四年より一八九〇年迄國民自由黨の一員として議院に列し政事に盡したる事もあり(西紀一八四七年十二月十日生)

ウルマンは米國クエーカー派教者にして又慈善家なり、(西紀一七二〇—一七七二)

ウルミア Urmia 市名 波斯のアゼルバイジャン州の一市にして、人口三萬餘、ゾロアスターの生地として有名なり。

ウルム Urm 市名 ドナウ河畔地方、ウエルテンベルグの一市にして、ドナウ河の左岸にあり、工業盛にして人口三萬餘あり、西紀一八〇五年、オーストリアのマツク將軍が降伏せし所なり。

ウルムチ Urumchi 地名 新疆省にあり、一に迪化府といふ、新疆省交通の要路に當り、新疆巡撫此地に駐在す。

ウルリカ Uricka 人名 瑞典の女王、カロロ第十一世の女なり、西紀一七二五年、ヘッセルカッセル伯なるフレアリキと婚を結び、一七二九年帝位に上りぬ。

ウルリヒ Urich 人名 ウエルテンベルグの公爵、西紀一四九八年國を繼ぎ、一五一九年、スラヴィア同盟のた

めい臨運せられしが、一五三四年勢を恢復したり。

ウルリヒ Urich 人名 獨乙の詩人、スチリアの貴族の門に出づ、西紀一二七六年死せり。

うれ 己 水のれ、われ。

うれ 汝 なんぢ、うぬ。

うれし 嬉 喜ばし、俗に、うれし。

うれしなき 嬉泣 喜極りて泣くこと、感泣。

うれたし 慨 なげかはし、慷慨にたへぬこと。

ウレーテ Wrede 人名 一八三三年十月三十、三十一兩日埃、巴の連合兵を以て、ハーナウに於てナポレオンと戦ひたる大將なり。

うれひをーはらふーたまはうき 掃蕩玉箒 酒の異名

うれふ 憂 憂なげく、心配す、思ひ案じる。

うろ 空虚 うつろ、の略、中空。

うろ 雨露 一、雨と露と、二、天皇の恩澤治きといふ、「雨露のあぐみ」

うろ 有漏 佛教の語、世俗の凡夫。

うろーたほむ 充分に覺ゆること。

うろんぶ 一、うろこ、二、魚其物をさしてらふ。

うろこ 鱗 一、魚類の皮をつ、む、重なりたる小片、二、紋所、三、魚の名、もろこ、ともいふ。

うろこーごけ 藤苔 植物 苔類の一種にしてセニョクと共に普通種類に屬す。

うろたへる 狼狽 あわてふためく、取りさわぐ。

うろつく 彷徨 迷ひあるく。

うわら 禹王 人名、う、を見よ。

うわらーさわらうに 右往左往 四方に散亂する有様「右往左往に敗走す」

うわじま 宇和島 町名 伊豫國北宇和郡にあり、徳川時代に、藤堂氏之に封せられしが、後、伊達秀家ここに封せられて、明治に及べり。

うゝあ 有爲 佛教の語、「有爲轉變」「うゝあわくやま」

うゝあき 禹域 支那の全國をいふ、昔、禹が水を治めて、九州を定めたりしにより、かくいふなり。

うゝあてへん 有爲轉變 佛教の語、世俗のこの、變りやすきをいふ、「有爲轉變の世の中」

うゝあ 飢 飢うること、腹がすくこと、饑餓。

うゝあき 植木 一、他より持ち來りて、庭などに移し植うること、二、花木を鉢に植ふるをいふ、一に、鉢栽といふ。

うゝあーごみ 植込 樹木を多く植ふこみたること。

うゝあたるものーしよくなしやすし 飢者易爲食 孟子

「飢者易爲食、渴者易爲飲」とあり、飢渴の甚だしきものは之を醫するに專にして、食物飲料の善惡を、かへりみるに暇あらず、如何なるものにも満足すとの意なり、諺に、「ひもしし時に、まづいものなし」又、「飢えたるものは食を擇ばず」にたとへし。

うゑつけ 植付 草木をうゑつくること、二、田植、即、稻の苗を田にうゑつくるをいふ。

うゑばうさう 植苞着 天然痘にかかると、さく

るために、年少者の手などに、疱瘡をうゑつくるをいふ、種痘。

うゑん 迂遠 まはり遠きこと、直に役に立たぬこと

迂曲、迂餘、迂愚、などにたとへし。

うゑもん のーちん 右衛門の陣 右衛門府の役員の詰

所、内裡の清涼殿の西に位す、宜秋門の西にあり。

うゑ 魚 動物、魚類、水中に住み、其形一定せざれど

も、頭、胸、尾の三部より成る、全身必ず鱗を以て覆はれ鱗

あり、之によりて移動す、腹に、うきぶくろあり、之によ

りて浮沈す、鰓は裂けて呼吸の用をなす。

うゑがし 魚河岸 魚類の賣買をなす所にして、多く

は水邊にあり。

うゑつ 魚津 港名 越中國下新川郡魚津町にあり。

ウナルムス Wonn 都市の名 獨乙フィン河の左岸に

ある都市にして、西紀八〇六年、カール大帝の都せし所な

り。

ウナルムスーちよくれい Wonn 勅令 カール五世

が法王の歡心を得んために、ルーナル一派に對して、發し

たる法律保護停止の勅令なり。

うゑのーめ 石龜 生理、皮膚の一部厚化して、圓錐

形の角質物相接して倒立するをいふ。

ウナルムスーちよくれい

江

江 類 Glume 植物、禾本科の花の外側にあり二

枚の小包なり。

江 冠の、こしの根をしむる紐の餘り 背に垂る

もの。

江 鬚 鬚 鬚の柄の長さものにて、支那貴婦人の面を

かざすもの。

江 衛 地名 春秋十二列國の一、姫姓、周の武王の弟

康叔封の封せられたる國、戰國七雄の起るに及び滅ぶ。

江 南 オーストラリアに在る湖、

英の旅行家ジョアン、エーア始めて發見したる故此名あり

(38, 29 S. 137, 0 E.)

江 人名 英國殖民地の總督にして、西紀

一八四〇年より翌年迄オーストラリアを探險したる人なり

(西紀一八一五—一八六六)。

江 繪合 中古行はれたる遊戯にして、繪を左

右に分ち、優劣を争ふものなり。

江 永安門 内裏の南、承明門の右にあり

て、内裏の内廓十二門の一。

江 水戸後樂園中に建てたる

碑、水戸光圀薨せしとき、其愛鷹も亦死したるを埋めり。

江 影向 佛語、佛のすがたをあらはすこと

佛の、この土に化身すること。

江 鏡判 幾何學上の語、一直角より小なる角

度。

江 永岳 人名、和泉長谷寺住持、眞言宗の高

僧 博學多才、講演に巧なり、將軍綱吉のとき大僧正に任ず

正徳二年 享年 七十四にて歿す。

江 甲斐國北巨摩郡大真村に 文

永七年 大覺禪師の草創せしもの 弘法大師自筆の不動尊

の影像を木尊とせる臨濟宗妙心寺派。

江 藤原定家の著、歌

學に付きて書きたるもの。

江 詠歌大槓抄 書名、定家の詠歌

大槓を註解せしもの、細川幽齋の著。

江 關東争亂の原因、足利

持氏と上杉憲實との確執 北條早雲の 伊豆に起ることな

るの記。

江 永享二年大嘗會記

書名、後花園天皇永享二年十一月十八日より 二十二

日までの大嘗會儀式を詳かにせしもの、中原康富ものす。

いーくわ 類果 植物、稍々瓊果に類する、瘦子房單細胞より成る、いね、むぎの果の如し。

いーくわーものがたり 榮華物語 書名、宇多帝寛平年間より堀河帝寛治六年まで、中宮攝政を記し、道長親白の榮華を主とす、作者は赤染衛門と、藤原為業との二説あり又榮華物語抄、榮華物語考、ありて榮華物語を抜粋し證明せり。

いーこまけん 永小作福 法律語、存続期間二十年以上、五十年以下にて、他人所有の地に於て耕作 又は牧畜をなす權利。

いーさい 榮西 人名、備前吉備津宮の人、明菴と稱す仁安二年、宗に入り、禪宗を修め、建久二年歸朝、鎌倉建仁寺を建つ、享年七十五、寂す。

いーざん 叡山 地名、比叡山の別稱、延暦七年、僧最澄之を開く、歷史上最も皇室と密接の關係を有す、即白河帝三不如意中の山法師、建武年中、後醍醐帝再度、行幸あり、賊軍に對し兵馬驅逐の境となる、後信長、僧侶の暴を恐みて、之を燒く。

いーざんーかたばみ 叡山酸漿 植物、多く叡山に於て生ずる、かたばみの一種、春季、白又は薄赤色の花を多く開く。

いーざんーはくま 叡山鬼督郵 植物、草類、一椀に一葉を生ず、葉形、綿に似たり。

いーざん 永字銀 錢名、寶永七年三月、寶字銀を改め、永字の極印を附す。

いーじつ 養實 植物、果實、薔薇の實にて、藥種とす。

いーじつ 觀賢 人名、法華宗の高僧、奇行に富む尊卑平等を主とす。

いーしんーわう 英親王阿濟格 人名、清の世祖の叔父、清朝開基の時、流賊李自成の亂を平げ、之れが基礎を開く。

いーしんーしんわう 榮仁親王 人名、崇光天皇の皇子、有栖川宮の御先祖、享年六十六、應永二十年十一月薨す。

いーじはつぽふ 永字八法 蔡邕の創意、運筆八法を示す。

いーしやうーさ 永昌記 書名、堀河院長治二年、崇徳院大治四年の記録、參議爲陸の著書。

いーしやう 永承 年號、後冷泉帝年代、紀元一七〇六一七二二。

いーせうーくわうたいごう 英照皇太后 人名、御名夙子、孝明帝の後、國步艱難の時に際し、帝を輔佐し内助尤も多し、嘉永元年十二月十五日入宮、六年五月七日准后、慶應四年三月十八日、皇太后宣下、明治三十一年一月十一日、壽六十一にて崩す。

いーせんのみづにーみみをあらひしーけんしん 頼川の水に耳を洗ひし賢人 支那堯帝の時、許由なるものありて賢人なり帝、之を聞き、位を譲らむとす、許由之を聞きて、耳洗ひたりとて頼川に之を洗ひしと云ふ。

いーちゆう 睿宗 人名、支那唐朝五代の帝、高宗に嗣ぐ武后に廢せられて相王となる、玄宗出で、玄宗の後、章氏を誅して之を重祚せしむ、在位三年、開元四年、年五十五にて歿す。

いーちん 觀尊 人名、南部西大寺住職、律宗の高僧、本邦律學中興の師、龜山上皇に寵せらる、正應二年八月廿五日、年九十にて歿す。

いーだう 影堂 歴史、一宗の祖師、一寺の開祖、祖先の像、位牌を祀る堂なり。

いーはいーじ 永平寺 地名、寺號、越前國吉田郡志

比谷村にあり、寛永元年、道元禪師の建つところ、禪師は久我氏の後胤にして、初め入宋して、曹洞宗を究修し、歸朝して、越前に寺を立て、永平寺と名けたり、これ今の曹洞宗の本山なり。

いーゆいーわう 永野五由楯 人名、支那明代安宗の從弟、明の最末の帝なり、永曆十年、清軍に破られ、雲南に走り、十三年緬甸に走る、翌年、緬甸の人に捕はれ、清軍の手に入り、雲南に死す。

いーやうーわう 嬰陽王 人名、朝鮮高麗長壽六世の孫、前に隋の地、遼西を侵し、隋の文帝、出で、恢復せんとして大軍を率ひて攻む、嬰陽王大將の乙文徳の奇計に苦しめられ、功を奏せず、一度も隋に朝したることなし。

いーらく 永樂 清の世祖の年號にして、世祖の即位の年より崩御の年迄廿二年間據けり。

いーらくーせん 永樂錢 支那明代成祖の時、鑄造せし貨幣、足利義政の奢侈にて國帑疲弊、明より輸入せしめて我通用錢とす。

いーらくーやざ 永樂燒 陶器、京都の陶工の善五郎了全、支那永樂燒に真似て燒きたるもの、多く茶器なり。

いーらくーのーてう 永樂の朝 歴史、時代の名、支那清朝世祖一代の朝、(皇紀二〇五九—二〇八四)。

わいりゆう 留王 人名、高麗の嬰陽王の弟、兄に次ぎて王位に即く、兄嬰陽王の清軍を破るを助けしも自國に内亂ありて泉蓋蘇文の爲め殺さる。

わいりふ 鱧類 動物、保護色類 體扁平にして盤状尾狭くして薄し、背鰭尾上に在り、鰓孔五對腹面にあり、定着魚にして近海に産し、運動敏活ならず 砂低を餌とし軟體類、甲殻類を食す。

わいわ たいじやうゑい 書名、永和十一年 大嘗會の始末と二條其基の書きしもの。

わいろく 永祿寺 地理、寺號、正親町天皇永祿十一年 耶蘇教宣教師ピレラ、京都に教を弘めむとす、信長京都に一地を興へて寺を建立せしむるもの、後ち南蠻寺と號しぬ。

わいらん 歡覽 天皇の見そなはし給ふこと。

わいらんたい 依蘭苔 *Cetraria islandica* 植物

木狀地衣類の一種にして本邦及諸州諸高山に産するもの健胃劑として用ふ。又アイスランドにては 食事の際 牛乳に和して之を飲み、又麥粉と混和して 一種のパンを製すと云ふ 其味甚だ苦し。

わいり 銳利 刀などよく切れて するときこと。

わいり 營利 金錢をまうくること、他人の利害如何

を顧みることなく 自利をなすを 營利を食ると云ふ。

わいりやく 永曆 年號、わいれきとも讀み、紀元一八二〇年二條天皇の御代。

わいりよ 歡慮 天子の御心、思召。

わいりよく 營力 *Energy* 地文、地熱、大氣の力、水の營力、生物の營力等の如く 地球に諸種の變化を起さしむる原動力即ち是れなり。

わいれき 永曆 明の最末の天子永明王の年號、十五年間續きたり。

わいれき 永曆帝 人名、安宗の從弟にして、明最末の天子なり、(永明王の條を參看せよ)。

わいわ 永和 年號、紀元二〇三五年より二〇三八年まで四年間 後醍醐天皇の御代。

わいろく 永祿 年號、紀元二二一八年より 二二二九年まで十二年間、正親町天皇の御代。

わいじん 永遠 すすみままでも、ながくとたくまでの意。

わいけうけ 英雄家 家格、清華家とも云ひ、古の公卿の格の一。

わいけい だつす 脫穎 古語、才氣をあらはすこと、オあるはさきを出すこと、史記に「楚三讓一使當脫穎」と

あるより起りたり。

わいあき 瑩城 葬地のこと、墓所のこと、多く王公貴人の墓所を云ふ。

わう 要 一、かなめなること、肝心なること、重要なこと、要用なること、二、せむすべ、わもはくなどの意あり。

わう 蝦 うはびの轉音にて、わびのこと。

わう 論 はやううた、童謡などは高尚ならざる意、諸曲等は 高尚のうたひにて目下盛に行はれ 大和田建樹は此論に精通せりと云ふ。

わう 妖 一、わさはひの意、二、ばけもの、あやしきものなどの意。

わう 曜 曆語、日を、月、火、水、木、金、土と七つに配して云ひたり。

わう 幼 ねさなきこと、いとけなきこと、又ことも、ねさなき人の意あり。

わう たん 勘音 文典 きゆくわ ちゆ等の音。

わう 後 役名 ふやく(夫役)に同じ。

わうがい いた 要害板 歴史、武器の名、薄き鐵板にて作れる、兜の眞日指と鉢とを接合せるところの面を包ふものなり。

わうけし 兄弟 人名、會長、大和國菟田縣の會長 神武東征の時、弟猾の密告により 道臣命によりて殺せらる、時に紀元前戊午八月なりき。

エウクシス *Euxinus Pontus* 地名、黒海の古名、

エウクラテス *Eucratides* 人名、紀元前一八一一年バクトリアに出づ、バクトリア王アメトリウスを廢して王位に即く、印度遠征の歸途、子の爲めに死す。

エウクリデス *Eukleides* 人名、紀前三〇〇年頃アレキサン德里アに住せし有名な希臘幾何學者にして實に幾何學の今日あるを致せし基を立てし人なり、幾何學を學ぶの士にして 氏の名を知らざるものなし。

紀前五世紀中頃にありし希臘の哲學者にして、ソクラテスの高弟なりし、ソクラテス殺してより一派の學派を立てたり、哲學史上之をメガラ學派といふ。

わうこん 幼根 植物、種核内の胚の胚軸の下にあるもの。

エウジニオ *Eugenio* (Eugenio) 人名、オースト

リアの將軍、サボヤの公子、西班牙繼承事件のとき 英國の

マイルゴロ公と共に佛軍をブレハイムに破る。

わうしきーけいやく 要式契約 法律語、或る方式の履

踐を以て 成立要件となす契約、贈與の契約の類。

エウスタキオ Eustachio, Eustachio, Eustachio. 人名

ローマに在りし醫師にして、種々解剖學上の発見をなした

り、就中最著なるは氏の名を冠せるエウスタキアン管及

エウスタキアン瓣なり、(西紀一五一〇—一五七四)。

エウテデモス Euthydemus. 人名 マケドニアの王、

西紀前二〇八年バルケヤ王アルサケス二世を廢して其王國

を奪へり。

エウセビオ Eusebius. 人名 古代有名の宗敎家に西

紀三二三年ケーサレアの僧正たりし人なり、コンスタンチ

ヌス帝の傳記等の著あり、(西紀二六四頃—三四〇)。

わうーちゆう 虫 動物 虫類の卵より孵化したるま

ま、即 蛹なり。

わうーてつ 窮弊 形容語 なをやかなること。

エウドクソス Eudoxos. 人名 數學者、ギリシアのア

ラトリーの弟子なり。

わうーてん 要點 要所に同じく、要用なるどころ、大

切なる部分の意。

わうーたう 妖桃 咲きたる桃花のはでやかなること。

エウボイア Euboea. 地名 ギリシア群島中の最大な

るもの、長約一〇〇哩 大理石の瓦坑及銅鑛あり、首府

をナアルシスと云ふ。

エウドシア Eudoxia. 人名 皇后、フランクバウトの

女、ビザンチオン帝の皇后、又テオドルシウス二世の女に

て、羅馬の皇后とされるあり、バレンチニアン三世に嫁し

夫暗殺さるるや 其兇行者マキシムと婚す エウドシア

はギリシアの名譽の義なり。

エウドクソス Eudoxos. 人名 エウドクソス、オア、サ

イタスは小アジアのサイゲラスに生る、航海者にてアフ

リカを一周し 西紀前二世紀半頃死す。

わうーねん 幼年 幼少と同じく、たさなきとし、幼き

時の意。

わうーのもの 要物 かんしんなるもの、要用なるも

のの義。

わうーはい 遙拜 遠き地にありてながむこと、はるか

にながむことなり。

わうーはいじよ 遙拜所 遙拜する爲めに 設けられた

る場所。

エウパトリド Eupatrida. 人名 政治家、ギリシアのア

テ子の貴族の一人にして、紀元前第七世紀にアテ子の政權

を掌握せり。

(385, 423, 37 E.)

わうーま 妖魔 あくま、ばけもの、妖に同じ。

わうーま 么麼 極めて細きものを云ふ。

わうーみやう 幼名 わらはなども云ふ たさなきとき

の名なり。

わうーむ 要務 大切なる用事、要用なること、だいし

なることめ。

エウメニス Eumenes. 人名 一、忠臣、西紀前三六〇

年ギリシアのトラキア、カルデアに生れ アレクサンドロ

ス大帝に仕へ 其終生秘書官たりき、三三〇年 大帝に従

ひ ヘルシア遠征に趣き 智勇勳功、以て天下に名を揚げ

領土さへ賜はりしも アンチオクスの讒にて 牢に入り

三二六年歿す、二、メルガムスの王エウメニス一世即ち此

人なり 西紀二六二年より在位廿三年間なりき、三、エウ

メニス二世なり、二世は一世の甥、治世平和且文學技藝に

熱中し 自ら進むで之を奨励したり、メルガムスの圖書館

も此時に建設せられぬ、一五九年死す。

わうーよ 腰輿 輿の一種にして 腰のところにてつる

を以てかく云ふ、たごし、いたびし 皆同じ。

わうーよう 要用 必要なこと、だいしの用事。

わうーらく 瓔珞 一、珠玉などは多くつるして飾りた

わうーび 么微 么麼の義に同じ 蓋し 至微至么の字

より來る。

わうーおく 要服 地名、支那にて 王畿より 方二千

里の域のことを云ひたり、國語に 蠻夷要服とあり。

エウフラト Euphrates. (Ufrata, Fra) 地名、河名、

西アジアに於ける最も有名なる大河の一にして アルメニ

アの諸山に 發源し 西流して 多数の小流を合せ アル

メニアを二分し シリアに接し 豊饒の地メソポタミアと

アラビアとに分ち 更に北東に轉じてパロニア及カルデア

と メソポタミアとの間を斷ち ナグリヌ河と合流して

ヘルシア海に注ぐ、全長一七〇〇哩に及び 一一〇〇哩の

間は舟楫の便あり、ナグリヌ河との合點をシャト エル

アラブと云ふ。

わうぶつーけいやく 要物契約 法律、貸貸借、消費貸

借、寄託等の如く 當事者の合意以外に於て 目的物の行

渡を以て成立する契約なり。

わうーべう 窮乏 幼少、杳々、窮冥、皆同じく 極め

てはのかなること、史記に「紅綉渺以眩滯」とあり。

エウボイア Euboea. 地名 エーゲ海に於けるギリ

シア群島中の最大なる嶋にして、幅四十哩、長さ殆んど百

哩、人口約八萬二千あり、大理石坑、銅坑、鉄坑に富む

る冠のこと、二、佛具にて、佛の前にある輪燈の上に珠玉をつらねてかさり垂したるもの。

わうらん 捲簾 図 つりかこ、小兒の釣懸臺のこと、英語の所謂ハンモックのこと。

エウリク Euric 人名 會長、西ゴートの會長、西紀四六六年兄テオドリク二世に代りて位に即き、スウェーデンに於ける西ゴート國の獨立を計り、テオドリクの事業を完成しぬ、四八五年を以て死せり。

わうりやう 要領 図 大綱に同じく、ねもなるどころ、むねとあるどころ。

エウリピデス Euripides 人名、喜劇戯曲家、西紀前四八〇年、サラミスに生れ、家富めりしも自ら好む角力を練習し、後心變して繪畫を學び、又詩を修めて成功せり、氏は廿五歳にして處女作を出し、八十曲を作れりと云ふ、四〇六年歿す。

わらうやく 葉緑體 図 植物の緑色を呈す原物にして細胞中におり、或は莖、枝の綠色部に存在すれども多くは葉中におり、圖に示す如く通常小顆粒状をなし、原形質内にあり、其實質は



原形質より成れる無色の生活體にして、其中に葉綠素を含む、是れ綠色を呈する所以なり。

エウリメド Eurymedon 人名 將軍、ギリシアのアテチの大將、ペロポネソス戰役に大功ありき、後、西紀前四一三年サイラキエスの附近に殺せらる。

エウリメド Eurymedon 地名、今のカプリス河にして、小アジアのピンダとパシヒリアとの間を流れ地中海に注入する一小流、嘗てヘルシア陸海軍の、キモンの下にあり、ギリシア人の爲め、大敗せし地なり。

エウロタス Eurotas 地名、ギリシアのイロー河の古典上の名稱、アルカデアに源を發し、ラコニアに注ぐ、長三〇哩、又ギリシア、オリンパス山附近の河も、イタリアのタレントム附近の一河も同名なり。

わんなんこつ 合厭軟骨 Epiglottis 生理 喉頭入口の蓋をなし、食物の喉頭に入るを防ぐ、軟骨より成る。

エオリア Aolia 地名、古代ギリシアの一州エオリア人の占領したる小亞細亞の一小地。

わがろ 柄香爐 図 柄の長き香爐にて、導師となる僧の持つもの。

エガテ Aegate 地名、第一ポエタニ戰争の時、羅馬人カルメゴの艦隊を破りしところ、シチリア島、西岸地中の持つもの。

海中にある三箇の島なり。

エカテリンブルク Ekaterinburg 地名、一七二三年、テロ大帝、ウラル山東測イセト河の西岸に跨る露國の一部邑となせしところ。採銅業を主とす。

エカテリノダル Ekaterinodal 地名、ロシアのクバン州クバン河の左岸にある一部邑、黒海沿岸のコーサック兵駐屯所なり。

わがは たらうさきもん 江川太郎左衛門 人名、名は英龍、坦菴と號す、伊豆代官、蘭學を修め、洋式操練に通じ、攘夷の不可を説く、安政六年正月十六日享年五十五にて歿す。

わがは にふとく 額川入徳 人名、性陳、名明録、字完我、支那明代坑州の小兒科醫、慶安年中本邦に歸化す、年七十九にて死す。

エガリテ Egalite (Tais Philippe Joseph) 人名、佛國オルレアン公、佛國革命に朝廷に反く、一七九三年十一月十一日絞刑に處せらる。

わき 一う 液雨 図 地文、陰曆十月頃ふる雨なり。

わき 一か 液化 図 物理、瓦斯體又は固體の冷却又は壓力によりて、液體となるを云ふ、主に瓦斯體に云ふ。

わき 一が 腋芽 図 植物、葉面と莖幹との間、即、葉腋の間に生ずる芽なり。

わき 一じゆう 一ぼくしつ 液汁木質 図 白木質に同じ。

わき 一たい 液體 図 物理、凝集力なく、形状の彈性を失ひ、容器に従ひて其形状を變ずるもの、水、油、アルコールの如し。

わき 一たい 一ふりやく 液體の浮力 図 物理、浮力の條を見よ。

わき 一ちゆう 益虫 図 動物、人生に利益を與ふる昆虫、例へば、カイコの物品を與ふる、トンボの小害虫を食して害を少くすること。

わき 一ちゆう 益鳥 図 動物、益虫と同意義にて、保護鳥禁止鳥の如く樹木の害虫を食ふもの。

わき 一ゆう 一ガス 永久瓦斯 図 化学、昔、水素、酸素、空氣等の如く臨界温度低く壓力高き瓦斯體は液體となし得ざるものとせしが今日之を液體となすを得、永久瓦斯の名は不要となる。

わき 一たい 一へうめん 液體の表面 図 物理、静止する液體の表面は其液面に作用する重力の、方向に直角をなす水平面をなす、斯の如く、連續せる液體の表面は、水平面を求めむとするの性質あり、これ水の高所より、低所に向ひて流るる所以、又總て液體は、自ら、收縮せむとする性質

買れば、雨滴の玉状をなす理なり。

いざいーのあつりよく 液體の壓力 物理、(1)パスカルの原理、即ち重力の作用によらざる場合は、液體を入れを密閉したる器の局部に壓力を加ふるときは、此壓力は、増減なく、四方に傳播す。(2)液體の壓力と深さの關係即ち重力に基きたる壓力、(イ)には液同一の深さにある諸點に於ける壓力の強さは、上方に向ふも、下方に向ふも、又前後左右何れの方向にも皆等しく、(ロ)には深さの異なる點の壓力の強さは、其の深さに正比例するなり、之を証せむに、深さH所にA面積を有する一水平面を想像すべし、此面積は、Aを底とし、高さhなる液柱の重さを支へざる可からず、之れ其全壓力なり、液の密度をdとせば、全壓力は、重力單位にて、 $\gamma \cdot H \cdot A$ なり、故に、壓力の強さは、 $h \cdot d$ にして、深さは正比例すること明なり。



いざいーのばうちやう 液體の膨脹 物理、液體の膨脹は固體に比して、割合多し、アルコールは、温度一度のとき其の千分の一膨脹す、水は奇なる一種特別の性質を有す、温度零度より四度に至るまでは如何に熱するも、膨脹せずして、減縮し、四度以上に至りて膨脹す、故に攝

氏四度の蒸溜水を以て、物質の比重を標準とし、物質の密度の比を取るを常とす、之を稱して物質の比重と云ふ。

いざいーしやう 泳氣鐘 物理、水面にコップを覆ひて之を水底に沈むるも、水敢て入らず、深く沈むるも、唯僅かの水侵入す、これ、内に大氣のおればなり、泳氣鐘は此の原理に基きたる 鐵製の機械なり、底なき一大箱の中に、櫛數個を設け、空氣を送る管、光線を入る數個の硝子の窓を上部に作り、海中に入りて目的の事をなすに便利なる機械なり。

いざせんしふ 易然集 書名、寛文中、京都の五山の僧侶に命じ、詠進し給へる詩歌集にて、後水尾院自ら之に題號せらる。

いざざれ 體切 動物、背椎動物、魚類、こめと云ふ。

いざていーきよく 驛選局 役所、明治以後に出來たる郵便をつかさどる官署、今の逓信省なり。

いざいゆうーじしやく 永久磁石 Permanent Magnet 物理、永久磁氣を失はざるものにて、鋼鐵にて作れる普通の磁石を云ふ。

いざいゆうーのこうすい 永久の硬水 化学、煮沸して軟水とならざるもの、硫酸カルシウム $CaSO_4$ を含める水の如し。

いざいゆうーのこうすい 永久の硬水 化学、煮沸するも軟水となし得ざる性質にして、主として硫酸カルシウムを含める水の性なり。

いざいゆうーのこうすい 永久風 地文、定風に同じ。

いざいゆうーのこうすい 奕讀 人名、清朝宣宗皇子にて醇親王と稱し今帝の父。

いざいゆうーのこうすい 地名、ギリシアのエギナ島内にある小島、第三ヘルシア戦争の時アテ子の老幼婦女の避難所なり。

いざいゆうーのこうすい 地名、大化改新の頃官用を達する爲め各驛に置きたる馬。

いざいゆうーのこうすい 磨鈴 人名、馬を徴發せしむる爲め符として官人に渡されし鈴。

いざいゆうーのこうすい 人名、元太祖の姪にして憲宗二年、一軍の大將として、高麗を征し、全く臣服せしむ。

いざいゆうーのこうすい 人名、西紀十五世紀の羅馬の畫家。

いざいゆうーのこうすい 地名、南亞米利加の一共和國、イ

いざいゆうーのこうすい スパニア人の創建せしもの、一八三〇年、獨立して共和國となる、アンデス山脈國中を南北に横斷し、最高の活噴火山若干あり、人種はヘル土人の黒奴、西印度諸島に生れた

いざいゆうーのこうすい 産物は椰子、珈琲、幾那皮、獸皮、行政は大統領、副大統領、二大臣、元老院十八人、代議士は三十一人より成る。

いざいゆうーのこうすい 地名、マルセイユの北方廿哩に在る佛の一都會にして、人口二萬二千あり、紀前一二三年ローマ人の建てたるものなり。

いざいゆうーのこうすい 東ローマ皇帝が中部イタリヤ地方の知事に與へし尊稱なり、希臘教會にて此尊稱を用ふ。

いざいゆうーのこうすい 地名、シシリア南岸の丘陵なり、西紀前二五六年、カルタゴ艦隊、ローマ艦隊に破られしところなり。

いざいゆうーのこうすい 阿蠻 地名、メサアの舊都府にして、現今のハマタンなり、デヨケスの建てたるものなり。

いざいゆうーのこうすい 人名、英國のウェセツタスの王にして、八二年イギリスの七國を統一して今のイングランドを建つ。

いざいゆうーのこうすい 人名、カロロ五世に仕へ外交家兼軍人なりき。

いざいゆうーのこうすい 海名、ギリシア

と小アジアとの間の海にて群島あり。

エーゲル Eger. 地名 一三五〇年ホヘミヤに合し、一四十二年埃國繼承戦争の時苦められたるホヘミヤ市エーゲル河畔に在り。

エーゲル Eger. 地名 ホヘミアの河名。

エーゲル Eger. (Erlau, Tager, Agria). 地名 ハンガリーの一城市、國王ステファノ建設せり。

エーゴ Ego. 地名 喜望峯 Slynax Japania de u. z. 植物、チヤノキ、コハセノキの別稱、種子は紫褐色にして油に搾り、又灰と混して肥料となす、材は杖其他挽細工に用ふ。

エゴスホタミ Agosopotami. 地名 トラキアのゲルソテッソスの河にして、紀前四〇五年スパルタの提督サンドルの軍のアテ子の海軍を全滅せしめたる所なり。

エゴ Ego. 地名 北海道的山にありて、檜山支路あり。

エゴ Ego. 地名 兄弟城 人名、神武東征の時 召喚に應ぜず、遂に戮せられし、山城國の酋長なり。

エー 衛士 人名 大寶令を以て定められ、弘仁年中左右衛門府と改められたる衛士府の役人、男子二十年より六十年までを正丁とし、一國の正丁總數三分の一を徴發して兵役に服せしめ、上京して、宮衛に當てらるもの、定員六百名。

エー 衛士府 中古宮城の諸門の警衛、鳳臺の前庭後殿を司りし官廳、左、右二府あり、大寶令にて置かれたるものなり、弘仁中左右衛門府と改稱さる。

エジプト Egypt. (Aegyptus). 地名 アフリカ東北隅の國、歴史上の名高き國、西紀前四〇〇〇年 建築、文字、彫刻、天文、醫學等は、盛んに行はれたり、今は名義上トルコに屬するも實權は、イギリスに在り。

エジマヤ 江島屋共 人名 通稱市郎左衛門、京師大佛餅を賣とす、戯曲家にして、八文字屋派の一派を開く、年七十 元文元年六月死す。

エスキロス Aeschylos. 人名 マラソン、サラミス兩戦争に功ありし、ギリシアの悲劇脚本作者なり。

エステル Ester. 化学、酸性水素をアルキル基に置換したるを云ふ、エステルは、酸化作用に在り、即ち稀薄アルコール液又は酸性となしたる水と共に、熱するか、或は 水蒸氣と共に、過熱するときは、アルコールと酸

どに分る。

エズ 目の中をさされたる如き感しをなすこと。

エスキモ Eskimo. 人名 アメリカ及びアジアの北極沿岸より、北極群島に住める モンゴル人種、アメリカインド人種の原始時代の人民、質朴なる種族 共産主義をなす。

エスバルテロ Espartero. 人名 西班牙グラナダに生れ、カルリスト徒に對し、イサベラのイスパニア王位を要求するを助け、ヒットリア公に任じ、後英國に逃れ又歸りて 宰相たること二年に及ぶ。

エスクイリノ エスクイリノ岡 Equiline Hill. 地名 古代ローマ七丘陵の中央の岡、コロセウム(大劇場)は、之に、パチの岡との間に在り。

エステ Este. 人名 イタリア王族中最古のものにて、十八世紀 パウリア公となり、フランスウィグ ハンノフェルゲル家の祖にして、又イタリアのアルフォンゾ二世二世の祖なり。

エステ Este. 地名 伊太利の一部會 パトバの西南一八哩に位置す、傾斜せる鐘樓、エステ家の舊邸を以て名あり。

エステニヌ Estienne. 人名 バリーに生れて、西紀

一五三九、フランス一世皇帝の皇宮印刷師となり、ギリシア及ラテン語學の出版物を出し、自ら此が註釋をなし、其他字書も 編纂せり。

エストランド Estland. 地名 ロシアのバルト州の一商業及製造業 隆大なり、首府をレヘルと云ふ、十三世紀オランダ人の占領、西紀一五六一 瑞典人占領、一七二一 ロシア占領となる、面積七、八一八方里。

エスオピア Ethiopia. 地名 エジプトの南よりアデン灣に渡る一帯の土地、即上古埃國人種の住地、セム種族住む。

エスイタ Jesuita. 宗派 一五三四、イグナイオ、ローラの創立せし 耶穌教の一派。

エゼ 額哲 人名 魏祖可汗の後に於て孔果爾汗と稱す 唐太宗 天統九年之を降す、額哲は倭國を獻す。

エセックス Essex. 人名 ロベルト、デメロー、エセックスは、イギリスのエリザベス女王の寵臣、其子國會議の總裁たり。

いーせい 衛星 Satellites. 地名 各惑星の周圍を旋轉する天體を其衛星と云ふ、旋轉運動は 惑星の引力による、月は地球の衛星なり。

いーせい 衛生 生理 自體を健全ならしむる爲の注

意なり。
いせい-がく 衛生學 衛生に關する事を研究する學問なり。

エゼキエル Ezechiel, Ezekiel. 人名 へブライの四大預言者の一人。

エセルレド Eshelad. 人名 英王。

いさ 動物 魚の名、こちに似て、長さ七八寸、蛇の如く、鱗は堅く、頭は扁圓形なり。

いさ 蝦夷 地名 北海道、本島東北地の一帯を總稱して云ふ、蝦夷人種(鹿蝦夷、熱蝦夷)の住地、蝦夷人は和銅年中最も積暴を極め、延暦七年又亂を興せしかば、坂上田村麿之を打ちて遺族なし、後徳川氏は、松前藩を置き、之を委し、明治二年八月、北海道を置く。

いさ-いちげ-さう 蝦夷一夏草 植物、草名 北海道に産するいちんさうの一種。

いさ-ぎく 蝦夷菊 植物 草名、初秋草を出して、菊花に似たる花を開き、色は種々、葉はよめなに似たり。

いさ-きげまん 蝦夷黄菫 植物 草名、けしの類にてきげまんの一種。

いさ-だいくわん 蝦夷代官 歴史、役名、昔、北海道に置かれたる代官。

いさ-にしき 蝦夷錦 織物、支那産の一種の錦、滿州より樺太に渡り、蝦夷を経て、日本に渡る。

いさ-ふじ 蝦夷富士 地名、北海道後志國或志郡後志山の別稱。

いさ-まつ 蝦夷松 Picea sibirica, Fresh. 植物、松柏科、葉扁平、裏面白色、産地のトビヒに類す、材質堅密ならず、杉の劣るに代用す。

いさ-じま 江田島 地理 廣島縣安藝國安芸郡の海中にある周圍八里の島、海軍兵學校の所在地なり。

いさ-すみ 枝炭 植物、茶の湯の時に用ふるしる炭、よこやま炭にて、つづしの小枝を、炭に焼き、上に白く石灰を塗りたる炭。

いさ-たる 柄樽 祝ひの時に酒を入れて人に贈る道具にて、多く朱漆の二つの角の如き柄を大きく高く作り添へたる酒樽。

エタン Ethane, CH₃-CH₃. 化学 1 製法-自然、粗製石油中に在り、又、無水醋酸と過酸化バリウムとを熱するなり、2 性状-無色無臭の瓦斯體、四度四十六氣壓にして液體となる、アルコールに溶け易く淡き光輝ある燭を擧げて燃ゆ。

エター-ジェネロー Bat General. 西紀一七八九、フラ

ンスの子ツケル、宰相となり、國會を召集す、議員は僧侶部 貴族部 平民部より成るを以て、三部會と稱せり、これを エター、ジェネローと云ふ。

いさ-ご 越後 地名 北陸道の一犬國、天武朝に置かれ、昔、越の道と云ひたり、戦國時代上杉氏之に據る、豊臣氏の會津に移す等歴史上有名の國なり。

いさ-せん 越前 地名 北陸道の一國、古の越國の一部にして越の道の口なり、福井縣に屬す。

エチソン Thomas Alva Edison. 人名 トマス、アルバ、エチソンはアメリカの有名なる發明家にして、オハイオ州ミランに生れ家貧なりし爲め、列車給仕、新聞賣子となりて身を起し、鐵道幹線内にて新聞紙を賣るの特權を得て、活版の古物を購求し自ら印刷して幹線新聞なる新紙を發刊したり、此は流車にて印刷發刊せられたる新聞紙の嚆矢にして、夙に創作の天才ある事を顯はせり、此間或る驛長につきて電信技術を學び、數年ならずして自動レヒーターを發明し、後ホストンの電信技師たりし時有名なる二重電信の組織を發明し、其後陸續發明創作をなし、其發明實に數日に及べり、就中最も有名なるものは、二重電信、四重電信、敬重電信、電話、無線送話器、蓄音器、補聴器、顯微鏡、エーロスコープ、キチトスコープ、活動寫眞鏡、

電燈の種々なる装置、炭電發信機等なり、今も尚ニューヨーク州、オレンナの工場にて發明事業に従へり、(西紀一八四七年二月十一日生)。

エチルエーテル Ethyl ether, C₂H₅-O-C₂H₅. 化学 1 性状-無色流動性液體、比重〇・七三、沸點三五、快香なれど長用すれば感覺を失ふ、2 化学的性質-水に容易く溶解せざれども、アルコールとは任意の割合に混ず、(但し其蒸氣は燃ゆ易し)、効用としては外科醫の用むる麻酔劑、脂肪樹脂其他多數の物質を溶解する溶媒となる、3 製法-強硫酸三百瓦、九十一「セルセントアルコール」百七十瓦の混合物をフラスコにて百四十度に熱す。

C₂H₅-OH+H₂SO₄→C₂H₅SO₄-H+H₂O
C₂H₅-SO₄-H+HO-C₂H₅→C₂H₅-O-CH₂-H₂SO₄

硫酸再び生ずるを以て、間斷なく、アルコールを加ふればエチルアルコールを生ず。

エチレン Ethylene, CH₂=CH₂. 化学 1 製法酒精を濃硫酸と共に熱す。

H₂SO₄+CH₃-HO=SO₂-O-CH₂-H₂
SO₂<O-CH₂-H₂=SO₂-H₂+C₂H₄.

2 性状—液體は零下百三度にて沸騰、液化は零度にて四十
四氣壓を要す、一種の香氣を帯び、強光明を發し、水、酒
精に溶け難く、臭素を通ずれば、臭化エチレン Et_2Cl_2 、 Et_2Br_2
を生ず、石炭瓦斯中五分乃至四分存在するものなり。

エチンバラ *Ethinbar* 地名 スコットランドの首府、
ファース、オプ、ファース灣に臨む、西紀第七世紀ノーサン
ブリア王エドワインの創建したるものなり、一三二九年ロ
ベルトセ、アルースを城市に創設し、第十五世紀にス
チャアト朝の首府とせらる、王宮、城砦、大學、大書院、
舊スコットランド國會議事堂等あり、人口約三十萬二千あ
り。 50,57N, 3,11W。

エチダ *Ethid* 人名 舊約全書創世紀中のロトの妻の
名なり。

えちご—ちぢみ 越後縮 織物名、越後小千谷邊を以て
主産地とす。

えつ 動物 魚名、身せばく、白色又は淡黒色、たらう
を以て似て、淡水と鹹水との間に棲む。

えつ 地名、夏小康の後、吳の南、今の浙江省、常
に吳と好からず、勾踐に至り、吳王闔閭を破る、其子夫差
前辱に報ず、又勾踐范蠡をして、吳を襲ひ、中國に入りて
一時諸國の覇たりしも後楚の爲めに併吞さる。

エックス—ほうさんせん X放散線 物理 X光線の事
なり。

えつ—せん 也先 人名 支那明代瓦剌部長脱歡の子、勢
隆なれば明の英宗、宦官王振の言に従ひ、五十萬の大兵を
率ひて親征し、土木堡にて捕虜となる、景帝立つに及び上
皇英宗を擁して京師を圍む、抜き難く、遂に北に退く、後
威勢衰へ、和を請ひ、上皇を還送す。

エッセン *Essen* 地名 プロシアのライン州の一部會、
炭坑の中心地、クルップ兵鑄場在り又上古ローマ式の精舎
あり。

エッセン *Essen* 人名 ハンス、ヘンリ、エッセンは瑞典、
西ゴートランドに生れ、陸軍軍督となり、佛軍の攻むるに
當り能く之を防ぎたり、ノルウェーに知事たることは西紀
一八一四—一八一七に及ぶ。

えつもく—せう 悦目抄 書名 和歌心撰集、更科記
とも稱す、藤原基俊のものせし歌學なり。

えつせん—ぶは 也先不花 人名 察合臺汗都哇の子
武宗の子和世辣、仁宗の後を次ぐを得ず、雲南王となる、
是を以て武宗の舊臣、怒りて、察合臺汗に據れるを幸ひ喜
んで之を迎へたり(西紀一〇一六)後、海都の帝國を併せ明

えつみず—ざい 越後新瀉 薬名 薬を細末にして、煎
したる蜜の如く乾燥せるもの。

エックミュール *Eckmühl* 地名 西紀一八〇九年四
月二十二日、佛軍埃申と戦ひ、カロロ大公ナポレオンの爲
め破られたる、獨逸バワリア古戰場なり。

エツクレシア *Etschreis* 地名 ユリシアのアテチの民
會の一、政府案を議する所なり。

えつ—さい 悦哉 動物 骨推動物、猛禽類、大き
よどりに似たり。

エックス—こうせん X光線 物理 X放散線、X放射
線の別稱、レントゲンの發明せしものにて原理は、クルツ
クス管の陰極に對して光を放つ硝子壁より、一種の放射線
の射出せらる、光なり、此の性状
寫真板に普通の光の如く作用し、
竹木等を透明、硝子、骨等は稍不
透明に通過す、而して、筋肉は
骨よりも透明なるを以て、動物體
の皮肉を通して、其骨格を撮影し
得、又X光線は青化白金パルツム、青化白金加里をして螢
光を放たしむ。

エックス—ふくしやせん X放射線 物理 X光線の事
なり。

えつ—ちゆう 越中 地名 北陸道の一國、昔越の道の中
と云ふ、天武朝始めて置かる、幾多の變遷の後、上杉氏占
領し、天正七年織田信長之を佐々成政に與へ、豊臣氏は前
田利長に與ふ、富山縣に屬す。

えつ—なん 越南 地名 一八〇三年、阮潢九世の孫福
映、佛軍の援によりて草建せし國なり。西紀一八五八年佛
は柴混を占領し、王阮弘は交趾支那を割き償金を出して和
をなす、後戦争の結果、保護國となり、清佛戦争の基因を
なし、西紀一八八五、佛の占領地となる。

エーテル *Ether* 物理 極微細薄なる彈性體のもの字
宙間至るところに填充す、エーテル中に激動を起すと、
横波を生じ四方に擴布す、光、熱エーテルも之によりて
變ずるなり。

エーテル—るゐ *Ether* 類、化學 アルコールの二分子
より水一分子を去るもの即ち、カルキル酸化物なり、例へ
ばメチルエーテル、 $(\text{CH}_3-\text{O}-\text{CH}_3)$ 、メチルエーテル
—アルコール $(\text{CH}_3-\text{O}-\text{C}_2\text{H}_5)$ 等の如し。

えつ—すばう 射手素袍 犬追物、笠掛等の遊戯に着て
人目に立つ様、風流に染めたる素袍なり。

えつ—もの 最も上手なるもの、意義と、猿の異名との
宗と稱す。

二義あり。

エデッサ [Edessa] 地名 アザア州メソポタミアの一部市、西紀三世紀ローマ帝ワレリアヌスの戦敗地、一〇九七年十字軍占領地、一一八四トルコ人の領有となる。

兄弟 階級 木、火、土、金、水の五行の名を兄弟に分ち、配するに十二支を以てしたるもの十干と稱す、**兄弟** などの義。

江戸 地名 武蔵國東京の舊稱、今は帝國の首府孝徳帝の時豊島荏原の二郡を置かれしに始まり、五百年後秩父重綱江戸氏を名乗り、太田道灌資持康正二年、城を築き、慶長年中徳川家康幕府を開くに及び、十五代の居城となり、明治維新車駕此處に遷されしより長き帝都とはなり。

遊戯名 八道行成 やささがりを云ふ。

エドウィン [Edwin] 人名 西紀第六世紀ノーサンブリアの王にして、其妃の勢力を藉り、聖僧ノゴナンをして基督教をイングランドに誘入したる人なり、エザンバラは王の創設したるものなり。

エドウィン、**ジョアン**は喜劇に巧なりし英國俳優なり(西紀一七五〇—一七九〇)

エドワードの—あぶかり 繪所預 歴史 領とは古の長

官のこと、昔禁中繪畫の事を掌る役所ありて之れが長官のことを云ふ、延喜以後此名あり託磨爲成任せられしを始とす。

江藤新平 人名 鍋島侯の臣にて佐賀に生る、三條實美に用ひられ、司法卿、參議と累進し、明治六年西郷隆盛と征討論を主張し、議用ゐられず、佐賀に叛りて士族に鼓かれ、官軍に抗す、連戦利あらず、高知下田浦に捕はれ、明治七年四月十三日佐賀に梟首せらる、年四十。

鳥名 脊椎動物 無胸起類、目の上に白き筋あり、嘴、足ともに黒色、ひしくひの一種なり。

エドワード [Edward] 人名 王、太平王の異名ありイングラッド王(西紀九五九—九五七)なり。王は領土内のデンマルク及サクス両民族連合統一策を擬し、ワケールス住民に貢賦せしむるに毎年銀三百を以てし之れが撲滅をはかる。

江戸金剛 植物 草名、つめれんげ、**江戸座** 其角の風を學ぶ俳諧の一流派。

江戸時 地名、常陸國信太郡東方小野川の西岸にある一市なり。

江戸城 關東管領上杉定正の臣太田道灌持資の始めて築きし城にして、康正二年工を起し、長祿元年四月竣工したるものなり、道灌は品川に住せしが工成るや移りて此に住みたり、此地は千代田、寶田、祝田の邊にして、此頃も尙茫々たる武蔵野の曠原にして前に海水満々たりし、道灌の文明十八年七月歿してより、主の定正の手に歸し、上杉の子孫相次で之を領したり、後大永四年正月北條氏綱之を攻陥し其臣遠山四郎景政をして守らしめしが、天正十八年四月秀吉の手に歸し、次で十八年八月に至り徳川家康茲に封せられ移り住むに及んで大に修築を加へたり、慶長年間家康の此に幕府を開きてよりては、政令一に此處より出で、十五代將軍の居城となり、三百年間文物の中心たりしが王政維新幕府政權返上と共に、明治元年七月十七日詔を以て東京と稱し、宮城と定め、永く本邦の帝都と定められたり、鎌倉草創の頃は江戸重長なるもの住して此を領し居りしなり。

江戸町奉行 地理 徳川氏の初代江戸の南北に両奉行所を置き、江戸市中のこと、及町一切のことを掌るところの名なり。

エドワード [Edward] 人名 英國大僧正、オクスフォードの南大聖アベングラム城邑に生れたるカンタマリー大

僧正セント、エドモンド、リチナリ、國に志を得ず餘命を佛國の一寺院に暮せり、後イノセント四世によりて聖僧と推尊せらる。

又エドモンド、アイルン、サイド(西紀九八一—一〇一六)はイングラッド王 剛者の異名あり、後二人の侍従の手に斃る又セント、エドモンド(八五五—八七〇)東アングリアの地主耶蘇教を嫌ふ爲め、佛軍の侵入の時爲めに殉死す。

アクトリア [Actia] 地名 ギリシアのコリント灣の北方にある州 38.25N. 21.25E)

エトリシ [Etruria] 人名 地理學者、イスパニアに生れ、アラビアの地理學者となる、(西紀一〇九九—一一一八)

エトルスキ—しゆぢく [Etruski] 種族 人種 エトルリアの住民、迷信家にて魔術を知る。

エトルスク [Etruscans] 種族 人種 古代伊太利の人民なり。

エトルリア [Etruria] 地名 イタリアの古國 チメル上流にして エトルリア人の住地 風にギリシアの文化を受けしも、ローマ隆盛と共に、漸く、衰へたり。

得鳥羽月 陰曆四月の異稱。

千島の最大島、明治八年までロシア領なりき、嘗て近藤守重の我領域たる木標を

立てしことあり。

エトナ Etna 地理 火山、シチリア島の東海岸に在る噴火山にて古來幾度の噴火あり。(高さ一〇八四〇呎)

エドワード Henri Milne Edwards 人名 ヘンリ、ミルネ、エドワードは動物學者にして、一八〇〇年アルツァスに生れ、始めパリにて醫學を修めしも後動物學研究に身を委ねたるなり、無脊椎動物學、比較解剖學等の著あり。

エドワード Edward 人名 博物學者、イングラランドのボーツマスの西對岸ゴズホルト市場に生れたる博物學者なり。

エドワード一世 Edward I 人名 王、英國ヘンリ三世の子、バロンの戦、十字軍の最後の戦争に功あり、大に國政を改新せり。

エドワード二世 Edward II 人名 王、エドワード一世の子、暗愚、バーケリー城にて惨殺せらる。

エドワード三世 Edward III 人名 王、エドワード二世の子、英邁、フランス王位繼承權を主張して、百年戦争を始め、クレシー、ポアチエの勝利、スロイスの大海戦に勝ちたり。(西紀一三二一—一三七七)

エドワード Edward the Black Prince (黒太子) 人名

王、エドワード三世の子、父に従ひ數度の戦争に名をあげ西紀一三五五年英軍を率ひて佛國に侵入し、其の翌年ポアチエ戦に佛王ジャン二世を擒にす、一三七六年六月ウエストミンスターに殺す。

エドワード一世 Edward I 人名 王、ヨーク公リチャードの子、エドワード黒太子の後を次ぐ、此時内に薙髮戦争ありて騒亂を極む。

エドワード二世 Edward II 人名 王、四世の子暗愚、叔父リチャードに殺せらる。

エドワード三世 Edward III 人名 王、ヘンリ八世の孫イギリス王たり、國教制定、ペンキの大勝等著しきものあり。

エドウィン Edwin 人名 王、西紀六世紀ノーサンブリアの王、エセルフリドを建て、後、メルク王にシタに抵抗し、六三三年十月ハットフィールドに戦敗して殺さる。

エドワールのうみ 得名津海 地理、海名、丹波に在り

エドワールのやま 惠那山 地理、山名、仲仙道木曾山中の高

エドワールのなげ 胞衣桶 中古禮式に人の産るとき胞衣を入れて土中に埋むる桶、高さ八寸、廣さ七寸。

エドワールのなげ Aegithalos 動物、脊椎動物、鳴禽類に屬する

鳥にして禁止鳥の一なり、嘴短くして尖り、鼻孔圓くして小なり、尾は體より長くして先端の中央は周りのものよりも短し、頭は白く脚は弱し、眼は周黄色を帯べり、背、翼尾は共に黒し、長さ四寸、翼の長さ一寸八分、尾の長さ二寸五分あり、一年に二回産卵す。

エナガ Aegithalos 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

エナガ 動物、脊椎動物、鳴禽類、嘴短くして尖り鼻孔小、尾は體より長く、長さ四寸位。

エナガ 得ならぬ香 形容語、何ともいはれぬ匂、口にすればぬ美き香。

の色を吸収する故青色に見え、黄色の繪具はスペクトル中の青藍等の青に近き色を吸収して黄色に見ゆるなり、故に青色と黄色とを混合すれば、白色とならずして綠色を呈するのころくさ 狗草 植物 草名、穂の形、このころの尾の如し。

江島 地名 島名 相模國鎌倉郡の内海の一孤島、周圍十七町、西方遠く白雲の間に富嶽を望み、南海には大島の浮べるあり、島中辨財天の祠あり。

埃宮 地名 安藝國に在り、神武東征の時の行宮なり。

榎本其角 人名 俳諧師、近江國堅田の住人、芭蕉翁十弟子の一人、寶永四年、年四十七、歿す。

榎本武揚 人名 軍人にして政治家 徳川幕末の臣、明治維新の際、一時逃れて函館五稜原にありしも抗し難くて降りぬ。明治八年五月露國駐劄全權公使となり千島と樺太との交換條約を議決し、明治廿五年青木周藏に代りて、外務大臣となりぬ。

動物 獸名 うしに同じ。

人名 アダムスの妻の名、アダムの妻に人間の母と稱ふらる、ものなり、此語はギリシア語にて生命といふ義にして、彼に斯く名けしは彼は總ての生物の母なればなり。

衣鉢 佛語 師父より傳へらる、奥義。

伊勢蝦の化石せるもの。

物理 化學、紺に赤味を加へたるもの、繪具の用とす。

動物 魚名、あかいはい、しじれいはいの類、體圓、鱗あるも鱗なし、刺を有す。

植物 ぶどうに同じ。

植物 草名 いぶきとらのをに同じ

人名 哲學者 アリギアのヒエポリスに生れ、チロの解放奴隷、ローマに來りて哲學を修め一派を開き、跛足貧困に世を送り、エンチリザオシを著し、靈魂不滅を信じ自死の實行を宣告す。

地名 トルコのトラソの舊名、ローマに大道の終極地なり、シーザーのポンペイに逐斥せられし所。

地名 昔ギリシア西北部の一大國トドナと稱す、西紀一四六六、トルコ帝國の一部分なりしも一八八一、ギリシアの一部となれり。

人名 哲學者、ギリシアのサモアに生れ。アエチに居住し、ストア派に反對して、子弟を教へ、熱心學理を究め、克己、節約、堅忍を奨励す。

英彦山 地名 山名 豊前國最高山、田川郡に在り、十谷、四十九窟あるを以て名高し。

英彦山神社 地名 豊前國田川郡英彦村にあり、忍骨命を祭れる官幣小社なり。

人名、七福神の一人、風折鳥帽子に狩衣、差笈を着け、扇をつれる像なり。

歴史 戦争の時着る衣。

植物 草名、われもかうに同じ。

地名 湖名、佐渡國越後湖のこと。

歴史 唐土の弓。

化學 染色の名、紫の淺きもの。

植物 葡萄科、葉は掌狀、下面に赤白色の毛密生せり、果實は暗黒色にて食用又は酒釀の原料

動物 寄生虫、わびづるに生し小兒の癩の薬となる。

植物 菊科草名、葉は潤長、花は總狀の穗狀春氣咲く、萼片夢瓣は、褐紫色、唇瓣は淡紫或は白色、春季花開く。

歴史、戦のとき昔矢を盛りて背に負ひしもの。

人名 歸化人、雄略帝の朝本邦に歸化し、織物を織らす。

人名 詩人、アテン人の神クレマの詩人、ソロモンと時を同ふす。

いびく 蝦尾 二義あり(一)動物、魚名、金魚の一種

(二)三味線及琵琶の軸の上部を云ふ。

エプアルテス Epulate 人名 一、セウス神に反対

して天を暴らんとせし巨漢の一人なり、アポロ及びヘラ
クレスの爲めに手足を切断されたりといふ、二、ギリシア
のトラキニアに生れたる人にして、紀前四八〇年波斯王ク
セルクスに内應して、波斯軍に山間の通路を教へてテル
モシレの險要に據れるスパルタ軍を大敗せしめたり。

いぶいぶき 葉拔 植物 發枝する莖と葉の間の部分。

エフエソス Ephesus 地名 小アジア、リヤア州のメン

デレ(ゲースタロス)河口に在る舊市にして、今は衰頽せる
も、中古は商業繁盛にして、外交談判も屢々開かれたりし
地なり、(37.57N. 27.21E)

いぶしん 葉身 植物 葉の扁平部分。

いぶが 幼芽 植物 種子の胚中に存する芽。生長し

て莖となる。

エフタル Ephthaltes 人名 獻睡のこと、アジア、オグ

ス河の附近に住める太古の住民ホワイトフン人種なり、後
トルコ人と混濁せり。

いぶのいみ 闊浮身 佛語 現世の人 凡夫の身のこと

いぶへい 葉柄 植物 葉脈の派出部分を云ふ。

いぶみやぐ 葉脈 植物 葉面の筋、滋養分を輸送す

る部分。

いぶじよ 葉序 植物 互生葉の第一葉より順次直上

重なる幾枚かの葉の數により第何列の葉序と云ふ。

エフライム Ephraim 地名 イスラエル國の中央にありし種

族にして、イスラエルの十二民族の一なり。

エフライム Ephraim 人名 エフライム、サイラスは

熱心にアリア異教に反対せし宗教家にして、高位を受く
る事を辭し、正僧正と呼ばれる、やゲーサレアに隱退したる
人なり、著書頗る多し、(西紀三七八死)

いぶりこ 植物、菌名、光澤ある淡白色を呈し、北海

道に多く産す。

いぶりよく 葉緑 植物、日光の力によりて生ずる緑色

の原質なりアルコール、エーテル、ベンジン揮發油に溶く

いぶりよくーりう 葉緑粒 植物 葉緑を組み立つる

細胞。

エフロ Ebro 地名 イスパニアの河四二哩の長、健

康に瀉す、淺瀬にて急流なれば舟楫の便なし。

エヘル Hebert 人名 フランス革命論者、極端破壊

論主義の人。

エヘルハルト Eberhard 人名 公、獨逸ヴェルテンベ

ルヒ公、セルサレムに參拜し、一四七七年チロリーゲン

大學を起し、一四八二 ミンチンゲン條約によりて分裂せ

し ウェルテンベルヒを一統し 一四九五年公爵に進み、

翌年歿す。

いぼし 烏帽子 歴史 日本中古時の冠、貴人も用ゐ

たれと単位の禮制たりき。

エボナイト Ebomite 物、化 電氣の絶緣體、之を摩擦す

るとき發電す、製法 硫黄と鹽炭とを融和す。

エボニット 化學 エボナイトに同じ。

エホバー Eyobah 地名 イエホバーを見よ

エボラ Eyora 地名 ボルトガル、アレンテヨ州の首

府、人口約二萬、ローマ時代の輪奐の美を極めたる寺院の

遺れるもの多し、(38.40N. 7.39W)

いぼこしら 江馬小四郎 人名 北條義時の異名北

條泰時を江馬太郎と云ふ。

エマーク Emark 人名 會長、ロシア喀薩克部の會長

ロシア東部の始 屢々ロシアを侵したるクナムを打ち

てグイン四世に献す。

エマーソン Emerson 人名 哲學者詩人、アメリカの

ホストンに生れ 英國に學び歸朝して多くの著書を出す、

理論はカーライルと同派にして穩當なり。

エマヌロ Emanuel, Manud, Emanuele 人名 王、

エマヌロ一世はボルトガルの王、聰明、王の時代は同國

の黄金時代なりき、ユダヤ人放逐令を出し、ルーテルを去

らしめむとつとむ。(西紀一四六九—一五二二)

エマヌロ Emanuel 地名 北米合衆國シオルジア州

の東部中央に在り、土地平坦河多し。

いびのいしかつ 蕙美押勝 人名 藤原南家武智麿の

第二子、始め藤原仲鷹と言ひたり、孝謙帝の寵を得て權威

頗る盛なり、兄右大臣豊成を斥け、太子道祖王を廢し、舎

人親王の子大炊王を立て、此專斷に反するものは、皇族親

戚を問はず或は貶し或は殺す、淳仁帝即ち大炊王の即位せ

らる、や、益々專横を極め、諸官制を改め、正一位となる

名を蕙美押勝と賜ふ、時に道鏡の寵あるを大に不平とし上

皇に諷して都督使となり、畿内、三關、近江、播磨の兵事

を司り不軌を謀る、然れ共事發覺し押勝近江に走り、兵を

擧げしも、敗れて死す、黨與皆罪せられ、大炊王は淡路の

廢帝となり、官制亦復す、押勝時に年五十九。

エミリオス Paulus Aemilius Paulus 人名 ロー

マの コンスルにて紀前二一六年カンチーにて戦死す。

エミルアルオムラ Emir al Oumra 侯中の侯の義

にして、ハルン、アル、ラシド後バクダドの發利哈は大に衰へたるを以て、終に西紀九三五年之に代りて朝廷の實權を握り、發利哈をして唯宗教上の元首たるに止まらしめし家宰の名稱なり。

エミル Emir 人名 ション、ジャク、ルソーが一七六二年哲學的小説を著せし書中の人物。

エミュー Emu 動物 脊椎動物、走禽類、脚甚だ強く、翼全く尾と共に退化し痕跡なし、頰竇に咽喉部は裸出し、肉冠を有せず、灰青色をなす、雄六尺の高さあり、濠州の森林中に多く住む。

エミリア Emilia 地名 伊太利北部八州を含める一區域、往古コンソルのエミリアの設けしより名あり、面積七九六七方哩。

エミン Emin 人名、(一)歴史家、小説家、ロシアのエミン、(二)アフリカ探險家エミン、(三)パシヤは獨逸の人、ナイル河の上流を探ぐり、危險に陥りスタンレーの爲め助出せられしも、西紀一八九二年アルメルトニアンの附近に於て土人に殺せらる。

エムス Ems 地名 ライン河の東岸、フランクフルトの東北に在る都會にして、一八七〇年普魯駐在佛國公使の時普王ウィルヘルム四世と會見し、イスパニア王位繼承に

關し談判したる地なり。
江村專齋 人名 儒醫、名は宗具、播州三石の城主江村榮基の後、後水尾天皇の知遇を導ふし百二十歳にて死す。

江村北海 人名 詩人、名は毅、字君錫、傳左衛門と號す、宮津侯の收入官をつとむ、天明八年、年七十六にて死す。

焔 化學、はのほに同じ。

ゆかり 植物、ちなみの煮義あり。

Opereum 動物 サイエ、タニシの螺蓋を云ふ。

鹽 化學、酸と鹽基との化合物、正鹽、酸性鹽、鹽基性鹽あり。

燕 地名 支那春秋列國の一、今の山東省の北部齊の滑王に破られしも、昭王樂毅をして恢復せしめたり、樂毅去るに及び田單に破られ、秦の興るとき併吞されぬ。

燕雲 地名 直隸山西省の北部、五代晉の高祖、契丹に割讓せし地。

圓運動 Circular Motion 物理 或る一端を中心とせる圓形の道に沿ひてする運動。

論理語 理論を以て事物を推

測證明すること。

はんにん 炎災 國語 はのはの盛なる様。

はんにん 奄奄と 精神の蔽閉せる様。

はんにん 燕王様 人名 王、明の景帝の叔父、内亂ありたるとき景帝行くところを知らず、代りて王となり成祖、永樂帝と稱す、都を北京に移し、後安南をも滅す。

はんにん 鹽化 Chlorate 化學、或る組成物中に鹽素を新に入る、こと。

はんにん 垣下 人を饜飶するとき、主人を助けて接待する人。

はんにん 縁海 地理 大陸に沿ふ海のこと。

はんにん 膳下 生理 食物を口より食道に入れて呑み下すこと。

はんにん 圓覺寺 地理 寺號、鎌倉五山の一、禪宗の本山、弘安四年北條時宗宋の僧祖元即ち佛光禪師を招きて之を草建す。

はんにん 鹽化物 化學 鹽素の化合物。

はんにん アムモニウム Ammonium chloride QNH_4 化學、鹽化物、硝砂とも云ふ、製法、硝酸にアムモニアを吸收せしむ、百分の水は百度にて七十七分を溶かす。

はんにん エチル 鹽化エチル 化學 エタンに鹽素を作

用せしめて得らる、燃焼し易き瓦斯、綠色の焔を擧げ燃ゆ水には殆ど溶けざるも、アルコールに溶く。

はんにん カリウム 鹽化カリウム 化學 鹽化カリウムは海水中にあり、時には海鹽より臭素を製し、海草より沃度を製する時副産物として得らる、當時は獨乙のスタスフォルドに於る砂金崗石の堆積沈澱せるものより得、砂金崗石は鹽化カリウムと鹽化マグネシウムとの複鹽にして水に溶かす時は分離す、此溶液を蒸發すれば比較的水に溶解せざる鹽化カリウム先づ結晶す、斯くして兩者を分つ事を得るなり、鹽化カリウムは無色立方體の結晶にして、其水に溶くる量は温度に比して増加す、此物は他のカリウム鹽を製する原料として用ゐらる。

はんにん ガドミウム 鹽化カドミウム 化學 金屬カドミウム又は酸化カドミウムを鹽酸に溶解し、蒸發して濃厚ならしめば結晶となりて得らる、風化の性あり。

はんにん 銀 鹽化銀 化學 食鹽の如き可溶性鹽化物を硝酸銀液の中に入れば生ず、白色の沈澱にして、一五一度にて融解し黄色の液體となる、冷せば硬き角質物となる、之を日光に曝せば初め紫色となり、後に黒色となる。

はんにん 錐化若鉛 化學 若鉛の鹽化物に二鹽化若鉛。三鹽化若鉛の二種あり、各條を見よ。

ばんかーすいろさん 鹽化水素酸 化学 鹽化水素の事なり。

ばんかーだいいちーさん 鹽化第一金 化学 鹽化第二金を注意して一八〇度に熱すれば生ず、白黄色の粉末にして、水に溶けず、之に熱湯を加ふれば分解す、而して鹽化第二金は水に溶け金を沈澱す。

ばんかーだいいちーすいさん 鹽化第一水銀 化学 此物は又甘水と言ふ、下劑なり、硝酸第一水銀溶液に食鹽或鹽酸を加ふれば生ず、無定形白色にして、熱すれば昇華す大仕掛に製するには鹽化第二水銀と水銀との混合物を熱するにあり、然る時は甘水は白色又は稍透明なる纖維質の餅状となり昇華す。

ばんかーだいいちーゴバルト 鹽化第一コバルト 化学 金屬コバルトを鹽素中にて熱するか、炭酸コバルト又は鹽酸化コバルトを鹽酸に溶せば得、無水のものは青色、結晶せるものは六分子の結晶水を含み暗赤色なり、無水のものに水を加ふれば赤色となる、かく水の有無によりて色を變ずるは、コバルト水類の特徴なり。

ばんかーだいいちークロム 鹽化第一クロム 化学 鹽化第二クロムを水素中にて熱すれば得らる、白色の結晶なり、水に溶かせば青色の液を生ず、之を空中に放置せば、

酸化して、鹽化第二クロムとなる。

ばんかーだいいちーすず Stannous chloride SnCl₂ 鹽化第一錫 化学 製法 鹽酸と錫と蒸發して結晶せしむ又鹽化第二水銀と錫の小片とを熱す、即ち

$Hg_2Cl_2 + Sn = Cl_2Sn + Hg$ 性状沸點六〇六度、密度九百度以上にてCl₂Snに合し低き温度にてCl₂Snに合す、少量の水に溶け 空中に放置すれば酸素と化合して酸鹽化物を作る、有力なる還元劑として用ゐらる。

ばんかーだいいちーマンガ Manganous chloride MnCl₂ 鹽化第一錳 化学 製法 酸化マンガンを鹽酸に溶解して蒸發せしむれば四分子の結晶となりて生ず、水解性にて真く水に溶解す。

ばんかーだいいちーてつ 鹽化第一鐵 Ferrous chloride FeCl₂ 化学 製法 鐵屑を鹽化鹽素斯中にて熱す、性状 無色潮解性結晶空氣中に放置すれば左の反應を呈す、 $6FeCl_2 + 3O = Fe_2O_3 + 4FeCl_3$ 又水溶液に放置するときは酸化作用を受けて、鹽基性鹽化鐵の沈澱を生ず。

ばんかーだいいちークロム Chromic chloride Cr₂Cl₆ 鹽化第二クロム 化学 製法 水鹽化第二クロムを、鹽酸に溶かし放置すれば結晶す、性状 空氣中に放置すれば $2CrCl_3 + 3H_2O = Cr_2O_3 + 6HCl$ の反應を呈す紫色結晶

にて真く水に溶く。

ばんかーだいいちーすいさん 鐵鹽第二水銀 化学 昇汞又は猛赤と稱す、製法 熱したる水銀上に鹽素瓦斯を通す又 $Hg_2SO_4 + 2NaCl = Hg_2Cl_2 + Na_2SO_4$ の反應にて生ず。

性状 沸點三〇三度、溶點二八八度 昇華して白色透明となる、毒藥にて五十倍の水溶液も尙微菌を撲滅するに足る又分解することなく硝酸硫酸に溶解す。

ばんかーだいいちーさん Auric chloride AuCl₃ 鹽化第二金 化学 製法 金を王水(硝酸と鹽酸の複酸)に溶かし蒸乾せしむ、性状 潮解性の赤褐色結晶水に溶け易くて深黄色となる、寫眞鍮金に用ゐられ、アルカリの鹽化物鹽化水素と複鹽をなす $HAuCl_4 \cdot 2H_2O$ 及 $NaAuCl_4 \cdot 2H_2O$ の如きものなり。

ばんかーだいいちーすず 鹽化第二錫 化学 融解したる錫の上に鹽素を通するか又は第二鹽化水銀と錫の粉末とを混して熱すれば得らる、無水のものは無色にして流動し易く發烟す、大氣中に放置せば熱を發し結合し三分子五分子、八分子の結晶水を含むものとなる、五分子の水を含めるものは媒染劑として用ゆ。

ばんかーだいいちーてつ 鹽化第二鐵 化学 無水鹽化第二鐵は熱したる鐵に鹽素を通すれば得らる、黑色の結晶に

して透過光線によりて深紅に見ゆ、容易に氣體に變ずるの性あり、又潮解し易く水に溶く、溶液を得るには鐵を王水に溶かすか、酸化第二鐵を鹽酸に溶すにあり、徐々に熱せば黄色の結晶を生ず、血止として用ゐられ又強壯劑たり、第二鹽化鐵をアルコールに溶かしたるものは、鐵下劑と稱し醫藥に用ゐらる。

ばんかーバリウム Barium chloride BaCl₂ 鹽化バリウム 化学 製法 酸重石末を鹽酸に溶して製す、硫酸所在試験劑とせらる。

ばんかーマグネシウム Magnesium chloride MgCl₂ 鹽化マグネシウム 化学 所在一砂金圍石の中にあり、砂金圍石とは MgCl₂、KCl、H₂O なる複鹽なり、製法 炭酸マグネシウムを鹽酸に溶かす、性状 溶液より得るは單稱形結晶 MgCl₂ 6H₂O なり熱すれば $MgCl_2 + H_2O = MgO + 2HCl$ の反應を呈す。

ばんかーメチル Methyl chloride CH₃Cl 化学 性状 無色瓦斯體、沸點零下二十三度、比重一、七三六、アルコールに能く溶解し、染工に用ゐらる。

ばんかーすい Hydrogen chloride HCl 鹽化水素 化学 製法 鹽素と水素との直接合及 $NaCl + H_2SO_4 = NaHSO_4 + HCl$ によりて生ず。性状 一

分子量三十六、四六、比重八、二三、無色瓦斯體にして燃性助燃性を有せず。溶液も普通鹽酸の如く作用せず。

わんかーナトリウム Sodium chloride NaCl 鹽化ナトリウム

を加ふ。性状—無色立方體結晶、零下十度溶液より析出するものは二分子の結晶水を含める柱狀結晶なり。

わんかーニッケル 鹽化ニッケル 化學 粉末狀ニッケルを鹽素瓦斯中にて熱すれば烈光を發して燃ひ、無水の鹽化ニッケルを生ず、淡黄色にして金屬狀の光澤を帯ぶる板狀の結晶體、空中に放置せば、徐々に濕氣を吸ひ、溶解性を得、又酸化ニッケル、炭酸ニッケル等を鹽酸に溶解すれば、鹽化ニッケルの溶液を得。

わんかんーさやう Spectacles for long-sighted eye 遠眼鏡 物理 凸レンズを用ひて遠視眼の水晶體の屈折力を補はしめ、明視せしむる鏡。

わんかんーせん 沿岸線 地名 海岸線に同じ。

わんかーはつさんさん 鹽化白金酸 化學 四鹽化白金に濃鹽酸を加へて得らる、濃厚にせば六分子の水を含める綠色の結晶となる、この酸は鹽基に遇ふて種々の鹽類を生ず内重要なものは鹽化白金酸アムモニウム及鹽化白金酸カリウムなり、美なる黃結晶にして、アルコールに溶解せざるを以てアムモニウム、カリウムの定置に用ゆ。

わんかーはつさんさんーカリウム 鹽化白金酸カリウム 化學 鹽化白金酸の條を見よ。

わんかーはつさんさんーアムモニウム 鹽化白金酸アムモニウム 化學 鹽化白金酸の條を見よ。

わんかーりん 鹽化燐 化學 三鹽化燐 五鹽化燐の二種あり、各條を見よ。

わんしーがん 遠視眼 物理 眼球の水晶體扁平に過ぎ明視の距離にあるを見る能はざる目なり。

わんーが 團四活 わんなる風をなすこと。

わんーが 延喜 歴史 年號、醍醐天皇の御宇、紀元一五六一一一五八二。

わんーき 眉氣 天文 太陽の表面の光輝部即ちホトスファイアを包める紅色の瓦斯層を指し言ふ。

わんーき 縁起 神社佛寺の草創の由來記。

わんーき 縁起 人名 勤王家、ジャンナリーに生れ、フランス共和黨に反對し、ナポレオン暗殺嫌疑とされ、フランス共和黨に反對し、ナポレオン暗殺嫌疑とされ、

わんーき 延喜 歴史 年號、醍醐天皇の御宇、紀元一五六一一一五八二。

わんーき 眉氣 天文 太陽の表面の光輝部即ちホトスファイアを包める紅色の瓦斯層を指し言ふ。

わんーき 縁起 人名 勤王家、ジャンナリーに生れ、フランス共和黨に反對し、ナポレオン暗殺嫌疑とされ、

わんーき 延喜 歴史 年號、醍醐天皇の御宇、紀元一五六一一一五八二。

わんーき 眉氣 天文 太陽の表面の光輝部即ちホトスファイアを包める紅色の瓦斯層を指し言ふ。

わんーき 縁起 人名 勤王家、ジャンナリーに生れ、フランス共和黨に反對し、ナポレオン暗殺嫌疑とされ、

わんーき 延喜 歴史 年號、醍醐天皇の御宇、紀元一五六一一一五八二。

わんーき 眉氣 天文 太陽の表面の光輝部即ちホトスファイアを包める紅色の瓦斯層を指し言ふ。

わんーき 縁起 人名 勤王家、ジャンナリーに生れ、フランス共和黨に反對し、ナポレオン暗殺嫌疑とされ、

わんーき 延喜 歴史 年號、醍醐天皇の御宇、紀元一五六一一一五八二。

わんーき 眉氣 天文 太陽の表面の光輝部即ちホトスファイアを包める紅色の瓦斯層を指し言ふ。

り、從卒に殺さる。

エンギヤン Engien 地名 フランスのセイヌエロアール州の一村落 醫的巧能ある礦泉あり、又メルギー國ハイノート州の一都會、西紀一六九二、佛軍と同盟王國との戰場なり。

わんーきやう 延久 年號 後三條天皇の年號。

わんーきやうのーせんじまつ 延久の宣旨升 歴史 後三條天皇の時、度量亂れて定りなくあれば、制定せられたる斗升法の一法なり、一升は京升の八合一勺六撮六抄餘なり。

わんきやうーだう 延久堂 庄院の十二堂の一なり。

わんきーさやくしき 延喜格式 歴史、律令、三代格式の一、宇多天皇の朝、延喜七年藤原時平十二卷を撰定し、延長五年 忠平十五卷を撰定す。

わんきせいーさんかぶつ 鹽基性酸化物 化學 酸と作用し鹽を作る性質を有せる酸化物なり、酸化亜鉛又は鐵の酸化物等は之に屬す。

わんきーのーせいだい 延喜聖代 醍醐天皇の治平の御代のたぐへたる言葉なり。

わんきーのーち 延喜の治 醍醐天皇の御代天下よく治まりしかば、後世之をたぐへ奉りて、用ひ給ひし御年號より、かくはいふなり、帝は寒夜御衣を脱して貧民の苦を察

し給ひし等大に民治に御心を注がせ給ひたる御名君なり。

わんーきやく 宴曲 鎌倉時代に行はれたる雜馬樂、副詠などの謡もの。

わんきーのーさんじ 鹽基の酸度 Acidity of base 化學 金屬元素の内、水素元素によりて置換せられ得べき鹽基の酸度なり、水酸化ナトリウムは一鹽基の酸度、水酸化第二鐵は第三鹽基の酸と云ふ如し。

わんきーど 鹽基度 化學 金屬元素と化合して置換せられ得べき酸の度なり。

わんきせいーわん 鹽基性鹽 Basic salt 化學 鹽基と酸と作用して未だ水酸基の幾何かを有する鹽化物を云ふ、鹽基性硝酸鉛 $\text{NO}_2\text{Pb}(\text{OH})$ の如し。

わんきせいーたんさんさん 鹽基性炭酸銅 化學 $\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu}(\text{OH})_2$ (孔雀石) 製法—硫酸銅の溶液と炭酸アールの溶液を混合す、性状—孔雀石と稱し、綠色を帯ぶ天然礦石にして、粉末として顔料に供す。

エンケル Engler 人名 獨逸の近代有名な植物分類學者にして、其アイヒレルと共に著はしたる新式分類は實に前世紀より今世紀に渉りて始めて大成したるものにして新學の完壁として重んぜらる。

わんーくわ 鉛華 化學 ZnO_2 にしてれしるいなり。

わん-けい 延慶 年號 花園天皇の御代なり。

わん-けい 燕京 地名 元明清の帝都順天府のこと、今は直隸省に在り。

わん-けん 延見 面會人に對面すること、引見に同じ。

わん-けん 僞鑿 形狀謬、れこりたかふる、衆くして廢なる様子の意義なり。

わん-げん 延元 年號 後醍醐天皇の御代。

わん-げん 淵源 事物の根原、本源なり。

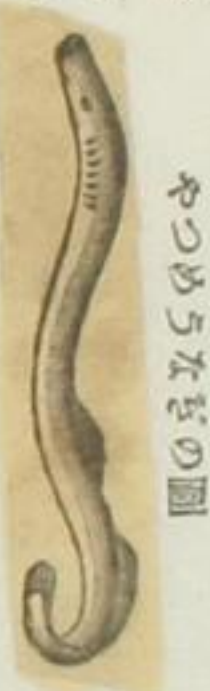
わん-こ 轍圖 人名 齊人にて詩經を註釋して齊詩を作る。

わん-こうちん 關胥珍 人名、建國者、印度五禽侯貴霜部長丘就卻の子、紀前一世紀中亞細亞に大月氏國を建つ。

わん-こう-るゐ 開口類 動物 魚類 やつめうなぎめくらうなぎ等の類、口、圓形にて環状、唇を具へて他物に吸着するの便あり、體

長くて骨格は、軟骨なり、上部に六七對の袋状の鰓あり、生殖器は腹腔中において雌雄共に一個なり

に似たり。



わん-ご-さく 延胡索 植物 草名 根は手に、葉は徑に似たり。

わん-ご-さん Hydrochloric Acid HCl 化學 食鹽と硫酸

この混合物を熱すれば生ずる瓦斯體なり。

わん-ざん 鉛製 文章にたづさはること。

わん-ざん-かり 鹽酸加里 化學 鹽素酸カリウムに同じ。

わん-ざん-くん 燕山君 人名 暴名、朝鮮の太祖康獻王の孫、文化富強策を亂し中宗の改革をなさしめざりし暴君なり。

わん-し 燕志 人名 俳諧師、江戸の人、姓東氏、東柳庵と號す。

エンジオ Ennio 人名 サルナニア王にして一二四五

年イノケント四世に反對して破門せらる。

わん-しつ Lead chamber 化學 鉛板にて四方上下を圍み

亞硫酸、水蒸氣及過酸化窒素が作用して稀硫酸を生ずる室、鉛室結晶 NO₂(HO) (NO₂) 鉛室硫酸等を生ず。

わん-じやく-るゐ 燕雀類 動物、オオムネ、からす、つばめ、うぐいすの類にて、小禽、嘴は角質、樹上に居りて、能く飛翔す。

わん-じゆ 槐 植物 豆科、高二三丈、落葉の喬木、黄白色の蛾形花を開く、花芽は染料に供す。

わん-じゆ-く-むら 延壽園村 人名、刀劍家、肥後の住人、來國俊の女婿、刀劍術に妙を得たり。

わん-しつ-けつ-しやう 鉛室結晶 化學硫酸製造の際鉛室に生ずる結晶なり。

わん-じつ-てん 遠日點 天文、地理 地球がその軌道を旋轉するの時、太陽より最も遠き位置を云ふ。通例七月二日に於て此位置にあり。

わん-じつ-りゆう-さん 鉛室硫酸 化學 硫酸製造の際鉛室中に生じたる稀硫酸なり。

わん-じゆ-るゐ-じやう 延壽類要 書名、養生論、竹田昭慶の著。

わん-し-じやう 緣蝨 動物 地文 襦襦に同じ。

わん-し-あわせ 罷書合 宮中の男女のなしたる遊戯にして、白河帝の頃より始まりしものなり。

わん-し-よく-はん-たう 焰色反應 化學 物體を酒精燈又はアンセン燈の焰中に入れば焰に色を附する反應なり

金屬等を鑑識するに必須なる事なり。

わん-しん-りよく 遠心力 物理 圓形運動をなす質點は 其各點に於て其點の切線の方向に飛び去らむとするものにて此力を遠心力と云ふ。

わん-し-ち 燕巢 動物 熱帯地方に産する燕類の巢、白色透明なり。

わん-し-ちゐ 淵醉 歴史 宮中宴會 昔正月五節に藏

人頭以下を股上に召して、酒宴をなし給ふこと。

わん-すい 延髓 Metulla oblongata 生理、腦髓と脊髓との中間、上方は中、小腦に連り、下方は脊髓と相接す

神經作用(呼吸、歩行、咀嚼、嚥下、嘔吐等)の機關なり。

わん-すい-とうい-ほう 圓錐投影法、地文 地球を圓柱形の紙を以て投影せしめ、之を開展して、地圖となす、故に 開展法或はメルカトル圖法と云ふ。

わん-せい 炎精 陽炎、また火焔のこと。

わん-せい-けう 歴世教 宗教學 人生は苦境なり、現世を厭離するを以て得策とする主義、獨乙シヨッペンハワ

エルの主張する所なり。

わん-せい-もん 延政門 地理 内裏内廓十二門の一、宣陽門の東なり。

わん-せん 鹽泉 礦物 鹽化ナトリウムを多量に含める礦泉を云ふ。

わん-せん-ざん 燕山 地理 山名、今の外蒙古三音諾顏部の坑愛山なり。

わん-ぜん-ごふ 燕然都護府 役所 唐太宗、鐵勒諸部を招降し、燕然の南にたかれ、後回紇に移し、安北都護府と改められたるもの。

わん-ろ 鹽素 化學 元素の一、鹽の主成分をなし、

他の元素と容易に化合するなり。製法—鹽酸を二酸化マンガンに注ぎ冷却するとき黒褐色の液生ずるを蒸發せしむれば瓦斯發生す $MnO_2 + 4HCl = 2H_2O + MnCl_2 + Cl_2$

ばんろーさん 鹽素酸 化學 製法—鹽素酸カリウムに硫酸を注ぐとき生じ、劇烈なる酸性を有す、不安定にて極めて純粹のものを得難し。

ばんろさん—カリウム 鹽素酸カリウム 化學 鹽酸加里 Potassium chlorate $KClO_3$ と稱す、製法—水酸化カリウムの溶液に鹽素を通ず、 $6KOH + 3Cl_2 = KClO_3 + 5KCl + 3H_2O$ 性質—白色板状の結晶、百度にて五十九分溶解し、三八〇度にて熱すれば酸素を放つ、醫藥 還火術に用ふ。

ばんろ—すい 鹽素水 化學 鹽素の水溶液にして綠黄色を呈し鹽素の臭し有す、此物は空中に放置せば鹽素を脱す、又鹽素が水に作用して鹽酸を作るが故に長く保つ事を得ず、殊に日光に曝せば作用速かなり。

ばんろさん—ばん 鹽素酸鹽 化學 此鹽中最も重要なものは、鹽素酸カリウムなり、其餘下を見よ。

ばんろ—ちかん 鹽素置換 化學 他の元素を鹽素もて置き換ふる事を言ふ。

ばん—ろう 圓窓 生理、内耳と中耳との間にある圓形の窓、音を傳達する膜なり。

ばん—ろう 燕巢 動物 巢名 ばんすに同じ。

ばん—だう 延道 地理 延敷の往來みちのこと。

ばんたい—れき 圓太曆 歴史 北朝洞院公實の筆録。

ばん—たん 鉛丹 Pb_2O_3 化學 製法—炭酸鉛を空氣中にて四五〇度にて熱す、性状—紅色結晶粉末 四酸化鉛と稱し、次の如き反應をなす。

$Pb_2O_3 + 2SH_2SO_4 = 2PbSO_4 + 2H_2O$
 $Pb_2O_3 + SH_2Cl = 4H_2O + 3PbCl_2 + Cl_2$

ばん—ちやう 延長 年號 醍醐天皇の御代の年號。

ばん—ちてん 延地誌 *Avog.* 天文地理 月の地球より遠き點即ち軌道の長短の一端を云ふ。

ばん—ちん 圓窓 人名 僧、智証大師のことにて、文德天皇仁壽三年入唐、歸朝して三井寺と改稱し、天台眞言二宗を傳へたり。

ばんちゆう—るゐ 圓蟲類 動物 環形動物、寄生虫、體長く口は圓形、蠅蟲、線毛蟲の類なり。

ばん—てい 炎帝 人名、支那古代の帝にて神農氏といふ。



ばんてう—ひか—の—し 燕趙悲歌の士 人名 慷慨の士 支那燕、趙の間に俠客起りて悲歌を歌ふて慷慨せしによる

ばん—でん 鹽田又鹽漬 礦物 海水より食鹽を製する ために、海濱に設けたる廣き清潔なる場所を言ふ。

ばん—とく 延徳 年號 後土御門天皇の御代の年號。

ばん—どう 鉛糖 化學、醋酸鉛に同じ。

エンドリッヘル Endlicher 人名 十九世紀の初めに於ける獨逸の有名なる植物學者にして、自然分類法を研究したる人なり。

エニニス Ennius 人名 詩人、ローマ叙事詩の始祖たり。

ばん—にん 圓仁 人名 僧、慈覺大師のこと、生れ下野、承和五年遣唐使藤原常嗣に従ひ入唐し、眞言、天台二宗を修め、歸朝して、延暦座主となる。

ばん—ねん 延年 祭典、祝賀を行ふ年。

ばん—ねん 延年 比叡山に於て、黒帽子に、たすきがけと云ふ 異のさまにて 僧侶の行ふ舞の名。

ばんねん—さう 延年草 植物、草名、葉圓形、花は三瓣にて 紫、白、みどりなど、種々あり、つくばねさうの一稱。

ばん—の—せうかく 役小角 人名 開山家、本朝修驗道の祖、生れは大和葛城上郡、仙業を積む。

ばん—の—まつばら 蔓松原 地名 大内宣陽殿の北の

地なり。

ばん—ばう 延寶 靈元天皇の御代の年號。

ばん—はく 鉛白 White lead 鹽基性炭酸鉛に同じ。

ばん—び 燕尾 綫に同じ。

ばんび—かう 延尾香 植物 草名 ばらんに似たり。

ばんびか—しよくぶつ 燕尾科植物 植物 イチハツカ植物に同じ。

ばんび—ふく 燕尾服 西洋禮服 フロツクに似て下腹部より両横腹まで前のなまもの。

ばん—ぶ 圓浮 佛語 須彌山の南にありて圓浮提と云ひ、圓浮樹の林に河あり其底にありと云ふを圓浮提金と云ふ。

ばん—ぶん 延文 後光嚴天皇の御代の年號。

エンペドクレス Empedocles 人名 哲學者地中海シリア島に生れ、詩人にて歴史家、ヒタゴラス派テラワゲスに就きて學び、後エトナ噴火口に身を投ず。

ばん—ばう 延姿 東西を延、南北を姿、廣さなり。

ばん—ぼつ 鹽剝 化學 鹽素酸カリウムに同じ。

エンマ Emma 人名 婦人、(一)カロー大帝の娘、(二)アインハルトに嫁す。(三)ノルマンダー公リチャード一世の女、イギリスの皇后となり 後一〇一七、カメート大公に再嫁せり

ばんまーだいわう 關東大王 人名 佛教語、地獄王。
ばんまんーあん 圓滿院 地理 寺名、鳥羽皇子道譽法親王、圓城寺長吏となりて住み給ふ所なり、法輪院とも云ふなり。
ばんーめい 延命 植物 草名、わんれいそうに同じ。
ばんめいーばん 圓明園 地理 山名、北京萬壽山、清朝代々の宗廟、北清事變の時兵燹に罹りたり。
ばんめいーざく 延命菊 植物 草名、菊科植物、ひなぎくに在り。
ばんめいーさう 延命草 植物 草名、わんれいさうに在り。
ばんゆうーてんわう 圓融天皇 人名 天皇、村上帝の五子、守平と申し冷泉帝の次ぎに即位し給ひ、在位十五年 佛教を信仰し、金剛院と號し給ふ。
ばんーらん 延攬 人を招待して、その心を收攬すること。
エンリコ Enrico, Henrique 人名 パーヴニア州の東部に在る一郡にして面積二九一平方哩あり、首府をリチモンドと云ふ、全人口殆んど七萬あり。
エンリコーランドロ Enrico Dandolo 人名 將軍 政治家 マチチア大統領、三十年役に從軍してダルマチアのサラを取り、一〇四〇四コンスタンチノブルを略す。
ばんーりん 圓鏡 動物 邊縁圓滑なる鱗なり。
ばんーりやく 延曆 年號、桓武天皇の年號。
ばんりやくーじ 延曆寺 地理、寺名、近江國滋賀郡坂本村比叡山に在り、僧最澄即傳教大師之を草建す、天台宗の本山なり。
ばんりやくーじーさす 延曆寺座主 比叡山延曆寺の總長。
ばんれいーさう 延齡草 植物 草名、高一尺、一莖一葉、薬用とす。
ばんーろくーだう 延壽堂 八性院の十二堂。
ばんめいーむし 動物 虫名 ためむしなり。
ばんもんーかけ 衣紋掛 衣服を掛けつる棒なり。
ばんもんーふ 衛門府 地理 大寶令によりて置かれ、禁裡諸門の守護、巡檢等の事務を司る官衙なり。
ばんーやみ 疫病 病名、流行病又は瘧なり。
ばんやみーぐさ 龍藤 植物 草名、りんだうに在り。
エンアーてう Erythraea 年號 王朝、エシオプトのサラント太祖なり(西紀一七一―一二五四)
ばんいようぶつしつーちようさうーさかん 營養物質貯蔵器官 植物、一、地下莖、塊莖、鱗莖、二、塊根、三、多肉葉、四、胚乳即種子中の營養組織、五、胚の子葉、是なり。

わーよほろ 役丁 歴史 文化改新頃の課役人夫のこと
わら 鰻 動物 魚類の呼吸器、同時に酸化作用をなす頸部の左右の側面にあり。
わらし 物の多少を云ふ、たいさう、仰山のこと。
エーラ 瓦刺 地名 瑪哈木坤を會長とせる支那元代の幹南刺部なり、答里巴、支那を侵さんとするに際し、明の成祖親征し土拉河を渡る。
エラガバルス Engabalus 人名 皇帝、西羅馬皇帝、シリアのエメサの僧 カラカラ帝の後胤と稱し、帝位に即くも放蕩無類、プレトリアンに殺せる。
エーラーシヤネル Aix-la-Chapelle 地名 アーヘンの事なり。
エーラツト 衛拉特 エーラを見よ。
エラテア Eritrea 地名 ユリシアのフォキスの市。
わらぶーうなぎ 永其部殿 動物 爬虫類、大隅國永其部に産す。
わらぶーしま 永其部島 地名 島名、大隅國南方、周開十四里、薩摩の大島の南にあり。
わらぶた 鰻蓋 動物 魚類の鰓の可動の蓋、數多の骨より成り、開閉して呼吸するものなり。
エラスムス Erasmus 人名 學者、ロットテルダムに生れ、両親を失ひ、諸州を遊歴し、學理を究め、ギリシア語聖書を上梓せり。パーセルに名を擧ぐ。
エラオトステ子ス Eratosthenes 人名 哲學者アレキサンドリアに生れ、地理數學、星學に名を得、地球の大き、黃道の橢圓體なることを計る、壽八十にて死す。
わらーぼね 鰻骨 動物 鰻を原形に保たんとする内部の骨なり。
エラム Eran 地名 アッシリアの古王国、
わらんーたい 依蘭苔 Cetaria Islandica 植物 木狀地衣類の一種、群高山に生ず、健胃劑とす。
わーりよく 營力 Agent 地文 地熱、水營力等の如き地球の諸變化の原動力なり。
わり 魚を捕ふる道具。
エリー Erie 地名 合衆國とカナダとの間の湖、アメリカ合衆國第二獨立戦争の時イヤリスの軍艦、ペリーの軍艦に敗れ取りしところ。
わりーあし 襪足 わりざわの、かみのはわざは。
エリアス Elias 人名 豫言者、イスラエルの入、フォイニキア偶像崇拜が後宮を経て全國に弘布せしを大に排斥す。
エリアスーコーチャ 人名 察合台汗トグラテムールの

はりしん 襟心 衣服を作るときにわりを厚くするた
め、木綿ぎれなどを襟の心とせるゆゑかく云ふ。

はりしめ 襟袖 衣服に、しつけをかくるに用ゐるも
のなり。

エリス 地名 キリシアのペロポネソスの一國、
ブルガリアの西、メセニアの北部、デモスセーテス時代を以
て最盛とす、首府を同じくエリスと云ふ、此國名は、國王
の一人エロイスの名に基因せり。

はりつき 襟付 一、わりのやうす、わりのかたち、
二、わりもどに似たなし。

はりつゝくび 襟首 わりくびに同じ。

はりぬき 選抜 いらみてどりぬくこと、わりぬきた
るもの名、よりぬきの意。

はりぬく 選取 いらびて、ぬきとること、よりぬくこと
よりどり 選取 數多のものより、少數のものをわり
とること。

よりどり 選取 數多の物の中より自己の欲するま
まに、擇びとること。

エリバン 地名 ロシア領アルメニアとも稱し
外カフカズの一州にしてヘルシア及びトルコの南に當れり
西紀一八二八年ロシアのヘルシアより割き譲らしめたるも

の、面積一〇七四五方哩、人口七十萬。

エリバン 地名 エリバン州の首府、サンガ河
邊にありて、聖城を築きたり、西紀一八二七年、ロシア將
士パスケビツの爲め、大荒廢に歸せしも、現今はヘルシア
副王の宮殿其他大建築物ありて舊觀嚴かなり、又勇將名士
の像を以て飾られたり、エリバン湖は近き東にありて、ゴ
ルチヤとも云ふ。

はりびと 選人 いらびぬきたる人、選挙人に同じ

はりまさ 襟巻 寒氣を防ぐ爲め毛皮、毛布などにて
細長く作り、首にまくものこれなり。

はりもさき 襟裳 地名 北海道南方中央に突出し
たる岬、峻峭にして巖岩割立せり、往時、此岬より以西を
口蝦夷と云ひ、以東を奥蝦夷と云へり。

エリントン 人名 西紀一八一三年の戦争に參
加して功ありし英國の名將なり。

はりもと 襟元 かなしに似たなし。

はりもとにつく 襟元付 人の身分よき方に追従す
ると云ふ、蓋し輕薄なる世の、利慾にのみ走りて他を知ら
ざるものをさとしたる諺より出でしものなり。

はりもとよのなか 襟元之世中 輕薄なる世の中
の意。

はりわく 選分 よりわくること、いらびて そのよ
しあしをしらぶること。

はりわざ 選業 事更にする業務を云ふ。

はる 西洋の尺度 英國三尺七寸七分餘、佛國三尺二寸
九厘、和蘭は三尺三寸餘。

エリトリア 地名 エウロパ島内の一市、アテ
ネを去る東二九哩、ヘルシア人の滅ぼすところとなりし。
上古劇場のありしところなり。

エルグ 物理 仕事の單位、一ダインの力に反抗
して、物體を一センチメートル動かす所の仕事を稱して一
エルグと云ふ。

エルグナ 額爾古納河 地理 河名、清の世祖康熙二十
八年子ルナンスキー條約に基き、露清の境界線と定められ
る、黒龍江上流の一支流、黒龍江省の西北國境を貫流す。

エルサス 地名 獨逸が、西紀一八七一年の普
佛戦争の結果、フランスよりロートリンゲンと共に得たる
地、ライン河の左岸にあり。

エルジン 人名 英國公使、兵初め、英佛同盟軍
清國征伐の時、公使として来る、アロー事件の起るや、天
津條約の批准を交換せんと清京に向ひたるに太沽にて砲撃
せられたり、依つて露國公使の周旋によりてエルソンと佛

國公使は 天津條約を結ぶを得たり、天津條約とは不敬事
件の爲め、皇紀一八六〇年十月二十四日 北京條約に改めら
れたり。

一、香港の對岸九龍を英に割讓すること、
二、牛莊、登州、潮州、臺灣、瓊州を開くこと、
三、英佛に償金を八百萬圓づ、拂ふこと、
四、耶蘇教公布の自由を與ふること。

エルステル 地理、河名、獨逸の河にて、西紀
一〇八〇年、ハインリヒ四世ガシローヘンのルドルフを
同河時に撃破せり。

エルステッド 人物 物理學者、デンマルクの
物理學者、磁電學に通ず。(二七七一—一八五一)

エルステッドのじつげん エルステッドの實驗 物
理、西紀一八一九年エルステッド氏初めて電流が磁石に作
用を及すことを發見したり、此實驗をエルステッドの實驗
と言ふ、静止せる磁針の上又は下に磁針に平行に電流を通
じたる導線を通る時は、其電流の方向及位置により磁針
は種々に子午線と角度を變ず。

エルツゲヒルゲ 地名 サクソニアとポー
ミアとの境界山脈、其最高峯を カイルベルと云ひ、銀及
鉛の鑛坑に富む。

エルトロケル *Eitrogi* 人名 酋長、トルコ帝國の創建者、オイーコンの父にしてギリシア、モンゴルの混成軍を破る。

エルゼルム *Ezeroun* 地名 露領、アルメニアの要市にしてセルジウク人占領、一五一七年土耳其古領となり、一八七八年露兵を略す。

エルドマン *Eldan Ott Lime* 哲學博士、獨逸ゴットフリート、エルドマンの子、ドレスデンに生る、一八三〇年大學教授となり、一八六九年十月九日、ライプナヒに歿す。

エル子スト *Ernst* 人名 王、エル子スト アウグス下は英王ジョージ三世の五子、ロンドンに生る 西紀一七九九、カンバーランド公に擧げられ、一八一三、軍司令官として、ナポレオンを戦ひ、一八一五英軍元帥となる。

エル子スト *Ernst* 人名 サクソニア選挙侯、サクスマ皇統のエル子スト系の創設者、コンソル皇子の始祖なり、西紀一四八二年、チャールズを合併す。

エル子スト *Ernst* 人名 エル子スト一世、アルテンブルグ公爵、三十年戦役に従軍し、クツェンに大勝を得たり。

エル子スト *Ernst* 人名 胡弓手且歌曲作者、エル子スト、ヘリンワイルムは オーストリアのモラビア州

アリオンに生れたり(西紀一八一四—一八六五)
エルバ *Elba* 地理 島名 イタリアとコルシカ島の間にある小島にしてイタリアに屬す、一八一四、ナポレオン、ボナパルトの流刑地なり。

エルフィンストン *Elphinstone* 人名 ジェームス、エルフィンストンは蘇格蘭の文法家にして、正字學の改良を企圖し、一二の著書を公にせしも、此は失敗に歸したり、(西紀一七二一—一八〇九)

ジョージ、キース、エルフィンストンは 英國の有名なる海軍大將にて、アメリカ戦争、フランス戦争に勳功を樹て子爵を授けられたる人なり、(西紀一七四七—一八二三)

マウント、スチウアート エルフィンストンは英の政治家にして、印度に英法を施設するに當り、ウェルズグリーと協力して令名を博せし人なり、後孟買の知事となりたる時エルフィンストン法典を發布したり、歴史にも精通し、印度史を著はして「印度タックス」なる章稱を得たり、(西紀一七九九—一八五九)

ワイルム、エルフィンストンはスコットランドの高僧にして政治家なり、(西紀一四三一—一五一四)

エルフルス *Elfrus* 地理 山脈名、伊蘭叢地を形成せるペルシアの一山脈、マホメット教の一派の暗殺を以て

有名なる木刺國の建設されし處なり。

エルフルト *Erfurt* 地名 獨逸サクソニアの都府、セントセウエルス及ルーテル退隱所、ゴスチン精舎あり、一八〇八年ナポレオン一世が、此市に諸侯會議を開會せり。

エルベ *Elbe* 地理 河名、德國より獨逸を貫流する大河を云ふ。

エルベルフェルト *Eiberfeld* 地名 プロシアの主要なる大都會にして、製造業及商業の中心なり、人口十二萬六千あり、(61,16N. 78E)

エルマンタド *Hernandad* 西班牙國の都府に設けられたる平民同盟なり。

エルンスト・アウグスツス *Ernst Augustus* 人名 王、英王ウィルム四世の弟、西紀一八三七王位に即ぐ、一八三三年憲法を廢止せしにゲッティンゲン大學の七教授反抗せしかば、其職を免じぬ。

エルンスト・キウルチウウス *Ernst Curtius* 歴史家、獨逸の古物學者にて西紀一八六三年柏林大學教授となり

エレウシス *Eleusis* 地名 アテ子の西北四哩古のアカカ州に於ける一部會にして、ギリシア十二神中の穢穢神の禮拜堂あり、此堂はギリシア中最有名にして且最大なり現時のレアシナは昔しエレウシスの在りし處なり。

エレキウなぎ 動物 「しびれうなぎ」を見よ。

エレクトロッド 物理 電極と同じ、
われぐさ 植物 草名、いんれいさうにおなじ。

エレパス *Elepas* 地名 南極地方ビクトリアランドの噴火山、高さ一二三六七呎あり。

エレパス *Elepas* 人名 神名、ギリシアのチエオスの神の子にして、ニクス神の兄弟なり。

エレクトリア *Electria* 地名 エウボイア島内の一市、アテ子を去る東二九哩に在り、西紀前四九年ペルシア人の滅ぼす所となり後再建せらる。

エレミヤ *Jeremy* 人名 エテヤの豫言者なりき。

エレンボロー *Elmhorough* 人名 伯爵オークランドの後なり、西紀一八四二年 印度大總督に任ぜられ、第一アフガンの戦争を起す、是れ先に、オークランド伯、メルシアをして 露南下するを防がしめたるため、カパールに入りシャーシウガヤを立てしも、國人服せず英軍を害せしかばエレンボロー之を復讐して、カパールの地を荒らせり。

老

老 御 物事を敬ひ、鄭重にして 云ふ時に用ゐる語
 老の約音なり。
 老あひだ 御間 物事のいまだとどなはぬあひだの意
 オアフ Oahu 地名 太平洋中ハワイト列島の一島、砂糖、コーヒー、洋藍等を出し、日本人の此處に移住して労働的生活をたぐるもの多し。
 老あんなものがたり 書名 徳川時代の初め成りし小説本にして著者あきらかならず。
 老 一、年のよること、年をとること、二、年をとるたる人の名、老人などの意。
 老 一、人を呼ぶときに發するこゑ、二、人に呼ばれてこたふる聲。
 老い 一、人に呼ばれたるときかへす言葉、二、鬚子高く泣きさわぐこゑ。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。

老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。

老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。

老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。
 老い 老風 古語 年たいたる風になること、老いさらばふこと、蓋し老ひて腰のまがるより云ふ。
 老い 武具 武官の冠の左右に附けしかりものなり。

さまになること。

たいひがむ 老僻 國四 老人になりて、心のひがむこと。源氏物語に「さはいへを ふかからぬけにや、わしひがめるにや」とあり。此義なり。

たいひびと 老人 國 年とりたる人、たいにたなし。

たいへ 御家 國 人の住宅の敬稱、又人の妻を敬ふて云ふ言葉。

たいへいば 御家類 國 武器、兜の附屬物にて、嚴なく滑かにつくりたるものにて、面頰(めんばは)の一種なり。

たいへいもの 御家物 國 世話物 時代物などに對して云ふ語、大小名の家内の騒動のありさまを仕組みて芝居となしたるもの。

たいへりう 御家流 國 文學 書法、尊圓法親王(世尊寺)の筆法にして、細川時代の御用筆なりき。其字 温順の體に見ゆ。

たいへく 國下二 たいばるにたなし。

たいへふし 老法師 國 年とりたる僧侶。

たいへぼる 老老 國下二 年とりて 愚鈍なること。

たいへぼれ 老老 國 老人を罵りて云ふ語にて、老いばれたる人。

たいまつ 老松 國 一、年のへたるまつの木、二、小唄

の名にあり。

たいらかに 國 温順なること、正直なること。

たいらく 老 國 古語 おいに同じく、老ゆるの變化。

オイレル 國 人名 瑞西の有名なる數學者にして、
ジョアン、ベルメリの高足なり、哲學、積分學原理、光線
風折論、月動論、無窮數分等諸論等其言はせる所多し(西
紀一七〇七—一七八三)ニ

オイルクロス Oil-Cross 國 化學 油を塗りたる布、多く
西洋製の座敷に用ふ。

たいいろ 御色 國 細川時代の殿中にて女の用ひし紅。

オア 國 地理 河名、シベリアの大河、源をアルタイ
山に發し、二二〇哩を流れて、オア海に注ぐ。

たいあ 歐亞 國 地理 歐羅巴と西細亞との總稱。

たいあつりよく 横壓力 國 地理 地球の地熱を失ひ
て收縮する結果、地殼の各部、地球中心に向ひて落下せん
とする力あり、この力變じて氷平の方向に壓しあふ力なり

たいあん 歴安 國 歴史 年號、後光嚴天皇の御代のこと

たいあんせき 王安石 國 人名 政治家、文豪、支那
宋の中世、撫州臨川の人、進士第に擢られしを始めとし、
諸官を累進して參知政事となる、新法を公にす、始め庶民
の信ずるところなりしも後解職を乞ふに至る、元祐元年、

年六十八歳にして死す、文公と諡す。

たうい 王維 國 人名、秘書監、詩人、字は摩詰、唐の
中世、開元の始め進士に擢でられ、安祿山に反抗して捕へ
られしも其才あるを以て知遇を得たり、年六十一にて死す

たうい 王禕 國 人名 文章家、明代義烏の人、明の太
祖に用ゐられ、洪武五年正月、大祖 雲雨を招諭し 禕を
して往いて諭さしむ、元の使脱々と論争の結果、害に遇ふ
梁王の惠を以て葬らる。

たういつ 王逸 國 人名 宣城の人にて、元初中校書老
となり、順帝の時侍中となりたる人、賦諫書論雜文二十一
篇を著したり。

たういん 王允 國 人名 太原の人にして、後漢獻帝の時
司徒となり、中元元年豫州の刺史となり、黃巾賊を平ぐ、
宦官の跋扈を除かんとし、却て宦官張讓に讒せらる、然れ
共後之を一掃し、又董卓宮殿を燒きたる時、圖書箱の珍書
を都に送り支那文學の中絶を防ぎたり、後卓の徒に殺さる

オウイチウスーナツ P. Ovidius Naso 羅馬文學極盛時代
の有名なる詩人にして、紀前四三年スルモに生る、西紀九
年ポンツス、エウロシヌスのトミに讒せられ、黒海沿岸の
沼中に死す。

たうう 奥羽 國 地名 現今の磐城 岩代、三陸、兩羽

の土地の總稱なり、和銅四年陸奥越後の一部を割き出羽と
稱せしが明治に至り、現今の七國となる。

たうい 應永 國 歴史 年號、後小松天皇、稱光天皇
の御代の年號。

たういさ 應永記 國 歴史 書名、大内退治記とて。
足利氏の大内義弘を攻め亡ぼせし一件記。

たういらん のらん 應永の亂 國 歴史 後小松應永六年
大内義弘、泉州堺浦に據りて謀反す、足利義満は高山基國
をして攻めしめ、男山に軍して勝利を得たり。

たういん 汪琬 國 人名 儒者、支那清の初代 進士の
第に上り、山東司郎中等に歴仕し、病を以て魏峯の麓に住
む 又召されて史館に入り、また病にて歿る、時に年六十

たういんせい 王廷政 國 人名 王、支那五代王朝の
君主、閩王王審知の少子、南唐、建州を攻むるや、遂に降
る。

たうかくまく 構隔膜 國 生理、胸と腹との境界膜、
收縮し得らる筋より成り、下大動、靜脈及食道の外之を
貫くと許さず、シヤクリは此の膜の不随意的收縮による。

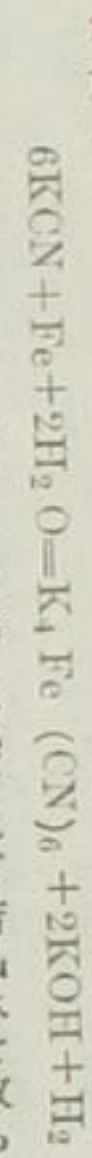
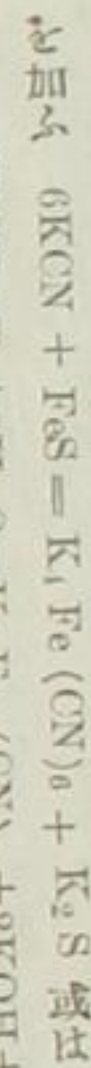
たういさやう 凹鏡 國 物理 凹面鏡を見よ。

たういさよせき 黃玉石 國 礦物、性質 $5 Al_2O_3$
 $SiO_2 + 2AlF_3 \cdot SiF_4$ の成分を有し比重三五斜方結晶形の

石なり多く白、淡褐色のものなり。

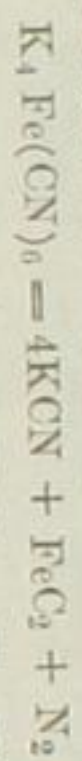
たうけつーいん 青血鹽 化學、 $K_2Fe(CN)_6$ の組成

製法 第一硫酸鐵の溶液に「シヤン」(化「カリウム」)の過量



性状 黄色結晶 100-110°Cに熱すれば結晶水を放ち

て白色の粉末を成じ 尙強く熱すれば次の反應を起す。



たうーくわい 横谷 Transverse Valley 地文 山脈間の地

層の走向が、山脈の軸線と相交る土地也。

たうーさんい 横山 地文 ロマヤ山、アルプス

山の如く、東西に走れる山脈を云ふ。

たうーじつーせい 横日性 Transverse heliotropism 植物

葉及羊齒植物の扁平體等の同化作用をなすため 太陽の光線に直角の位置を保つ能力を云ふ。

たうーしん 横震 地文 地震の源因をなす斷層が其地

體を構成する山脈の軸線と横斷せる場合の地震を云ふ。

たうじんーてんわう 應神天皇 天皇 日本人皇十五代

の天子、御名を譽田と申し、母を神功皇后とす、此朝朝鮮

より文物大に輸入せらる、百十歳の長壽に御座しき。

たうーしんさう 横振動 Transverse vibration 物理

分子の振動方向波動の進行方向に直角なるとき、即ち水の波に於けるが如し。

たうしんーのーぼどけ 應身佛 佛敎語、佛の三身の一

衆生濟度の爲め、現世に出でたる佛なり。

たうーしやーせい 青結石 礦物 褐鐵礦に同じ。

たうーしやう 應鐘 歴史、十二律の一、陰曆十月。

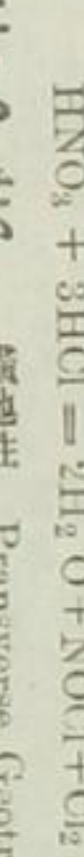
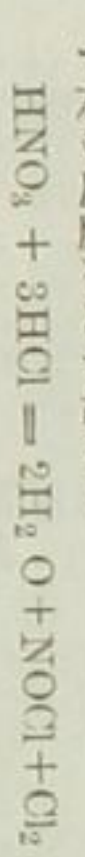
たうすーのみこと 小碓尊 人名 皇子、人皇第十二

代景行天皇の御子、熊襲征伐及蝦夷征伐に功を奏せられ伊

勢能震野に薨す、小碓尊とは日本武尊の幼名なり。

たうーすい 王水 Aqua regia 化學 性状、金を溶か

すの性質あり 組成は強硝酸一割に強鹽酸三割の混合液に



たうちーせい 横地性 Transverse Geotropism 向地性の

特別の場合 側枝、側根の固有能力、即ち植物體が重力に

對して直角の位置を取るもの。

たうーちやう 應長 年號、花園天皇の御代の年號。

たうてつーくわう 黃鐵礦 Pyrite 礦物 性状 FeS_2

の成分を有し比重四・八三、金屬光強き六面體及八面體とな

す、化學的性質 吹管にて熱すれば、溶けて黑色物となり

磁力を現はす、鹽酸に溶けざるも硝酸にだけ、硫黄を分離

す。 たうてんーもん 應天門 歴史地理 宮城十二門之一、

朱雀門に向ひ、大極殿の前方にあり。

たうと 庭を云ふ駿河國靜岡の方言。

たうとーくわう 黃銅鑄 鑄物、銅を製する原料にして、

足尾、別子、小坂等の銅山より得らる、正方晶形なれ共、

結晶を見ること罕なり、黄色にして金屬光澤あり、吹管に

て熱すれば溶解す、且磁力を表す、王水に溶け硫黄を分離

す、硬度三、四乃至五、比重四・一四、三條痕は緑黑色なり

たうとつーレンズ 凸凹レンズ 物理 凹なる球面と凸

なる球面とを有するレンズなり。

たうーけん 王建 人名、支那五代前蜀の王、許州舞陽

に生れ、鹽業をなす、軍卒となりてよりて景進して、壁州

の刺史となり、文德元年彦則の反するとき、招討牙内都指

揮使となり、勝ちて蜀王に封す、七年皇帝の位に即く、死

後忠武皇帝と云ふ。

たうーけん 王儉 人名、南朝齊の文臣、年廿八右僕射

となる、後國子祭酒を勤め、死する年卅八、文憲公と云ふ

たうーけんさく 王支策 人名、支那唐代の勇將、五

天竺甲の中天竺、唐に好みを通す、後其臣阿羅那順自立す

るに及び、吐蕃の兵を率ひて之を俘にして歸る。

たうーぐう 王禕 人名、高麗の恭愍王の養子、明を打

たんとて李成桂をやる、成桂歸りて王を廢し江華島に遷す

たうーしん 王振 人名、蔚州の人、明代の宦官、瓦剌

入寇の時、帝と共に進み、敵に戮せらる。

たうしんーき 應信器 物理 リレーを見よ。

たうしんじ 王辰爾 人名、王仁の孫、敏達帝の時高麗

より鳥羽に書して上りたる表文を蒸して讀み賞せらる、欽

明帝の時船賦を錄せしにより船氏の姓を賜はる。

たうーしんち 王審知 人名、支那五代閩に仕ふ、諸

官を經、唐亡び、梁の太祖立ち、閩王升に封せらる學を布

き、貿易を奨励す 同光三年卒す。

たうしやう 王昌 人名、高麗王禕の子なり、李成桂の

明と戦ふの不利なるを以て、王禕を廢し之を立て王とせし

が、高麗華島に在り密に成桂を殺さんと計りたるを以て成

桂遂に王を廢したり。

たうしよくーけつろばん 黄色血油鹽 化學 黃血鹽に

同じ。

たうーしゆく 王肅 人名、東海の人、三國魏の眞定、

累進して、光祿勳となり、河南の尹に遷り、太常を兼ね、

甘露元年死す。

たうーしゆじん 王守仁 人名、文章家、伯安、陽明

山人と云ひ陽明學の祖たり、餘姚に出で、弘治十二年進士に上げられ、正徳元年貴州龍城驛丞に謫せられ、後數十年の巨賊を打ち、南京兵部尙書に上り、光祿大夫となる、嘉靖八年安南に死す。

わうしうーろふぶざやう 奥州總奉行 役名 奥州の政治を司る人の官 葛西清重始めてなる、これ文治五年源頼朝の藤原泰衡を打ちし後置きたる官なり。

オーストリアーけいしやうーせんろう 奥太利繼承戦争 歴史、西紀一十四〇マリア、テレサ奥王に即く、パワリア王チアールス、アルベルト、繼承権を主張し、佛、西、サクソニアと同盟して奥を打ち、アルベルト王位に即きしも後テレサ勢を恢復して 同盟軍を敗る 一七四八、アーヘンに和議なる。

わうーせいじゆう 王世充 人名 西域の胡にて、王姓を冒し隋に仕ふ、字は行濟、書傳に洩り兵法を喜び、龜策に通ず、常に煬帝の顔色を伺ひ、阿諛順旨、以て累遷し、豪傑に結び私恩を樹つ、後李密と戦ひ敗走す、越王僧瓏するに及び屈國公に封せられ、復李密と戦ひ之を敗る、是に於て禪を受けて帝位に即き、國を鄭と呼び、開明と建元す 隋秦王世民に破られ、獨孤修徳に殺さる。

わうーせいいてい 王世貞 人名 明にして詩文を善く

す、嘉靖二十六年進士となり刑部主事を授けらる、父行、嚴嵩に陥られ、涕泣して死す、世貞哀絶いんとす、後兄と共に關に伏し父の冤を訴へ、父の官を復せらる、萬曆二十一年勅せられて家に歸り、死す、世貞才高く人望あり、士大夫、文客多く其門下に集りしと言ふ。

わうーたいぐわう 王太后 人名、支那西漢元帝の皇后帝の死後、成帝を立て宦官を黜け 一門を擧ぐ 王莽の帝位を奪ひしものが爲めなり。

わうちーこ 凹地湖 地名 地盤に凹低の場處ありて之に水の溜れるものを言ふ、凹低の場所は種々あり、水河の作用によりて穿たれたるもの(アルプス山中に此種の湖あり)風の作用より生じたるもの(中央亞細亞の諸湖)、火山破裂の結果によるもの(箱根の湖、樺名湖等)、地殻の褶曲、斷層、陥落等に由るもの(湖水の多くは之なり)等あり。

わうちよく 汪直 人名 明代の宦官なり、始め萬貴妃に給事たりしが御馬監大監に遷る、後龍益々加はり愈々累遷し、專横益にして屢々大獄を起し、論議するものは謫官せらる、後東廠尙書録、事を以て直を怨み、其洩す所の宮中の秘語を得て之を奏す、帝始めて直を疎じ、遂に官を褫ぐ、直遂に死せり。

わうーつう 王通 人名 隋の學者、祁人の裔にて字は

仲淹と號す、四書禮樂を學び、衣を解かざる九年、後長安に遊び、帝に大極殿に召され、太平十二策を奏す、帝悦び公卿に議せしむ、公卿悦ばず、時に蕭牆に聲あらんとす、通謀を獻し用ひられず、東征の歌を作り去る、帝召せども至らずして、門弟教養に力む、後卒して文中と謚せらる。

わうーは 横波 物理 高低波の條を見よ。

わうーひつ 王弼 人名 文章家、山陽の人、吏部郎、中台郎となり、後鐘會等と議論校練を娛む、二十四死す。

わうごく 應徳 年號 白河天皇の御代のこと。

わうにん 應仁 年號 土御門天皇の御代の年號。

わうにんーき 應仁記 書名 應仁の亂の始末記即山名宗全と細川勝元との戦争記なり。

わうーほうこう 翁方綱 人名 清代の名臣にして順天大興の人なり、年八十二にして卒す、著書頗る多し。

わうーもつ 王莽 人名 西漢の有名なる叛逆者にして、孝元皇后の弟曼の子なり、兄弟皆侯に封せられ、獨り曼蚤世す、莽莽儉に僮服を着け英俊に交る、後黃門郎より射聲校尉に遷り後大司馬となる、莽愈儉を守り才を求むる急にして名望盛なりき、後井を浚ひて白石を得たるものあり白石に文あり、王莽を以て皇帝とせば天下太平ならんと、太后之を許す、莽立して居攝と改元し、嬰を皇太子とす

後莽を惡みて兵を擧ぐるもの多く、更始二年莽遂に殺されたり。

わうもんきんーせい 精紋筋纖維 生理 隨意筋の名稱にして、顯微鏡にて見れば、纖維に横紋の並列するを知る、運動機關の筋肉皆是なり。

わうやうーくわはく 歐陽和伯 人名 單に歐陽生とも言ふ秦の孝文の博士伏生に業を受け、子寛に授く、寛之を孔安國に授く。

わうやうーけん 歐陽玄 人名 元の四家に次ぐ儒者にて、宋遼金史の撰修に力を致したる人なり。


わうやうこう 歐陽公 人名 文豪、唐宋八家の一人、歐陽脩のことにて名は承叔、宋の人なり。

わうりやうーし 押領使 奈良七朝時代、國司の精悍なる者一人を擧び、陸奥に事ありし時救援せしめたるに始る、後非違を檢察し、盜を捕へしむ、天慶以後邊境諸國に之を置き、國守をして之を兼ねしめたり。

わうりよくーこう 鴨綠江 河名 朝鮮北西境にあり、白頭山麓に發源し、西南流し圖們江と共に滿州と境し、黃海に入る、船舶の便あり。

わうるまんかうーかんじやまんしや 颶風滿篝、汗邪滿車 漢語、颶風は高き狭き地、汗邪は低き地、篝はふこ、



豊熱のこと、故に何處も同じ豊饒であること。
ねーレンズ 凹レンズ Canave lens 物理 光線を散開せしむるレンズにして中央薄く両縁次第に厚し、圓の1をメニスク、2を平凹、3を両凹と云ふ。

ねーわし 羨鷺 動物 背椎動物、猛禽類、體長二尺五寸以上、翼長二尺に達す、爪嘴共に強銳、亞熱帯以外に分布す。

ねいらと 幹亦刺都 歴史地理 瓦剌の祖國、元の初世エニエー河上流に居住せし部落、元太祖と戦ひ破らる。
ねに 古昔 天皇陛下の出御の時 前驅人、往來人を戒むるに發する聲なり。
オークランド Ouckland 地理 島名、オセアニア州ニュージラランドの中の北島。
オースタリア 濠洲太刺利亞 地名 濠洲のこと。オセアニア州の大分部なり。
オーストリア 澳太利亞 地名 歐羅巴州中央部の大國首府を ウィンナと稱す。此國は工業盛にして輸入品は棉花、羊毛、珈琲、煙草等なり。
ねが 大鯰 ねがの畧。
ねが 丘 地名、丘陵に同じ。

ねが 恩荷 人名 會長、蝦夷東征に阿部比羅夫進みし時、淳代鶴田の郡領會長なり。
ねがう 御講 眞宗にて毎年行ふ親鸞上人の法會。大谷派は十一月廿二日より二十八日まで。
ねががみ 御鏡 かがみもちのこと。
ねがけーまわり 御蔭詣、伊勢大神宮へ毎年時を定め参詣することなり。
ねがーさき 岡崎 地名、東海道驛、愛知縣額田郡、矢作川太平洋を帶ぶ。徳川氏の故地、明和六年本多忠肅之を受け世襲して維新に至る。
ねがさほらーうじ 小笠原氏 人名 源氏の後裔にして世々信濃深志の城に住す、後醍醐帝の時貞宗昇殿を聽されてより漸く名あり、後貞頼、信長、秀吉、家康に歷仕し、文祿二年小笠原島を發見す。
ねがさほらーじま 小笠原島 地名 伊豆の南方、十餘島より成り 文祿二年小笠原貞頼 之を發見し、後開拓の企ありしも成ならず、後英米人の來りしも放逐して 文久年中幕府官責を置く、後暫くにして廢せられ、明治八年外務官を遣して島内を視察し東京府の屬島とせり。
ねがさほらーねこのき 植物 タコノキに同じ。
ねがさち 犯 國四一、法律、徳義等を破りて他人の尊嚴を

けがすこと、二、險難のことを強ひて行ひはたすこと。
ねーかた 御方 他人を敬ひて云ふ語。
ねーかた 中等以上の人の妻の敬稱 ねがたの約音。
ねがたーうじ 緒方氏 人名 豊後國大野郡緒方郷大神真臣の後胤 維新に至りて緒方と稱し、壽永の役平氏を追ひ 義經に黨し 其領土を没收せられたり。
ねがたーこうりん 尾形光琳 人名 畫家、京都の人、江戸に往きて住む、通稱雁屋藤重郎、名を方祝とす、畫を狩野常信に學び、後年本阿彌光悦の風を慕ひ、蒔繪に長したり、年五十六 享保元年死す。
ねかだーごしよ 御方御所 人名 たかたづまひにねなし、大臣、將軍家の子息長男にして未だ家督相續せざる人のこと。
ねかだーのみや 岡田宮 地名 聖武天皇の遷都ありて奈良朝の離宮を設けられたところ、山城國相樂郡にありて亭館を建設せらる。
ねかたーばうちやう 御方庖丁 庖丁の一種、泉州堺の特産なり。
ねかちーのかた ね勝の方 人名 太田康寅の女、徳川家康の愛妾なりき。
ねかつたるい 腫 ものの不十分なること、東京にてつかれ

りの意に用ふ。
ねーかは 戊子 小兒の便器、たは接頭語、かはは團の意なり。
ねがーびき 鯉引 こびきにねなし。
ねーかひこ 御置 動物 幼虫 かひこのこと、又織物の絹のことを云ふ。
ねかひこーぐるみ 御置纏 絹糸の織物にて作れる衣服のみを身にきてたること、奢侈の有様を云ふ。
ねかーべ 豆腐 どうふ、どうふのからをいり煮にしたるもの意。
ねかまーご 御童子 動物 節足動物、昆虫類、いいざりにねなし 又ねかまーこほろぎ(御童蟬)とも云ふ。
ねかまーのーどり 御蒲鳥 動物 燕雀類、めしろにねなし。
ねかみ 御上 敬語 天皇、政府 上流社會の主人など臣下、人民より云ふ語。
ねがみ 靈龍 神名 雨の神にて龍のことなり、萬葉集の一首に、わが岡のねがみにいひてふらせたる雪のくだけしそにちりけむとあり。
ねーかーん 御母様 關西地方の方言、母を云ふ。
ねーかんあけ 御髮揚 王公貴人の髪を結ぶ人にて今は

不要となれり。
ねかん 御母婆娑 葉子の一種、うんとん粉にささげの屑を入れ、蒸したるもの、攝津住吉邊にて、つくれる饅頭なり。
ねかめ 阿龜 醜き女のこと、ねたふくめんのこと。
ねかめ 阿龜 植物、禾本科、笹の一種にて、五枚笹のことなり。
ねがは はりゆう 小川破笠 人名、繪師家、元祿時代の人、伊勢に生れ、繪を能くし、髹漆の術に妙を得たり、之を世に破笠細工として稱賛す。
ねき 息 古語、いきにねなし。
ねき 沖 澳、岸より隔りてはるかに見ゆるもの、多く海或は大湖の中にあるものを云ふ。
ねき 隠岐 地名、山陰道に屬し、出雲の正北にあり大寶年間、壹岐の國造をたかれ、億岐州、隱岐の三子島等と書せり、建久四年佐々木定綱之が地頭たり、雲州守護に屬す、承久の後、後鳥羽天皇の遷され、南北朝の時、後醍醐天皇の一時流され給ひし地なり。
ねき 起 徒博 めくうふだをめぐりて出でたるもの、稱なり。
ねき 煨 炭々となこりたる火、薪炭の既に火になりたるもののこと。
ねき あかす 起明 所謂徹夜のことにて、夜寝ねずして明すこと。
ねき あがりこぼし 起上小法師 小兒の玩具、不倒翁とも云ふ。
ねき あげ 起揚 うきあげに同じく、彫刻などの模様を地より高くするなり。
ねき あざり 毛蛤 動物、甲殻類、あざりの一種にて、貝に毛多くつく。
ねき あはせ 置合 どりあはせの意にて、丁度工合よく配合すること。
ねき あみ 置網 魚を捕ふるときの、まちあみなり。
ねき いし 置石 庭園などの景色、風致をます爲めにたく石、二、圍碁のとき、下手のもの、先に置きて上手のものに向ふ石を云ふ、井目(九ツ)等の如し。
ねき いん 置椽 いんだいにたなし、すゞみだなのことなり、しやうさ、ねきさとも云ふ。
ねき いかき 懐搦 ひかきのこと、即ちしうのうにたなし、多く唐銅、鐵等にて木の柄をつけたるもの。
ねき がけ 起掛 起き上りたるその時。
ねき がた 置形 染形に對して云ふ語、繪の具を形紙か

たがみ)にてねき染めしたるもの。
ねき へる 團四 起返ること、ねきあがること。
ねき さす 沖船 動物、魚類、長さ一尺許、きすの一種にして、かまぼこの原料に供す。
ねき ぐち 古語 衣のさき、衣服のはしのこと。
ねき ぐら 置倉 いたな 藁等と同義にして、物を載せたくもの。
ねき ぐるみ 蝦夷語 開闢の神を云ふ、又、源義經を追稱して云ふ語。
ねき ぐたつ 置炬燵 炬燵の一種、冬季寒氣をしのごため、匣の内に爐を設けて、坐上に置くもの。
ねき ざ 置座 ねきわんのこと。
ねき ざより 沖鱈魚 動物、脊椎動物、海魚の一、だつのこと。
ねき ざり 置去 うちやうれくこと、去ること。
ねき ず 置賣 ぬきすの一種なり。
ねき ずみ 置墨 頭髮の淡き部分を濃くするため、一種の墨を塗りて化粧するもの、まゆに塗るものを、まゆずみと云ふ。
ねき ずゑ 置据 ねきたるそのま、に、すゑれくこと
ねき せ 枕 家具、茶碗などのふた。
ねき ち 沖 古語 沖のことにて、そは添字なり。
ねき つ 興津 地名 駿河國庵原郡興津町にして静岡縣に屬す、東海道鐵道の停車場あり、東方は即ち清見灣に瀕し、絶景の地、夏季遊客多く此地に至る、大宮清見寺町には清見寺あり。
ねき つ 團下二 木きて、さだむ、命する等の意。
ねき つ かがみ 羸部説 十種神寶の一なり。
ねき つ かせ 沖津風 大洋を吹く風、海の沖を吹く風のことを云ふ。
ねき つ ぎ 一、たくつきの變轉せし語、基の意、二、古語 神社などのことを云ふ。
ねき つ つけ 置付 をきすに同じ。
ねき つ しば 沖津潮 大洋のしほみづ、沖のうしほの義。
ねき つ しま 沖津島 渺茫たる大洋の中にあるしまの島の義。
ねき つ しまね 沖津島根 大洋中にある島にて沖津島に同じ、島司を沖津島守と云ふ。
ねき つ しまやま 沖津島山 地理 島名、近江國の沖の島。
ねき つ したべ 奥津裏戸 歴史 指を地にたき、土

又は石にてつみかさねし塚を云ふ。
たきつーだい 奥津御 動物、脊椎動物、魚名、駿河國奥津に産する白色を帯びたる、おま鯛なり。

たきつーどり 沖津鳥 鳥の枕言葉、あしは沖に住むゆなり。

たきつひこのーかみ 奥津彦神 神名 人家の籠を守り給ふ神の子なり。

たきつひめーのかみ 奥津姫神 神名 奥津彦神と共に人家を守り給ふ。

たきつーもの 沖津物 かくれの枕言葉、海底にあるものはかくれ居るゆなり。

たきーながーがは 沖中川 地名 河の中道流水。

たきーながーたらしーひめ 息長足姫 人名 神后皇后の事

たきながーたるひーひろぬかーのーすめらみこと 息長足日廣額天皇 人名 舒明天皇を申す。

たきなーがひ 翁貝 動物 甲殻類 貝名、色黒し。

たきなーくさ 與名草 書名 橋家神軍を漢文にかきたる浅井重造の著書なり。

たきなーくさ 翁草 植物 毛茛科の屬、紫色の花を開く。

たきなーくさ 翁草 書名 雑事を記せる一百巻の本、

著書は神澤良幹なり。
たきなーさぶ 翁進 國上二活 老人らしくなること。

たきなーしま 翁島 地理 島名 岩代國猪苗代湖に在り。

たきーなは 沖繩 地名 九州南方 源為朝の逃がれて、舜天を生み一時治めし群島、後島津家久よりこれが領土となり 明治六年 王尙泰入朝、明治十二年沖繩縣を置く。

たきなはーしま 沖繩島 地理 島名、琉球島第一大島 周圍一〇三里有り。

たきなーほほ 翁煩 歴史 武器、面頬の一、能狂言に用ふ。

たきなーもんだふ 翁問答 書名 著者中江藤樹なり。

たきーのーわん 隱岐院 人名 天皇、承久の變、隱岐國に遷され給ひし、後鳥羽上皇を申し奉る。

たきーのーわらふしま 沖水真部島 地理 島名、大隅國水真部島の名なり。

たきーのーけんてう 動物、信天翁と書きて、カモメに似て多く琉球、小笠原島に産し、羽毛及翼は重大なる輸出品なり。

たきーまつり 釋典 歴史、孔子を祀る祀のこと。

たきーめ 置目 人名 女官、近江國狭々城山徳宿宿候

の妹、順宗天皇の時、磐坂市邊押磐皇子の大泊瀬皇子に殺され給ひし所在地を教へ奉り結果、宮中に召さる。

たきざやう 御形 植物、正月七草の一種。

たきふーらひ 萩生徂徠 人名 學者、徳川幕府の儒官、物部氏の後茂郷と字す、始め古學を修め 伊藤仁齋を排斥す、後復古の學を唱へて、柳澤吉保の力によりて儒官となり、元禄十四年赤穂義士の騒ぎに加る、年六十三、享保十年死す。

たきよーわう 興世王 人名 親王、武蔵權守の時、平將門に煽動せられて 東國に謀反せらる。

たきよーとらろ 御清所 歴史 貴族の臺所を云ふ。

たきーろくしやう 隠岐綠青 物理 繪具の名、隠岐の國に産する ろくしやう(綠青)の一種なり。

たきわらーしげひで 萩原重秀 人名 役人、江戸幕府の勘定奉行 將軍綱吉の時元禄金を鑄造して奸策を振ふ 新井白石の爲め黜けられ 正徳三年 年五十六にて死す。

たきーいぢ 奥蝦夷 地名 日高國襟裳崎より東方の總稱なり。

たきーかび 置蚊火 かりびに同じ。

たきかびーの 置蚊火の したこがれの枕言葉となる。

たきーごしやう 奥扨從 舊幕時代の奥づとめのこと。

オクス Oxus (Amu Daria) 地理 河名、中央アジアの大河 源をパミール高原に發しアラル海に注ぐ、其長一三〇〇哩なり。

オクスフォード Oxford 地名 英國オクスフォード州の一市 有名の大學あり テームス河左岸にあり。古チアール一世の居所、一六六五年國會議所なりき。

たきーせいご 動物 魚名、いさきを云ふ。

たきせつーべん 臆說辨 書名 和漢俗語註釋なり、小山儀の著書なり。

オクセンシエルナ Oxensiana 人名 政治家、瑞典の人、三十年戦争の時大に功を奏し、伯爵を授けらる、(西紀一六二二—一六五四)又瑞典の人にて同じく政治家、歐州の平和に力を盡したり。(西紀一六二二—一七〇三)

オクタウィア Octavia 人名、婦人、アウグストの妹にして マルクアントンの妻なり アントンはエジプト女王クレオパトラの女色に迷ひしも オクタウィアは固く節操を守りたり。

オクタウィアヌス Octavianus 人名 王、ローマのケーサル大帝の甥、紀前六三年生る、元老院の、アントンの權に當らんとして結託したるは即ち此人なり、年十八にしてケーサルの嗣子となり、ユリウス、ケーサル、オクタウィア

マスと尊稱し衆を御するに寛大、西紀前三一年ローマの内亂を一定して王位に即く、西紀一四殺す。

たぐーだかし 古語、臆病なること。

たぐーだしけり 奥田重盛 人名 義士、孫太夫と稱し淺野氏に仕へ、馬廻兼武具奉行に任ぜられ、主家滅亡の時、西村清右衛門と變名し、遂に主君の難を報ず、元祿十六年二月四日、死を賜ふ、時に年五十七なりき。

たぐーたいらけんすけ 奥平謙輔 人名 武士、長州藩士、明治九年、前原一誠等と共に、君側を清めんことを名とし、兵を擧げ、官軍に抗せしかば、捕へられ、斬の罪に處せらる。

たぐーたいらけんすけ 奥平信昌 人名 武士、九八郎定昌と稱し、徳川氏の臣たり、天正元年、父と共に、武田氏に背き、徳川家康に降服す、天正二十年三月、年六一を以て死す。

たぐーだん 臆斷 推量して定むること。定かなるものにあらず、たはまかの考なり。

たぐーちもなし 無奥口 古語 云ふも甲斐なきことふがひなしの義。

たぐーちやうば 奥嶋場 商店の主人、重役、支配人なを居るどころ。

たぐーつき 墳墓 是かに同じ、萬葉集中に、「かつしかのまのてこなが たぐーつきをここはきけと」とあり

たぐーづま 奥妻 古語 甚だ寵愛なる妻。

たぐーゆーの 置露 づゆは消ゆやすきものなれば、きゆにかけて云ふ。

たぐーて 晚稻 植物 普通のものより、れそくみのる稻を云ふ。

たぐーてう 億兆 億も兆も共に數量の多大なるより、多くの臣民、たはみたからの意に變じたり。

たぐーてなる 晚稻 ながきに掛けて云ふ語、蓋し、れくては、さかり久しければなり。

たぐーていもの 御國者 古語 徳川時代の所謂いなかむらいのこと、變じて、地方の人、田舎ものとなる。

たぐーぬき いうざん 奥貫友山 人名 儒者にして、慈善家、名は正剛、通稱は五平次、武藤國河越の住人、家富む、寛保二年の大洪水に、民十萬人の餓饉を援へり、依て、河越侯より、賞賛せられぬ、天明七年三月、年八〇を以て歿す。

たぐーぬの 奥布 布の一種、昔陸奥國より産出したる布なり。

たぐーのうみ 奥海 地名 陸奥國の近海の總稱。

たぐーのいびす 奥夷 人名 昔し、陸奥國に住みたるいびすの名。

たぐーのいづらぶししま 奥永良部島 地名 琉球の永良部島のこと、(大隅の永良部島に對して)。

たぐーのくく 奥國 地名 みちのくにたなはし。

たぐーのししま 奥島 地名 近江國琵琶湖中にある島、周囲三里二十五町なり。

たぐーのたぎ 奥瀧 地名 泉州日根郡にありて高さ七丈二尺、幅四尺、大鳴山七瀑の一なり。

たぐーのて 奥手 秘訣にたなはしく、容易に人に示さぬ長所。

たぐーのふじ 奥富士 地名、陸中國岩手山のこと。

たぐーのほうみち 奥の細道 書名 俳諧の祖、芭蕉翁の奥州旅行の旅日記なり。

たぐーのや 奥家 武家の所謂たいのやにたなはし。

たぐーのいん 奥院 寺院にて、本尊を安置せる堂を云ふ。

たぐーば 奥齒 生理 小白齒、大白齒の總稱にて、上顎共二十枚を以て通常とす。

たぐーはちべえ 奥八兵衛 人名 魚商、勤王家、京都の人、常に禁中の御用をつとめたり、後光明天皇崩御の時、有司の邸を訪ひ、火葬の儀を止めしむ、寛文九年正月廿三日歿す。

たぐーび 奥くびのことにて、延髓の作用による。

たぐーびと 奥人 人名 奥向に奉仕する女房のこと。

たぐーむらまさのぶ 奥村政信 人名 畫工、江戸の人、芳月堂、丹鳥齋と號し、浮世繪を能くし、草双紙を出す、紅雲の始めは此人なり、明和五年二月、年七九にて歿す。

たぐーむらりやうちく 奥村良筑 人名 醫士、越前府中の人、南山と號す、吐法に妙を得、瀧浴するを以て癩疹を治療したり、寶曆十年年七十五歿す。

たぐーままたね 奥山正胤 人名 學者、岩代の人、平田篤胤に學び、政府の教授となり、明治十七年歿す。

たぐーやまつみのいかみ 奥山津見神 神名、伊那郡岐尊、御子の火之迦具土神を斬り給へる時、腹より生れ給ふ。

たぐーのいけ 巨椋池 池名 山城久世郡にあり。

たぐーのいみや 小倉宮 人名 親王、後龜山帝の皇弟、泰成親王と申す。

にぐらーのみや 小倉宮 人名 皇子、後龜山天皇の皇子にして故小倉宮の嗣子なり。此時後小松帝南朝に位を傳ふるを欲せず、彦仁王を宮中に入れ、後花園帝となされしかば、伊勢國司北畠満雅、皇子を奉じ鎌倉に兵を擧ぐ義教の爲めに敗られ滿雅戰死す。

オクラホマ Oklahoma 地名 アメリカ合衆國の一州面積三八、四三七方哩、首府をオクラホマと云ふ。

にくりーろたん 小栗宗丹 人名 僧にして畫人、小栗滿重の子、應永年中足利氏に叛き、鎌倉に潜み、横山安秀と云ふもの、爲めに害せられむとせしも、照手姫の助けにより漸く身をもちて、逃る、京師相國寺の僧康丹となり晩年周文を師として學び、遂に狩野元信の如き畫工を出す

オケルガイミン Oket-gaimin 幹元立海迷失 人名 皇后、蒙古太宗の長子定宗の皇后、定宗在位三年死す、即ち失烈門を立てんとせしも、施雷の子蒙哥大汗の位に即きしかば事敗れたり。

にぐるーす 小栗栖 地名 明智光秀の土民に殺されしところ 山城國宇治郡醍醐村にあり。

にぐるま 旋覆花 植物 菊科、二三尺の莖、黄色單瓣の花を開く。

にぐろーび 御黒戸 歴史 清涼殿の北にありし佛式の

御位牌所の稱。

にけし 幼き女の髻の形、古語。

にけーわう 弘計王 人名 市邊押磐皇子の第二子なり、始め事ありて播州明石に兄億計王と共に隠る、清寧天皇子なく、皇胤を求められたる時、國司小幡によりて宸聽に達し、兄王と譲り合ひ、帝崩後、位に即く、顯宗天皇となり帝久しく民間にありて百姓の疾苦を知り、窮民を惠み玉ふ後兄王に位を譲る。

にけーわう 億計王 人名 顯宗帝の讓を受けて立ち仁賢天皇と申す、事弘計王の條下を見よ。

にけーてんわう 億計天皇 人名 人皇第二十二代の仁賢天皇を申す。

にけら 蟻蛸 動物 虫類、けらのことなり。

にこ 植物 藻類、海草の名、海底にありて紅色又は褐色を呈すこれ其葉綠素を有するを以てなり。

にこーたごーと 輿立 輿を載する臺。

にこーたごーたごーと 輿を載する臺。

オコタイ Okotai 高濶臺 人名 建國者、元の世祖成吉思汗の子、エミル附近を根據地として阿窩臺汗國と稱す

にこーけい 鳥名 冠紫黑色にして鶯生す、雞の一種

にこーはじめ 歴史 徳川時代陰曆十二月八日正月の

の残り、下人の主人より賜はる物を云ふ。

にさき 御先 人の手の先に思ふ様に使はるること。

にさきーまつね 御先狐 動物 小にして猛悪なる狐の一種なり。

にさきーまつら 御先眞暗 思慮分別のなきこと。

にさし 御差 乳母にて唯乳を飲まするのみの人。

にさじ 御匙 徳川時代にありし大名の侍醫のこと。

オサゾン Osazone 化学 性狀一水、アルコールには殆んど溶解せず、亞鉛及び醋酸に還元するときはグルコサゾン C₆H₁₀O₄(N.NH.C₆H₅)₂ はイソグルコサミンとなる。

にさだめがきーひやくかてう 御定書百ヶ條 徳川吉宗が、家康以來の刑例を集めて編纂したるものにして、江戸時代の基本法典なり。

にさつ 御札 女の語にて 紙幣のこと。

にさふ 押 圖下二 押しつく、つつむ、掩ふ、辛抱する、堪忍する、捕ふ、宴會などに させられたる盃を押し返して更に飲ましむることなどの意あり。

にさへ 押 物ををささふること、重きこと、喘息、行列の終りにつきて取締をなす人のことを云ふ。

にさへーぎ 押木 物ををさへつくる木なり。

儀式支度を始め、陰曆二月八日一年の農事の始めをなす。

にこーたごーたごーと 御事納 歴史 徳川時代陰曆十二月八日一年の業を終ひしことを祝ふなり。

にほーかうもり Pteropus 動物 寒蟻と書き熱帯に生ずる蝙蝠にして白歯は人猿に似後頭部頭部及復面は赤色を帯び他は黒し 體長一尺二寸、シアバに最も多く産す。

オコン子ル O'Connell 人名 アイルランドの愛國者且有名なる雄辯家なり、國會議員に選ばれ、羅馬に行く途中シエーナに於て死す、(西紀一七五五—一八四七)

にさかのうちーのみささき 押坂内陵 地名 大和國式上郡城島村にあり舒明天皇の御陵なり。

にさかーのーたほなかーつーひめ 忍阪大中津姫 人名 皇太后、允恭天皇の后にて衣通姫の姉、安閑天皇及諸皇子を産み給ふ。

にさかべーのーたうじ 忍壁皇子 人名 天武帝の皇子にして、壬申の亂に戦功あり、天皇の九年勅を奉じ河島皇子と共に修史の事に従はる。

にさーがめ 動物 爬蟲類 一名やさばと云ひ 猛烈なる海龜なり、甲は縦稜あり、龜甲は背骨胸骨の著しく擴張したるものを皮膚の角質として 覆ひたるものなり。

にさーがり 御下 元日に降る雨雪のこと、神佛の供物

たさへーば 生理 八重歯のことにて定齒以外に 不規
律に生じたる齒。

たさへーもごゆひ 押元結 もとゆひの一種にて、延寶
年中に流行せる結方、男の 未だ 前髪のある頃に 頭の
上よりかけて、左右に分け、耳の後より下げて 結ぶに用
ゐるもの。

たさへーもの 押物 酒宴の時に用ゐるものにて、花鳥
山水などの作りものをなしたる臺の上に 酒の肴を盛りた
るものを云ふ。

たさまし 淺語 古語 あざはかなること、ちさましの意
相摸集に曰く、「かげみきとのみ、たさましく、いひもろし
けることのはに云々」とあり。

たさん 於露 下女 下婢にたなしく、めしたきなん
な、ちよちゆうのこと。

たさんーどん 於露殿 たさんに同じ、多く東京邊にて
用ゐらる、語。

たーさらーば 御然者 別る、ときさの語、之を句として
云ふも差支なし、同意義となる。

たさらぎーうち 大佛氏 姓名 北條泰時の季父時房の
後にして、世々陸奥守たり、貞直に至り右馬助陸奥守とな
り、後醍醐天皇の笠置の行在を陥れ、楠氏を赤坂城に破る

後義貞に破られ戦没し、後大佛氏扱はず。

たさらぎーこれさた 大佛維貞 人名 宣時の孫、宣宗
の子、修理大夫たりき、元弘の役に、楠木正成を千早城に
攻めたる大佛高直の父たり。

たさるーこほろぎ 御猿蟋蟀 動物 いざぐりに同じ、
東京の語なり。

たし 押 ねさへ、飽くまで 我をつらぬかむとするこ
と、又ねさみれどしのこと云ふ。

たし 唾 生理 人間生來の壁にして 喉頭部に
異状あるにあらざ、故に談話することを得るに至るべし。

たし 忍 地名 松平氏の舊藩地にして 武藏國北埼玉
郡にある市街、今は埼玉縣に屬せり。

たし 御師 一。身分のひくき神主のこと、二、僧侶
を敬ひて云ふ語。

たし 古語 警鐘の聲、たれ、ししの畧、けいひつとは天
皇の御成りの時 先拂するときに發すること、昔し大名に
も此事ありき。

たし 押 動物の頭に添へて 其辭の意味を強める字
なり。

たしーし 植物 「だいをー」を見よ。

たしーあけがた 推明方 夜の明方、曉の意、和歌など

には戸を開く意にかけて用ゐらる。
たしあけーぼんぶ Force pump 物理 (一)は通常の押
し上げポンプに
して、(二)はD
管の上端より流
水するの間斷あ
るを防ぐ装置に
してA部に空氣
室を設けより
入り来る水を一
度に空氣室に入れしむれば 活塞の閉ぢたるのみ、元壓せら
れたる空氣は原立積に復せむとして水を壓するを以て 水
は常に絶えず、上方に流水するものなり。



たしーあゆ 押貼 動物 昔、元且の禮儀に用ゐるため
貼の乾したるを用ふ即ちこれなり。

たしうみーいひとよあなーのみこと 忍海飯豊青天皇 皇
天皇 忍海部女王のことにて、億計 弘計の二皇子互に位
を譲り給ひしかば、假りに立ち給へる角刺帝のこと。

オージッロー Augereau 人名 佛國革命及ナポレオン
の戦役に大功ありし佛の元帥なり、(西紀一七五七—一八一
六)

たしーたき 御仕置 歴史 徳川時代重罪の刑罰。

たしきーさう Mimosa pudica 含羞草 植物、荳科植
物、葉は數多の小葉を有し四本の小柄に支へらる、晴、晝は
開き、雨、夜は閉ぢ、又外物の刺激を蒙るときは閉ぢ小柄
も下垂するに至る。

たしきまーわうじ 忍熊皇子 人名 皇子、景行天皇の
皇子神功皇后の時 熊取皇子とともに抗す、敗れて瀬田に
入水せらる、一説に皇子は仲哀天皇の子なりと。

たしーちや 御七夜 佛語 報恩講なり。

たしーしちり 御七里 歴史 徳川御三家、水戸、尾張、紀
伊にたかれし飛脚のことなり。

たしだ 植物 メンを見よ。

たしつけーのーいた 押附の板 歴史 體の肩に當ると
ころにあてる板、染革を以て包めり。

たしーどり 鳶 Arix galericulata 動物 遊禽類、脚
短く趾に膜ありて巧に水中に浮沈游泳す、雄は極めて美麗
にして 長一尺餘あり、常に雌雄相離れず。

たしね 晚稻 植物 晩く實を結ぶ稻、即ちたくてに同
じ。

たしーは 押羽 動物 鳥の極めて短き羽毛なり。

たしほみみーのみこと 忍權耳尊 神名 天祖天照大
六)

神の皇子なり、天上より大神の命により豊原瑞穂國に下り給へる彦火々出見命の父なり。

たしろいぐさ 白粉草 植物 紫菜科 莖は開く節高し、葉は有柄形にして赤、白、黄等種々の色の花を咲く。

たぢ 牡 動物 鳥獣の雄性に用ふる語なり。

たぢ 雄 動物 人以外の動物の雄性に用ふる。

オスカル Oskari 人名 瑞典及挪威の王、パリに生る、西紀一八四四年三月即位す、一八五七年迄在位、之をオスカル一世とす。

オスカル二世は一世の子にして西紀一八七三年カカロ十五世に繼ぎ王となる、ゲーテのフアワストを瑞典語に譯し文學を奨励したる人なり。

オスタンド Ostende 地名 ヘルギー、フランドル州の西海岸にある真温泉場にして毎夏浴客二萬人あり、又良港にして日々ドーバーと郵船の交通あり、牡蠣を輸出す、人口二萬六千餘 (GILIAN, 255E)

オストワルド Ostwald 人名 スウイスの新教神學者なり (西紀一六六三—一七四七)

オストワルドはノーサンブリアの王にして基督教を國教とし、西紀六四二年、メルシア王ペンダと戦ひて死したり、

オストワルドは現今獨乙の化學の大家にして、理論化學の教授として大學に教鞭をとれり。

オスチア Ostia 地名 โรม古代の海港にして伊太利ナペル河の河口にあり。

オスチアク Ostiaci 地名 人種、西部シベリアのオビ河沿岸に住せるフィンランド種族にして、十三世紀マルコポーロの發見せしところなり。

オストラキスモス Ostrachinus 地名 キリシア、アテチの政治上の制度にして貝殻法のことなり、これによりてアテチの人民は、元老院に投書して教記名者の罰せられんことを許されたりき。

オーストララシア Australasia 地名 オーストラリア、ニウジーランド及其近海諸島の總稱なり、(GOS, 149E)

オーストラリアーたいわん 地名 オーストラリア大陸 地名 オーストラリアの南西部に於ける大灣なり。

オーストリアーボンガリア 地名 歐洲中部の國にして人口四千萬餘あり、種々の異種族あるを以て二十の異なりたる言語用らる、海岸線短くしてトリエストの外は良港なし、然れ共ドナウ河及其支流通過せるを以て交通便なり、礦物に富み、農牧の業盛なり、西方にては工業製作業行はる、首府はウィーンにありて人口百四十五萬あり。

オストロゴツス Ostrogoths 東ゴート人の事なり、獨乙人の起りにして黒海の北に住したり。

オスナブリック Osnabruck 地名 獨逸ハンノフェルの市十五世紀ウエストファリア條約の締結所なりき。

たぢひ 於須比 歴史 頭の上より袍りて、覆までたれたる絹のこと、今のこぎに同じ。

オスマン Osman 人名 五世紀の中頃アラビアカリフを云ふ、北アフリカを侵略し、ロマス馬を上げしも、サナ一揆の爲め死せり。

オスマン Osman 人名 オスマン一世は、十三世紀の人、オトマン朝を創設し、皇帝となりて小亞細亞を支配す

オスマン Osman II 人名 オスマン十六代の皇帝、西紀一六二一年即位し、一六二二年、軍を率ゐて、波蘭に向ひ歸りてダマスタスに至り試せらる。

オスマンリートルコ Osmanli Turks 人名 オスマン帝國に住するトルコ人種のこと、オスマンとは其建國者の名なり。

オスマンーパシヤ Osman pasha 人名 驍將 トルコ人、クリミア及クレト戦役に大功を奏し、後陸軍大臣なりしも、西紀一九〇一年長逝したり。

たぢめどり 護田鳥 動物 脊推動物、鳥類、みぞこ

この一名なり。
たす 御末 したしたのもの、後胤、又御末衆のことを畧して云ふ。

たす しゅう 御末衆 役名 將軍に奉公して、朝夕の給仕役をなすこと。

オステルタル Ostertale 地名 スウエーデンの大川 走ること二五〇哩にして、ボスニア灣に注ぐ河なり。

たせぐく 阿西アジア州 地名 地球六大洲の一にして濠洲と云ひ、其大部分は英領土にして其他諸列國の領土多し。

たせぐむ 古語れしびらめたるさまに見ゆること。

たせち 御節 午夢、人參、燒豆腐、里芋、きりすめなどを煮しめたるものにて、節句の日の用食物とす。

たせほわん 小瀬甫庵 人名 學者、美濃土岐氏の庶流にして、豊臣秀次に仕ふ、後堀尾吉晴に奉仕し、晩年には加賀侯の聘によりて、藤二百五十石を食む、寛永七年七七にて歿す、太閤記、信長記は此人の著書たり。

たせん 御膳 一、膳を敬して云ふ、二、飯のことを丁寧に云ふこと。

たせん 御膳部 たせんに同じ。

たせんまい 御染米 佛語 神佛に供へたる洗米のこと云ふ。

たせらしめ ねころしの意と、小見らしからず、たせらしとの二意あり。

たせる 鴨鴨 古語 ながむること、のぞみみること。の意。

たが 鈍 古語 ほんやりしたること、によきこと、鏡の反対なり。

たがひ 悪 善の反対にて、わるし、あし等の意。

たがひ 怖 出雲松江邊の方言にて、たせろしの意。

たろたい 怖 遠州邊の方言にて、たせろしの意。

オゾン Ozone 化学 蒸法一燻を血にのせ、之を硝子製の鐘内に入れ、酸素を充満せしめて、十数時間放置すれば生ず、或は電氣の力を以て製し得らるるなり、性状一深青色の瓦斯、沸點零下一九度、酸素の酸化力より強きものと頗る大なり、用途一漂白作用、製澱粉に用ゐらる、是れ酸化力強き故なり。

たろかれはやかれ 早晚、早きか、晚きか、いづれ、つひには等の意。

たろさ 襲衣 古語 うはぎのこと、たそひぎの界にて、英語の所謂コートなり。

たろくつの一委 古語 春書(しゅんくわ)に同じ。

たがけ 怖氣 ねころしきさま。

たがけ一たつ 怖毛立 ねころしきさま。おそろしくて身の毛の立ちてぞつとすること。

たがけ一ふるふ 怖氣振 ねぞけだつの意に同じ。

たろさき 晩開 花など時にわかれて咲くこと。

たろさくら 遅櫻 普通道の櫻の如く、時にさかすしてわかれて咲くさくらのこと。

たろし 御祖師 佛語 一宗の開祖 眞宗信徒より云へば邪覺上人のこと、日蓮上人は日蓮宗信徒の祖師なり。

たろし 遅 時のたそきこと、鈍なること、時既にへたりの意あり。

たろし 俾 古語 たすしにたなじ。

たろなへ 御供 神佛に供ふる餅、かみもちのこと。

たろなへ 鹹齒 生理、齒の疾病を持ちたる齒、所謂むしばのことなり。

たろなへやちも 早晚 古語、たそかれはやかれの意。

たろひ 襲 物の覆ふること、人を訪問すること、家着相續することの意。

たろれやま 恐山 地名 陸奥國下北郡宇曾利山のことに、今尙噴火しつ、あり。

たーだいし 御大師 人名 弘法大師のこと。

たーらうはんさ 織田有樂齋 人名 茶人、織田信長の弟、茶道の宗匠となる。

たーうじ 織田氏、姓名 織田氏の血統、氏は世々尾張にありしも、信長に至り、天下を統一せり。

重盛 維盛 盛國 資盛 親實 秀信 信長 信忠 秀信 信雄 信孝

たーうち 小田氏 姓名 八田知家六世の孫貞知常陸介となり、常陸小田を領し、小田氏を稱す、子治久南朝に靈し、延元中左近衛權少將に任せられ、家漸く盛となる。

たーたけ 植物 「はちく」に同じ。

たーじやう 小田城 地理 城名、常陸國筑波郡小田村に在りて八田知家の築きしものなり。

たーじやう 小谷城 地理 城名、淺井氏の居城、近江國東淺井郡小谷山にあり。

たーのぶた 織田信雄 人名 將士の子、信長の第二子、北畠氏を嗣ぐ、信長の死するや、尾張に封せられ、秀吉の煽動にて、信孝及柴田勝家を攻め、後家康に合し小牧山に於て秀吉に對陣し勝つ、小田原征伐に戦功を奏し、後

淀君の害せむを恐れて、京師に逃れ、寛永七年死す。

たーのぶくに 織田信邦 人名 織田信長六世の後胤 上野小幡の主となる。

たーのぶたか 織田信孝 人名 織田信長の第三子、北伊勢に居りしも父の變をき、秀吉と共に光秀を打ち後美濃を領す、信雄と不和を起せしや、柴田勝家と共に、秀吉、信雄を除かむとし、兵を起して敗られ遂に自殺す。

たーのぶただ 織田信忠 人名 信長の長子なり、天正十年六月二日明智光秀の反により、二條城に弑せらる。

たーのぶなが 織田信長 人名 平氏の後胤、信秀の子、正親町永祿三年、今川義元を尾張桶狭間に破り、美濃の齋藤氏と婚し後之を滅し、姉川の戦にて淺井氏を亡ぼし、東上せんとするに當り德川家康をして武田氏に當らしめ、京師に入りて永祿十一年義昭將軍を奉ず、豊臣秀吉をして毛利氏に當らしめ、己れ本能寺にありしが明智光秀の爲め殺されぬ、信長の功業少しとせず、(一)に天下を一統せしこと、(二)勤王の志厚くして舊領地を諸侯に與へ、(三)に敬神の念深くして天正十年伊勢内外両宮を修理し宮裏を改修し(四)に僧侶の暴を懲らしめたり。

たーひでのぶ 織田秀信 人名 信長の嫡孫、石田三成に欺かれ、家康に反す、後難髪して高野に遁れて死す

たたまーじやくし 蝌蚪 Tadpole 動物 両棲類の幼虫、即ち蛙の子にして鰓を以て水を呼吸し、食物は植物性を食す。後後肢前肢を生じ、尾を失ひ、鰓は肺となり、血

色は白くして純然たる陸上動物となるなり。

たたまや 御霊屋 地名 死人の霊を祀る處なり。

オタワ Ottawa 地名 北米加奈陀の首府、大統領の官宅、諸官省の所在地なり。

オタワ Ottawa 地名 河名、加奈陀の一大河 源をケック州の西に發し、流る、こと七〇哩にしてセントローレンスに合す。

ただはらーじやく 小田原城 地名 相州足柄下郡に在り、應永二十四年大森頼顯城主となり、明應三年北條早雲

之に攘りて五代を經、上杉武田攻むと雖も抜けず、天正十八年豊臣氏の

大軍に攻められ敗る、後家康の有に歸しぬ。

たちあゆ 落貼 動物 魚名、八月頃 流水に漂ひ川下にて死する鮎を云ふ。

たちくほーものがたり 落窪物語 書名 平安朝時代の小説にて落窪の君とて繼母に苦しめられし女、左近衛少將なる男に愛せられて立身出世せし譚なり。

たちくほものかりーちうしやく 落窪物語註釋 書名 落窪物語を註釋せしものにて村田春海、橋千蔭の合著なり

たちーたぎつ 落沸 國四活 落ちながら 涌きかへること オチッセウス Othysus 人名 勇士、ギリシアの人、神代既に木馬を案んじて、トロイア城を陥落せしめし人なり。

たちーのせき 愛發關 地名 「わらちの關」を見よ

たちひひけ 植物 「はなごけ」を見よ。

たちほーしふ 落穂集 書名 天文十一元和元年の徳川氏の事件を示せるもの、大濱寺重祐に選まるものなり。

たちーしほ 落潮 地名 海の水の引くこと、即ち引潮。

たちやーのつほね 阿茶局 人名 婦人、武田氏の臣飯田久右衛門の女、家康に仕へ、大阪の役に際し、彈丸雨

中の難をわかし、大藏局に達し、和議をなすに及ぶ。

たつこつーたいけん 乙曾耐軒 人名 儒者、強記博聞詩を能くす。甲府徴典館の學頭、監察となる。

オットー Otto 人名 皇帝、羅馬皇帝チロと朋友ガルバに勝利を得し爲め皇帝となり、後ゲルケニの軍隊に敗られて死す。

オットー二世 Otto II 人名 皇帝、獨逸ヘンリー八世の子、四紀九五、アルプスの險を冒して伊太利に赴き

ロンバルデー王となりぬ、即ち神聖ローマ皇帝のことなり

オットー一世 Otto I 人名 皇帝、オットー一世の

子、在位中の一件は佛王ロタールをロルレーヌより驅逐し巴軍を圍みしなり、されど後サラセン人に殺さる。

オットー三世 Otto III 人名 皇后、神聖ローマ

皇帝オットー二世の子、アーヘンに於て獨逸皇帝となる時

に西紀九八三年なりき。

オットー二世 Otto II 王、パツリアの人、英佛露

三國の連によりて、イギリス王となる、後國內内亂の結果

國外に放逐せられぬ。

オツピウス C. Oppius 人名 羅馬三頭政治の時代に出

でユリウス・ケーザルの友、ケーザルの敵なるポンペイの

名譽を毀損し、ケーザルを稱揚するに務めたり。

たごせい 鬮駒獸 Urine seal 動物 哺乳動物、食

肉獸、蹄脚類、永陸何れにも住み得、其色は幼は黒色、老

は深青黒色の斑點を有す、六尺以上に達するもの極めて稀

れにして其毛は非常に珍重せらる。

オテナツス Olenathus 人名 將軍、ローマバルミラ

の王子、アウレリアン帝の時、ヘルシア王シアールを打

ちてローマ人に迎へられ、皇帝カリアナより、アウグスト

の稱號を授けらる、後北蠻を征せんとするとき、暗殺に遇

ふ。

オデッサ Odessa 地名 ロシアのドニエストル河の

河口にありて一大市をなす、教育、商業盛にして輸出入繁昌に至す。

オーデル Oder 地名 獨乙の大河にして源をモラヴィア

に發し北西の國境を流るる事五五〇哩、運河にてエルベカ

イスツラ河に通ず。

たご 音 物理 物體の振動の急速なるとき發す、一秒

時間十六回より三萬六千回まで振動するを聞くを得。

たご 於菟 動物 哺乳動物、とら及ねこの別稱なり。

オド Odo 人名 僧正、ワイルム帝の弟にして、バ

イの僧正なり、嘗てヘスチングの戦に従軍し、功を奏して

クント伯に擧げらる、一〇九六年バルレモに死せり。

オド Odo 人名 僧正、佛國ツールに生れ、僧尼の惡

弊改革案を設けて、反則者を罰したり。其の著書多し。

オトー Otto 人名 ローマ皇帝、西紀六九年 ドイツ

軍に攻められ自殺す。

オドアケル Odoacer 人名 アツチラの將士の一人にし

て、羅馬帝國の近衛兵となり、アウガスタラス帝を廢し自

立して皇帝となる、東羅馬帝セノ、東ゴード王テオドリック

を西帝とし、オドワケルと對抗せしむ、テオドリックはオド

ワケルと和し共に伊太利を治む、四九三年暗殺に遇ふ。

たごーかし 弟猾 人名、會長 上古大和、土蜘蛛の會長

にして兄弟の弟なり、神武東征の時歸順して兄弟の勳勞を密告す。

オトカル Otokari 人名 王、獨逸ペーメンの王一二四

六オーストリアを合し、後一二七六ルドルフ伯と戦ひ敗れて和し、後又兵を擧げ遂に陣中に死す。

たごぎざうし 御伽草紙 書名 足利時代の中世より徳川初代までの草紙を集めたものなり。

たござりさう 弟切草 植物 草名、夏草にて、黄色の花を開く。

たごこやま 男山 地理 山名、石清水八幡宮を祀れるところ、山城國綴喜郡八幡町の山なり、南北朝の戦の時南軍の據るところ、足利義滿の大内義弘を攻むるに陣とせしところなり。

たごこだて 男伊達 江戸幕府の初め起りし任侠を以て任ずる徒を言ふ、其有名なるは、神祇組、白柄組(旗本奴)及唐大組、鶴鶴組(町奴)等なり。

たごしげ 落掛 歴史 元祿時代の男子の鬘の元結の掛け方を、根に近く結ふことなり。

たごしき 弟磯城 人名 會長 上古大和に住せし賊の會長、神武東征の時、容易に歸順し、天皇の爲めに功をなす。

たごしむ 圖下二活 人を卑見すること、いやしむこと。

たごたはなひめ 弟橘媛 人名 婦人、忍山宿禰の女にして日本武尊の妾なりき、景行天皇の時蝦夷反ししかば、尊を遣はし給ふ、此時従ひ行き、上總の海荒れ將に船覆らむとするに、媛海中に入りて静めぬ。

たごづき 弟月 地名 陰曆十二月を云ふ。

たごご 大殿 歴史 貴人の宅を云ふ。

たごご 大臣 官位、参議以上の人にてだいしんたりし人、おはいまうちぎみと云ふ。

たごごい 兄弟 人名 はらから(同胞)、きやうだい(血統の同じきもの)。

たごごぐさ 弟草 植物 古語、菊科草本の代表者たるきくのこと。

たごな 家老 一、一族の長、二、武家に奉仕したる譜代の老人。

たごな 大人 一人前の人間に生長したる人、又小供のたごなしきにも云へり。

たごなたごなし 図 たごなの如くなりたるを云ふ、たごなびたりの意。

たごなげなし 大人氣無 図 たごなげなきことにて、大人ながらも、小兒に似たるふるまいをすること。

たごなし 圖 智慮分別あること、又たごなしき、しづかなる意あり。

たごなしがは 音無川 地名 古代より名ある紀伊の熊野川のこと。

たごなしのささ 音無里 地名 山城國にありてよく和歌に入れらる。

たごなしのたさ 音無瀧 地名 山城國愛宕郡來迎院村にあり、高さ十六丈、幅五尺餘。

たごなしやかーに 圖 落ちつきはらひて、たごなしさままにて。

たごなひ 圖 音のさはさは立つこと、又人を訪問することを云ふ。

たごなぶ 圖四 音のひびくこと、だづぬること。

たごなぶ 圖上二 大人らしくなる、たごならしくなる。

たごななうな 古語、家政をとる女、たごなの女。

たごにい 圖 播州邊に使用する語、兄弟の意。

たごにのみ 圖 菊(菊)にかけて云ふ語、蓋し音にのみ聞(きく)と云ふ意より來る。

たごね 乙子 圖 曆語、古語、正月の下の子の日を云ふ

たごのこもる 大殿隠 圖四 たごのこもるにたごしく寝給ふこと。

たごはのたさ 音羽瀧 地名 山城國愛宕郡比叡山にありて、高さ二丈幅一間。

たごはやま 音羽山 地名 山城國宇治郡にある山にして、古よりよく歌によまる。

たごび 兄弟 古語、たごとうどに同じ。

たごひめ 弟媛 人名 婦人、雄略帝の時、吳より歸化して、本邦人に、職工の藝を傳へたり、又弟姫とて、妹にあたる姫を云ふ。

たごのちやうわ 音の調和 Consistence of sound 物理 二個の異りたる音の振動数の比、極めて、簡單なる場合に發するときの音なり、例へば二五六と、五一二は即ち「」の音を同時に、鳴らす時は、愉快なる一種云ふ可からざる音を發するは、是れ音の調和したる現象なり。

たごのつよや 音の強 Intensity of sound 物理 音の強弱は、發音體の振幅の大小、距離に關係するものなり、1. 振動體のエチルキーは、其の振幅の二乗に正例す故に幅の廣きときは強く、狭きときは弱し、2. 發音體よりの距離の二乗に逆比例するものなり、故に近きときは強く、遠ければ弱し、人間の男女の音聲の強弱は咽頭部にある聲帯によれり、男は幅ひろきを以て大、女子は狭きを以て弱し。

たごひめーのかんざし 乙姫替 植物 海藻類、即ち

あまもにたなし。

たごほね 願骨 生理 たごがひの骨なり。

たごまじ 疎 図 うどんずること。

たごみみ 古語 音にきくこと。

オトマンてしんく Otoman 帝國 地名 ヨーロッパ

のトルコ帝國の領土の總稱、バルカン半島の大部、アルメ

ニア、クルサスタン、シリア、メソポタミア、埃及の地を

含む。

オドン Odon V 人名 王、オドン五世は佛の僧師豪

族の蘇撰によりて、フランス王となる、(西紀八八八)

たごめつばき 植物 「やへつばき」の一種なり。

たごや 乙矢 図 武器 初矢の次ぎに放つ矢なり。

たごやまつみのかみ 於菟山津見神、神名 伊弉諾

尊の子、迦具土神の胸より生れ給ひしなり。

オトノド Otano 地名 地中海と アドリアレーと

の間の海峡、長一四〇哩あり。

オトラル Orul 地名 シベリアのシヤキツヤラス

河上の一市なり。

オドリク Okorie 人名 施行者 十四世紀の初めの人

イタリヤのフリウリ州に生れ 約十年を費してアジア、イ

ンド 東インド、支那を遊歴したる。

たごろ 荊棘 植物 草名、いばら類の群生地。

たなかーがしら 御中頭 役名 中頭のことにて 武

家の女役なり。

たながーざる Caropitheus 動物 哺乳類、人類に最

も類似せる猿類、果然と書く、尾極めて長く、體は僅か一尺

五寸なるに尾は一尺五寸より二尺あり。アフリカ印度、臺

灣に産す。

たーなんご 御納戸 歴史 徳川氏時代に起りしこと

にて、貴人の衣服部屋を云ふ、後役名とされり。

たなんごーのやく 御納戸役 歴史 徳川時代の財

政役を云ふ。

たーなり 御成 歴史 古、官方、攝家、將軍等の往來

せらる、敬語なり。

たに 図 恐ろしき、殘忍酷薄の意味。

たにーあさみ 鬼薔 植物 草類、あさみの一種なり。

たにーいた 鬼板 歴史 神社寺院の瓦に多くあり、其

種類々あり、雲ひき、波ひき等なり。

たにーたにせ 虎頭魚 動物 魚名、甲頭類海魚、深紫

色の斑點ある暗黒色の體、背鰭は硬直の針狀にして能く人

を刺す、肉は用ゐられず。

たにーがしま 鬼島 地名、伊豆國青が島にて鬼の住

みしところの島名なり。

たにーざり 鬼切 鬼丸 刀名 源家代々の重寶なり。

たにーぐるみ 植物 胡桃科 灌木にして山野に生茂す

葉は漆樹の如く、夏淡黄色の花を咲き、實は桃に似て青し

材は盆類、樹皮は染用にするを得。

たにーざん 鬼螺子 動物 貝類、角太く形長きさ

ざりの一種なり。

たにーした 鬼羊齒 植物 羊齒類、葉は初め堅渦巻狀

に巻旋すれども、成長するに至り、雄子の尾の如くなる、

花は秋に至り葉の背に卵形狀に咲く。

たにーしばり 鬼縛 植物 瑞香科、草名、俗になつば

うすと云ひ、葉は夏落ち、冬生すればなり、がんび原料と

す。

たにーぜんまい 鬼蓑 植物 羊齒類の普通の屬種類に

して、食用とならず。

たにーなべな 植物 山蘿蔔科、花は卵形花序をなし、

白色の花冠を帯ぶ、果實は頂端に鉤形の苞を有す。

たにーわらはる 爲鬼所笑 古語 爲を作るに汲々た

るを云ふ、支那宋代に貧乏なる劉伯龍ありて、常に家にて

什一の法を營まむとするに、一鬼ありて笑ふ、伯龍歎すら

く「貧窮固有命、乃復爲鬼所笑也」と乃ち止めぬ。

たにーのま 鬼の間 歴史 清涼殿中の鬼の繪の障子

ある間なり。

たにーのーやから 鬼矢殺 植物 草名、百合科、關の

一種にして觀賞植物中の名あるものなり。

たにーばしり 鬼走 歴史 神社寺院に於て、牛王の祭

禮に、鬼を追ふ儀。

たにーばす 灰 植物 睡蓮科、葉は圓形 花は萼片に

包まれ花瓣紫色を呈す。莖種は食用となる。

たにーひばり 鬼雲雀 動物 燕雀類に屬し、告天子の

大なるものを云ふ。

たにーゆり 卷丹 植物 百合科 寒地山中に生ず、圖

に示せる如く葉

は披針形、葉

腋に球芽を有し

花は黄赤色にし

て濃紫色の斑點

を有し、無被鱗

莖を有す。

たにーわらび 鬼蕨 植物 羊齒類の屬、一稜數葉を出

す。

オチガ *Otoga* 地名 ロシア西北の湖にしてラドガ湖

に次ぎて大なるものなり、商業及漁業盛なり、(Cassini, 1782)

たの—いもこ 小野妹子 人名 推古帝の十五年遣隋使

後又隋に渡り、歸朝して聖德太子の六角堂の守人となり、

妻子は池の坊と云ひ、今の池坊立花の祖なり。

たの—たつう 小野和通 人名 淨瑠璃物語の作者なり

水戸城主武田信吉の子、小野和泉の女なり、信長に仕へ後

淀君の侍女となる、元和二年三月五日年五十八にして歿す

たの—こまち 小野小町 人名 歌人、莖の子其良の女

和歌に長し、和歌古今集の詠人、極めて美容なりき。

たの—ころ—じま 痕取島 地名 多くの説ありと雖も

確かなるものは、太古 伊弉諾尊、伊弉册尊、天降りて、

淡路島の沼島にて夫婦の道を聞き給ひしところなり。

たの—たかむら 小野基 人名 學者、小野岑忠の子、

嵯峨天皇に仕へ參議となり、後清原夏野と合義解を撰す、

唐に渡る、繪畫、詩、文章等世界に冠たり。

たの—だうふう 小野道風 人名 書家、延喜天皇の世

に奉仕し、最も書を能くす、三蹟とは氏と藤原佐理、同行

成の三人なり、後正四位下内藏權守に至る。

たの—のみや 小野宮 人名 皇子、文德帝の子、惟

喬親王を申す。

たの—はるかぜ 小野春風 人名 將軍、小野石雄の子

左近衛將監たりき、後藤原保則の爲め陸奥鎮守府將軍とな

る、昌泰年間正五位下に任せらる。

オノマルコス *Onomarchos* 人名 ヤリシアのフォキス

の一將軍、テッサリアに於てマセドニアの王ヒリッポの爲め

攻められて陣没す時に西紀前三五二なりき。

オノン 幹難河 地名 西紀一〇〇六年元の太祖鐵木真

の成吉思汗となりし河、今の敖嫩河なり。

たのみなご 男水門 地名、神武東征の時、皇兄五瀨命

の賊の流矢に當りて死し給ひしところにて、山城國にあり

たの—よしふる 小野好古 人名 將軍、太宰太貳の葛

笠の子、天慶四年四國に於て藤原純友反旗を鎮すに當りて

れが總追捕使となり、筑前博多にて賊軍を破りたり、天曆

の初め參議に累進す。

たの—ら 己等 文法 自身等を云ひ、たのれらの畧音。

オノマトロギ *Onomatology* 英語 物名起原論或は

人名起原論を云ふ。

オハイオ *Ohio* 地名 合衆國中央東北部の一州にして

北オハイオ河よりユエー湖に及び、穀物を産し牧畜盛なり

人口三百六十七萬二千余、(40°02' 83'0W) オハイオ河此

州を貫き、ミシシッピ河に合す、長千哩。

たば—いけ 動物 哺乳類の鯨の身體と尾との間にある

肉を云ふ。

たばがし 植物 「しらかし」と同じ。

たばくろ—とんぼ 鐵漿蜻蛉 動物 昆蟲類の直翅類に

屬す、草間に輕飛し、休止の時は四肢を體側に並行して置

くなり、其繁殖に種々ありて一様ならず。

たばさふ 御座 國四活 文法 さふはすの延音、御座ある

の意義なり。

たはし—まゐる 御座所 王公貴人のたはすところなり

之をたはしまし—ところとも讀むべし。

たはさうす 御座 國佐變 御はしますの意義なり。

たばな 尾花 植物 「すすき」に同じ。

オハハ 阿八哈 人名 アハハを見よ。

たはま—ごてん 御濱御殿 地名 東京芝區の海岸、大

樹草木、四時の花卉絶ゆることなく、咲き争ひ、品川灣に

臨み、風光明媚の地は即ち 陛下の離宮なり。

たはばん—じふにたい 大番十二隊 徳川幕府時代の

殿中守護の役なり。

たはな—ばたけ 御花島 植物 寒帯芝生即ち單子葉雙

子葉類の混合せる叢を云ふ 夏季最も美麗に咲く。

オバーロード *Overlord* 人名 多くの土地を有する人

或は國を治る團體の主君等の稱なり。

たひ 笈 歴史 山伏或は行脚僧の如き修道者の佛具、

佛畫等を入れて背に負て行く、箱にて脚を附けたり、今は

郷關を去りて學を異郷に修むるを笈を負て行くこと云ふ。

主宰者にして自由主義の主義者なり。

オヒギンス Ohiggins 地名 南亞米利加チリの一州

マイフ河附近の地にて多くの金を出す。面積二五二四方哩。

おひどり かり 追鳥狩 歴史、昔しの遊獵、鳥を馬

上より矢、銃を以て追ひ狩ることなり。

おひみ 生實 地名 故藤川氏の藩地、千葉縣千葉郡

にありて一市街をなす。

おふ 生 國四活 文典、物の生ずること、植物等のはゆる

こと、人の成長することなどのこと。

オーフェルアイセル Oerfelaisel 地名 チーデルランド

の東北にある一州、首府はズォーレなり、(52.30'N, 6.15'E)

おふがふ 大神主 歴史、昔の官位 神官にて位の高

きものを云ふ。

おふけ やき 鑛物 尾張國東春日井郡瀬戸町にて焼く

陶器にして、元、同國名古屋地方にて焼きしなり。

おふし ひさご 浮砲 浮袋にて古 河に入りて溺れぬ

爲め、脇に挟みて、身を浮かすもの、今は海軍軍人により

て必要な武器とせられぬ。

おふち かつた 邑知湯 地名 能登國羽咋郡羽咋湯のこ

となり。

おふみ 御文 書名 佛書、御文章のことにて一向宗

八代の人、中興大師僧兼詩の著はすもの、通俗文にて俗人

に解し易し。

オベリスク Obelisk 地歴 方尖碑と書き、上古埃及の

至高神の標として大石碑を立てたるものなり。

オペラ Opera 英語 本邦の演劇に等し。

オーベルニ Auvergne 佛國古代の一州にして、ローアル

ガロンヌの両河流域を分つ高原、(45.30'N, 3.0'E)

おほあさひこ じんしゃ 大麻比古神社 地理 神社名

阿波國板野郡板野村に鎮座する大麻比古神を祀れる國幣中

社なり。

おほ あなぐり 大索 古語 極めて深く探ぐること。

おほ あふさ 大扇 歴史 天皇出御のとき 女宮のさ

しかくる扇にて柄甚だ長し。

おほ あま わうじ 大海人皇子 人名 天皇、天智天

皇の弟、始め皇太子なりしも大友皇子繼ぎ給ひしかば吉野

に居られ、天智帝薨じ給ふに及び兵を擧げ、大友皇子と戦

ひ、勝ちて、天武天皇となり給ひしなり。

おほ あみ 大綱 地名 舊米澤藩地にて千葉縣山邊郡

の一市街なりき。

おほ あらびさき じんしゃ 大洗磯前神社 地

理神社名、常陸國東茨城郡磯前町にある大己貴命を祀れる神

社なり。

おほ あらめ の よろい 大荒目の鏡 歴史 大荒目は

大荒間のこと、鏡の札を 數枚の革を重ね、又鏡の札も交

へ、威糸の太きにて大荒間に綴りたるものなり。

おほ ありぐひ 大蟻食 動物 貧齒類、性怯懦にして

物に恐る 圓筒狀にて細長き粘滑なる舌を以て巧に蟻をな

むるなり。

おほ い わう 大炊王 人名 孝謙天皇の朝、惠美押勝

に推され、皇太子となり、道鏡用ゐらるゝに至り、爲めに

淡路に遷され給ふ、明治三年淳仁天皇と諡す。

おほ い たほ ともひ 大辨 歴史 官位 太政官の判官

左右大辨の古稱なり。

おほ い が は さやうかう の じよ 大堰河行幸の序 國

圓融帝、延喜七年大堰川に行幸ありし時の歌の序、紀實之、

之を作る。

おほ い が は の わたし 大井河の渡 地理 地名、遠

江國大井川にあり、徳川氏要害の爲め橋を架せず、人の脊

によりて渡る、實に東海道の名蹟なり。

おほ い こ 太子 古語 たはわね、第一番の姉の義な

り。

おほ い し の おさよ 大石信清 人名、赤穂義士の一人

元禄十六年死を賜はる。

おほ い し ま ざら 大石貞虎 人名 畫人、尾州名古屋

の人、百人一首一夕話に畫ける繪、最も貴重せらる。

おほ い し よしかね 大石真金 人名 大石貞雄の子、

元禄十六年 死を賜はる 年十六なりき。

おほ い し よしな 大石真雄 人名 赤穂義士の領袖、

主人淺野長矩、吉良上野介義英に辱められ 大不敬をなし

即日死を賜ひ國滅ぶ 真雄四十七士を糾合し、元禄十五年

十二月十四日 義英を打ちて讎を報ず、同十六年死を賜ふ

は表に示せる如く少納言の次官なり、是れ大寶令の定むる

ところなり。

左大臣 (左大臣) 左大史

太政大臣 (大納言) 少納言 外記 史生 八省長官

右大臣 (右大臣) 右大史

おほ い ろ 大磯 地名 相模國中郡に在り、古、小餘綾

(ヨロギ)と云ひたり、今、郡を淘綾(ユルゼ)と云ふ、海

水浴場にして諸貴人の別荘數多あり。

おほ い た けん 大分縣 地名 豊後國、豊前下毛郡

及宇佐郡の總稱にして大分郡府内に縣廳をたぐ。

おほ い ち びぬ の かみ 大市姫神 神名、大山津見の

物語をなせる體に書きたる本なり。

木ほがきしじやう 大垣城 地理 美濃國安八郡大垣町にあり、天文四年安川の安定築くところ、織田信長のと
き攻められ、竹越道磨守たり、池田信輝十五萬に封せられ
慶長五年關ヶ原役の時浮田秀家此に據り石川康通を経て戸
田氏封せらる。

木ほかけ 大鹿毛 馬名 藤原秀衡より源義經にたく
りし馬の名なり。

木ほかたはちらうかた 大方八郎湯 地名 羽後國
西海岸、南秋田郡山本郡との西海灣に即ちこれなり。

木ほがのぶさた 大賀信貞 人名 豪商、幼時南洋の
阿媽港に航し、數年の後歸朝して商業に従事す、晩年雜髮
して、開關唐宗伯と號しぬ。

木ほかはしんじや 大川神社 地理 神社名、丹後加
佐郡岡田山光山の麓、保食神を祀る。

木ほかみ 猿 動物 肉食類大屬、體は黄灰色にて、
黒毛を以て包まれ、前脚、耳の周邊は黒色黒線を有し、寒
帯地方に多く産す。

木ほかむつみのみこと 煮富加牟豆美神 神名 神
代、伊弉諾尊の 冊尊に追はれ給ひし時、よもつひら板の
桃の木に贈りし事。

木ほかもめづる 大鷗曼 植物 草名、かもめづるの
類なり。

木ほががやつ 扇谷 地名 上杉憲方の弟氏顯の孫
顯定の子、鎌倉の邸宅を構へたるどころ。

木ほががやつうらむぎ 扇谷上杉 人名 上杉顯定の
稱するところ、世々、山内家と相並んで鎌倉に管領たりき

木ほがまちさんあき 正親町公明 人名 僧、公蓮の
子、始め 權大納言正二位に累進し、大猷所の別當に補す
典仁親王の尊號に就き江府に幽せられ、後京師に歸りて僧
となり竟空と云ひき。

木ほがまちてんたう 正親町天皇 人名 天皇、八皇
第一〇七代の天子、後奈良天皇の御子、當時朝廷威なくし
て即位し給ひしより三年を経て毛利元就の献貢によりて、
禮を擧げ給ふ、信又長に書を送り、朝廷の振興せむことを托
し給ひぬ。

木ほがみつかさ 正親司 歴史 官銜、皇族諸王の名
稱認べ所にて宮内省に關す、正親止とも云ふ。

木ほがさしやうへい 大草庄兵衛 人名 砲術家、求
立流砲術の祖なり。

木ほがさかのわうじ 大草香皇子 人名 皇子、仁
德帝の皇子、皇妹橘枝皇女あり、安康皇弟大泊瀨之を聘せ

んとし、根使主を遣はさる 皇子大に喜び應じたりしも根
使主に誣せられ帝の爲め殺さる。

木ほくち 大日 歴史 鎌倉時代武士の常服にて表袴
の下に穿ちたる袴なり。

木ほくちげうう 大日曉雨 人名 富豪、江戸淺草藏
前の住人、蘇米預を業とし、義侠心に富む。

木ほくにたましんじや 大國魂神社 地理 神社名、
武藏國多摩郡府中町に 大國魂神を祀れる官幣小社なり。

木ほくにぬしのかみ 大國主神 神名 粟養鳴尊の
子、出雲に居給ひ、少彦名命と國土經營に力を盡し給ひ、
後天孫降臨の時、此國を奉りて、出雲祈禱の宮にかくれ給
ひぬ、今の出雲神社則ち是なり。

木ほくほしぶつ 大窪詩佛 人名 詩、書、書人、常陸
の人、市川寛齋に學び、書を以て名を天下に示す、天保八
年歿す。

木ほくほただちか 大久保忠隣 人名 忠世の子、徳
川家康に養はる、威望あるに至り、本多正信等の爲め、詰
せられ、追放されぬ、寛永五年死す。

木ほくほただのり 大久保忠教 人名 三河大久保に
住み、徳川家康、秀忠、家光の三代に歴仕し、大議に參與
す、寛十六年死す。

木ほくほただよ 大久保忠世 人名 徳川家康に仕ふ
七本槍の一人、小田原城に封せらる。

木ほくほとしみち 大久保利道 人名 鹿兒島の士族
明治元年 參與となり、參議に進み、四年岩倉具視に従ひ
歐米に渡る、七年佐賀亂を平げ、臺灣事件起るや、全權
理大臣となりて往き、償五十萬圓を得て歸る、十年西南の
役靜るとともに、内閣を組織す、十一年五月、刺客の爲め
參上の途、赤坂紀尾井町にて弑せられぬ、正二位右大臣を
賜はる。

木ほくほながやす 大久保長安 人名 森佐智巧みな
るもの、甲斐に生れ、徳川家康に仕へ、金堀司となる、慶
長十八年死す。

木ほくほぬしのかみ 大久米主命 神名 大來目命
と云ひ、神武東征の終りて中國平定となるや、導きて吉野
に向ひ、箕部の後其兵を卒ひて宮門を守る是れ久米氏の始
祖なり。

木ほくほくも 大蜘蛛 動物 節足動物、虫の一種、

木ほくほくら 大藏 歴史 政府財用の收納倉、人皇二十
一代雄略天皇の朝、諸國の貢物、内藏に充溢するを以て官
則に建てたるもの、秦の酒公之が長官たりき。

木ほくほくら 大藏 三藏の條下を見よ。

たほくらしやう 大蔵省 官省名 大化改新の時設けたる八省の一、孝徳天皇の博士高向玄理をして唐風に撰して造りたまへるものにて國家の歳計を司る。

たほくらたね 大蔵種材 人名 筑前の豪族、原田氏の祖、刀伊の賊起りし時、藤原隆家と之を攻め破る。

たほくらなかつね 大蔵永常 人名 農業、豊後日田郡の人にして農事に熱心なり、天保五年濱松侯に仕ふ。著書 農家益除蠶絲、農具便論あり。

たほくらよしゆき 大蔵善行 人名 文學者、清和天皇の爲め書を講じ、東宮侍講となり、延喜元年 三代實錄を撰む。

たほごしよ 大御所 地名 徳川將軍の退隱所なり。

たほごしよさまじたい 大御所様時代 徳川家齊の時江戸城の繁盛其極に達し、文化文政の俗と見るに至れり、此時代を言ふ。

たうごん 黄金 鑛物 金に同じ。

たごんかいがん 黄金海岸 Gold Coast 地名 西アフリカ、ギニア湾に瀕する英國殖民地なり、氣候悪しく、護謨、肝油、砂金を産す、人口百四十七萬五千餘。(S.40N. 3.0W.)

たごんもんじよ Goldene bulle 黄金文書 憲法、獨逸

逸カロー四世の發布したる憲法、獨逸七大諸侯の王を擁護し、權利を確認し、其七大諸侯を選舉侯と稱す。

たほさかかばんしゆう 大阪加番衆 人名 徳川氏の大坂城に交代に置きし司の一なり。

たほさかさんだいし 大阪三大市 地名 堂島の米市、天満の青物市、難波場の魚市を言ふ。

たほさかじやう 大阪城 地名 城名、攝津大坂市東區、天正八年豊臣秀吉城く、慶長十九年秀頼據りて東軍を防ぐ、徳川氏の占むるに至り松平忠明封せらる、長州征伐の際、將軍家茂の行營、明治維新鎮西を設け、後第四師團と改む。

たほさかじやうだい 大阪城代 地理 役名、大阪城に在りて 大阪及附近の訴訟事件を裁判する役所なり、元和五年、内藤信正任す、所司代の舊名なり。

たほさかしながのみささき 大阪磯長陸 地名 河内石川郡山田村、孝徳帝の御陵なり。

たほさかじやうばん 大阪定番 地名 役名、大阪には城代、定番、在番、加番、町奉行等あり、定番は玉造口と京橋口の二ヶ所あり。

たほさかなつーのじん 大阪夏陣 歴史 戦争、元和元年豊臣秀頼の家康に攻められて滅亡に歸したる戦、五月八

日なりしかば、夏の陣と云ふ。

たほさかのせき 逢坂關 地名 近江滋賀郡に在り東海北陸兩道の合點にて山城に帝都遷るや關所となる。

たほさかふゆのじん 大阪冬陣 歴史 戦争、家康の豊臣氏を滅さんとするより慶長十六年二條城會見に衝突し關ヶ原役後の浪人及耶穌教徒の大阪に集まると、慶長十九年方廣寺大佛の一件により家康、秀忠の二人、秀頼を攻め、和議なりて江戸に歸る。

たほさき 大崎 地名 近江高島郡大崎山の麓にありて琵琶の岸に沿ふ。

たほさき 大前 古語 三位以上を上達部と云ひ其の前驅を大前と云ふ。

たほさきかみしま 大崎上島 地名 安藝國賀茂郡の南方海中に在りて 周回十二里。

たほさきのみこと 大鷦鷯尊 人名 仁愛深き天皇即ち仁徳天皇にて應神天皇の皇子なり、三年間の課税を廢し神武以來の都大和にありしを難波に定め給ひ、諸政治に心を煩はし給ふこと一方ならざりき。

たほし 凡 古語 たよそに同じ。

たほしほいほちらう 大鹽平八郎 人名 輿力、大坂の人、陽明學を修む、天保八年の大飢饉に藏書の値を以

て貧民を救助す、後意を得ずして反し吉野に死す。

たほしたきつ 思提 國下二、後世子孫の依るべき道を違虚して、提を立つること。

たほしかはちみつね 大凡河内野恒 人名 歌人、醍醐天皇の朝に仕へ、和泉大塚に累進す、有名なる歌人、古今和歌集の撰者、紀貫之等と時を同ふす。

たほしくたす 思朽 古語 人を見下ぐるること。

たほしーのやま 多師山 地名 近江國栗本郡に在りて本國の高山とす。

たほしほ 大潮 地名 「だいちょう」に同じ。

たほしま 大島 地名 信濃下伊奈郡、元龜二年武田信玄築く、織田紀信忠陥れて毛利秀頼をして守らしむ。

たほしま 大島 地名 伊豆國の南方、七島の大島、保元の役、源爲朝の流されしところ、周回四十里餘。

たほしまさんざもん 大島三左衛門 人名 前陸軍大將、西南役に死せる四卿隆盛の幼名なり。

たほす 大洲 地名 加藤氏の藩地 大津と云ひき、伊豫國喜多郡に在り。

たほす 果 國 事の成就すること。

たほすみ 大隅 地名 九州最南の國、和銅六年大隅とし、足利氏時代は肝付氏領し、後島津氏の領に歸し、維新

の業なるや鹿兒島縣を置く、稱徳帝の時道鏡の爲め 和氣清麿の流されしところなり。

ねぼすらーたき 大空瀑 地名 陸中神貫郡豊澤村にあり高さ二十五丈なり。

ねぼだいばらーさん 大臺原山 地名 三國嶽のことにて 大和國に在り。

ねぼたーだうかん 太田道灌 人名 將軍にして歌人、實清の子、持實と云ひ、備中守となり、藤澤に上杉憲忠を敗り、扇ヶ谷に仕ふ、長祿元年今の江戸城を築き、長祿二年道灌と號す、文明十八年七月 定正の爲め浴室にて殺さる、時に年五十五なり。

ねぼたかかーしさん 大高阪芝山 人名 學者、程朱學、性理學を究め、詩を好す、江戸に死す。

ねぼたかーじんしや 大高神社 地名、神社名、陸前國金ヶ瀬にありて、日本武尊を祀れるなり。

ねぼたかーただな 大高忠雄 人名 赤穂義士の一人、茶を好み、此によりて義英の臣羽倉齋に出入して 動作を伺ひ、主君の仇を報ず、元祿十六年死を賜ふ。

ねぼたーさんじやう 太田錦城 人名 折衷學派、加賀大聖寺の人、京に上り曾川淇園、江戸の山本北山に學び、宋學を修む、文政八年死す。

ねぼたきーやま 大瀧山 地名 卯花の名所 近江國にあり。

ねぼたーせんさい 太田全齋 人名 音韻學者 文化の頃 福山の博士、前人未發の説を多くししなり。

ねぼたーだねこ 太田田根子 人名 大物主神四世の孫 河内美努村にて 太物主神 大和國魂を祀らしむ。

ねぼたてーうじあき 大館氏明 人名 宗氏の子、足利尊氏西海に走るとき 新田義貞の命によりて 追討し、赤松則村を破り、後伊豫守となる、四隣攻畧の爲め 世田城に據りしも 官軍援はず兵糧盡きて自殺す。

ねぼたーなんぼ 太田南畝 人名 狂歌人、蜀山人のことなり。

ねぼたにーよしだか 大谷吉隆 人名 豊後の人、豊臣秀吉に仕ふ、慶長五年 石田三成に誘はれ 謀に與し、關ヶ原の役に敗死す。

ねぼたにーひろゑもん 大谷廣右衛門 人名 俳優、大阪の人、謡風と號す。

ねぼたはら 太田原 地名 東山道の要路、下野國那須郡の東方中央地にあり。

ねぼたーもちぢけ 太田持實 人名 太田道灌を見よ。

ねぼたらしひこーたししろわけのすめらみこと 大足彦

忍代別天皇 人名 人皇第十二代景行天皇を申す、當時九州熊襲横行して朝に反するに當り 帝親征し紀元十二年大和を發し給ふ、筑紫に渡り 市乾鹿文、市鹿文の二姫によりて賊を平げ給ひき。

ねぼたるーのーたき 大垂瀑 地名、遠江國榛原郡高熊村にある瀑なり。

ねぼちかーぶくり 螺蛸 動物 かまきりの類なり、多く木の腋に作り、凝り褐色となる。

ねぼちーごうせん 大地東川 人名 儒者、室鳩巢の外甥、大應公の幼時の侍讀なりき。

ねぼつ 大津 地名 近江國滋賀郡に在り、天智天皇の都し給ひ、足利義植の六角氏と戦ふところ、後關ヶ原の役後徳川家康に歸し、膳所を移して奉行を置く、今は滋賀縣廳の所在地なり。

ねぼつかーさうご 大塚蒼梧 人名、有職家、江戸の人 律令、性理學に通ず。

ねぼつきーげんたく 大槻玄澤 人名 蘭學者の祖、仙臺の人、磐石と號し、侍醫となり、終幕命によりて蘭書を譯す、文政十年三月、年七十一にて死す。

ねぼつきーつねすけ 大槻恒輔 人名 仙臺藩の儒者にして、西磐と號す、江戸に學び開國を主張す、又蘭學を修

め、西洋史を著す、安政四年壽四十を以て歿す。

ねぼつきーばんけい 大槻磐溪 人名 儒者 名清崇、通稱平次、仙臺に在りて侯に仕ふ、後昌平覺に入り、其詞方、一時世に鳴る、嘉永六年、米艦ヘルリ提督來るや、熱心之が開港説を主張す、明治十六年死す。

ねぼつきーばんり 大槻磐里 人名 蘭學者、陸奥の人 名を美植と云ふ、蘭和文典の編纂たる蘭學楷梯を著す。

ねぼつきーふみひこ 大槻文彦 人名 文學博士、磐溪の子、現時 國文典の泰斗と稱せらる。

オボツク Obok 地名 アフリカの東北部アデン灣頭の地現今佛國殖民地たり。

オホーツク Okhotsk 地名 シベリとカンサツカとの間の海にして霧深き爲め航海に通せず。

ねぼつち 茶 植物 草類、夏、黄色卵形の花咲く。

ねぼつほーよしひで 大坪慶秀 人名 大坪流馬術の祖 足利中世上總に出て、左京亮に進む、後道禪と號す、馬術巧みなり。

ねぼつーわうじ 大津皇子 人名 皇子、天武天皇の御子、文武の道を好み給ふ、後、新羅の僧行心の相に信仰し 天皇の崩後謀叛し給ひしも 事發して死を賜はる。

ねぼつーのみや 大津宮 地名 宮名、近江滋賀郡滋

賀村南遊賀にありて天智天皇六年三月此處に遷都し給ふ。
ねほて 追手 大手 古語 城の前門を云ふ、之に對し
勇手を搦手(カラメテ)と云ふなり。

ねほとく 圖下二 どりしまりなきこと、だらしなきこと
ねはやうなること。

ねほとくすし 侍醫 古語 王公貴人の控醫者と云ふ
オホトはオモト御許の變轉せし言葉、くすしは昔醫者のこ
となり。

ねほとぬしのかみ 大地主神 神名 大國主神をか
く申し 出雲神社の祀神なり。

ねほとねり 大舍人 歴史 古の宮名 王公の供奉、
容儀を司るもの、今の宮内省の官吏の如し。

ねほとねりのかさ 大舍人寮 歴史 役所、八省
の一なる中務省に屬し 大舍人の役をなす所なり。

ねほとのちのかみ 大斗能地神 神名 男神にて大
斗能神女神と共に 天地開闢の時 御成り給ひたり。

ねほとのごもる 大殿籠 古語 貴人の就床せらる
、を云ふ。

ねほとひわけのかみ 大月日別神 神名 大直毘神
にて 伊弉諾命の御子なり。

ねほともうじ 大伴氏 人名 氏の先祖は道臣命、神

武東征に際し、大に功ありて後、武官となり 殿内守衛を
司れる人の後胤なり。

ねほともうち 大友氏 人名 祖先を藤原秀卿とし、
其後能直大友氏を稱し、貞宗の時南朝に屬す。

大伴氏の系圖
天押日命……道臣命……昨子
長徳 安磨
馬來 吹貢

櫛人一家持……國道……善男
大友氏の系圖
秀卿……能直……貞宗……氏時……親世……義長
義鑑……義鎮……義統
義武……義長

ねほともかなむら 大伴金村 人名 諱の子、大連な
り、仁賢天皇に仕へしより欽明天皇まで六代の帝に歴任す
武烈帝の時、帝と謀り大臣平群眞鳥父子を弑す、後處置を
失したる爲め禪にある積積押山、紀大磐反す。

ねほともざと 大友義統 人名 義鎮の子、天正十
二年龍通寺と戦ひ敗れ、十五年秀吉の援軍と共に、島津家
久を敗り、豊後守となる、征韓の際、鳳山に陣し、明兵の
爲め狼狽して、黒田長政に奪る、後關ヶ原の役、三成に

應じて豊後に兵を擧げ、黒田如水に敗らる、慶長十年四十
八死す。

ねほともくろぬし 大友黒主 人名 歌人、延喜時代
近江滋賀郡大友村に出で、園城寺神詞の別當たり、黒主明
神と稱せらる。

ねほともたかのり 大友高徳 人名 天文博士、百濟
の人、天文通の學を親勤に學び 得るところあり。

ねほともこまろ 大友古磨 人名 勝實二年遣唐副使
となる、寶宇初年 陸奥鎮守府將軍按察使となり、橋奈良
慶と謀り 事願はれて杖死を賜ふ。

ねほともさでひこ 大伴狭手彦 人名 金村の子、宣
化 年新羅の任那を攻むるを援け、欽明帝の時、大將軍と
なりて高麗を伐ち 珍寶を得て歸る。

ねほともちかう 大友親世 人名 氏時の子、應永三
年吉弘氏を私討せしかば足利義滿の爲め京師に幽せらる、
國に歸りて菊池氏と戦ふこと七十一回勝たず 入道して祖
高と稱し 不意に菊池を打ち破る、後九州探題と自稱す
ねほともわうし 大伴皇子 人名 淳和天皇の事
なり。

ねほともよしけ 大友義鎮 人名 宗麟のこと、義
鎮の子、菊池氏を征し、弘治五年九州を平定せんとす、陶
晴賢の大内義隆を滅すや 弟義長をして嗣がしむ、天正十
五年ホルトガル人と貿易し 切支丹宗を信仰す、天正十五
年死す。

ねほともよし のり 大友義鑑 人名 近隣諸國を奪ひ
九州探題となる、海外に船舶を出して盛に貿易をなし、家
督相續の件に就き臣の津久見美作の爲め弑せらる。

ねほともわうじ 大友皇子 人名 天皇、天智天皇の
御子、伯父大海人と戦ひ利わらず薨じ給ふ、後徳川光圀の
大日本史によりて皇別とし、明治二年弘文天皇と諡す。

ねほともわけのいすけ 大納言 人名 人皇第十
五代應神天皇のこと 神功皇后の御子なり。

ねほともいすけ 大島圭介 人名 現今樞密顧問官
男爵なり、氏は舊幕の臣 榎本武揚と共に 五稜閣に據り

ねほともべ 大伴部 稱族 上代武官の民、大伴氏の
率ひしものなり。

ねほともやかもち 大伴家持 人名 歌人、大納言族
人の子、光仁、桓武の兩帝に歴任す、初め天平中越中守、
中納言、持節征東大將軍と累進し永暦四年死す、萬葉集を
補撰す。

ねほともよしけ 大友義鎮 人名 宗麟のこと、義
鎮の子、菊池氏を征し、弘治五年九州を平定せんとす、陶
晴賢の大内義隆を滅すや 弟義長をして嗣がしむ、天正十
五年ホルトガル人と貿易し 切支丹宗を信仰す、天正十五
年死す。

ねほともよし のり 大友義鑑 人名 近隣諸國を奪ひ
九州探題となる、海外に船舶を出して盛に貿易をなし、家
督相續の件に就き臣の津久見美作の爲め弑せらる。

ねほともわうじ 大友皇子 人名 天皇、天智天皇の
御子、伯父大海人と戦ひ利わらず薨じ給ふ、後徳川光圀の
大日本史によりて皇別とし、明治二年弘文天皇と諡す。

ねほともわけのいすけ 大納言 人名 人皇第十
五代應神天皇のこと 神功皇后の御子なり。

ねほともいすけ 大島圭介 人名 現今樞密顧問官
男爵なり、氏は舊幕の臣 榎本武揚と共に 五稜閣に據り

維新後 元老院議員、學習院長、華族女學校長を經、又清國特命全權公使となれり 書を好くす。

たほごりーのかみーじんしや 大島神社 地理 神社名、和泉國大島郡一の宮にあり、日本武尊を祀る。

たほなかとみーのうち 大中臣氏 人名 代々種記家なり

大中臣氏の系圖

天兒屋根命……鎌大夫 黒田大蓮公 常磐大臣 (中臣)

可能多祐大連 御食子 鎌足 (大中臣) 國子 國足 兼手子

意美廣 東人

清萬石 諸魚 智治廣 (下部) 平廣

たほなかとみーすけちか 大中臣輔親 人名 祭主、能宣の子、神祇伯に任せらる。

たほなむちーのかみ 大口貴神 神名 大汝神、大持神、大國主神、大物主神、八千戈神、葦原醜男神、顯國魂神、大國玉神など、も申し奉る 少彦名命と、出雲にありて國土を經營し給へり。

たほにはーのむくのき 大庭の榎木 地、歴、紫宸殿の前の木にて昔 重盛の美仲の爲め追はれしところなり

たほにんーのらん 歴仁の亂 歴史 戦争、足利氏繼承事件より 山名宗全、細川勝元の争ひとなり 拾壹年間の大戦を京師になし洛中島有に歸す、時に文明元年。

たほの 大野 地名 筑紫大野城のあるところ、天智天皇四年城き 文武天皇二年統治せらる。

たほのーあづまひこ 大野東人 人名 果安の子、陸奥の蝦夷を打ちて 鎮守府將軍兼按察使となり、天平十一年廣嗣の叛するや 大將軍に任じて賊を敗り 廣嗣を斬る、十四年死す。

たほのーせつさい 大野拙齋 人名 儒者、越中の人、文政年中の人、京師にありて勉學し 造詣するところ多し

たほのーはるなが 大野治長 人名 豊臣初代に仕へ、慶長十九年大坂冬の陣に首謀となり 徳川氏に破られ 又五月夏の陣に再舉して豊臣氏と共に滅ぶ、時に元和元年なり

たほのみなごーじんしや 大野漢神社 地理、神社名、加賀國石川郡金石町にあり、滝津彦神を祀る。

たほのーやすまろ 太安慶 人名 文章家、神八井耳命の後、博學多才、文章に巧みなり、和銅四年 稗田阿禮の誦する古傳を筆記し 古事記三卷を撰む 後醍醐朝となり 天老七年死す。

たほばーかけちか 大庭景親 人名 相摸の人、保元の亂に義朝に與し白河殿を攻む 平氏の爲め敗れ 頼朝の兵を擧ぐるや 石橋山に之を破りしも後敗れて片瀬川に斬らる。

たほばーさずみれ 大葉黄蘗 植物 草類、葉の大なるあふひすみれにて 黄色の花咲く。

たほばこ 車前 植物 物、車前科、圖に示せる 如く、葉は卵形、通常五個の肋を有し、花は小形にして穗状花序をなす、葉は食用にし 種子を薬用とす。

たほはしーじゆんぞう 大橋順藏 人名 學者、江戸の人、經史、詩學に通ず、嘉永年間 ヘルリ提督の來りし時 攘夷説を主唱す 後幕府の爲め獄に下され 文久二年死す

たほはつせーわかたけーのすめらみこと 大泊瀬幼武天皇 人名 人皇第二十一代雄略天皇のことを申すなり。

たほばーのーまき 植物 「いぬまき」に同じ。

たほばん 大判 古今錢名 豊臣秀吉文祿年間の鑄造 金貨幣を云ふ。

たほーばん 椀飯 歴史 儀式、鎌倉時代に起りし家人より主人を饗することなり、以後専ら武家に行はれ 足利

義滿の時、一の儀式となる、歴仁亂後全く絶ゆ。

たほばんーぐみ 大番組 歴史 徳川時代の制度にて 江戸、京、大阪の守兵を云ふ。

たほーはらひ 大坂 歴史 儀式、六月、十二月の両晦に半年間の罪赦をなす爲め 百官朱雀門に會して神事を行ひ給ふ、今も朝廷にて行はる。

たほはらひーのーことばーごしやく 大坂詞後釋 書名 賀茂眞淵の祝詞考によりて 本居宣長の撰みしものなり、原本の誤、註解、所感等を上せたり。

たほはらーまもり 大原眞守 人名 刀劍家、伯耆の人 嵯峨帝の爲め刀を作る、抜丸等の名刀あり。

たほひわーうつされたるーうへのーたか 大比叡移されたる上野の岡 東京上野東叡山寛永寺を近江比叡山延曆寺に遷して建てられたれば 上野のことをかく云ふ。

たほひこーのみこと 大彦命 人名 孝元帝の皇子、四道將軍の一人なり、崇神帝の十年北陸を平げ、後武地安彦の反するや討て之を殺す。

たほひるぬむちーのかみ 大日靈貴神 神名 天照天神のことに申す、神は 諸册二尊の長子にして 弟素戔鳴尊の横暴を嫌ひて出雲に追ひ、皇孫瓊杵尊を天降して、瑞穗の國を治め給ふ。

ねほむら ますじらう 大村益三郎 人名 豪傑、明治近世の人、村田藏六のことにて、周防より出づ、成長後、緒方浩庵に就きて蘭學を修め、明治維新錦川兵を打ちて功あり、兵部大輔に任ず、後刺客の爲めに倒る、今に東京靖國神社内に銅像たり。

ねほん ーでんくは 植物 錦葵科に屬す、琉球臺灣の如き暖地に産す、其纖維より繩の一種を作る。

ねほ ーゆーつけ 大目付 歴史 役名、徳川氏の制度、寛永九年始めて置かる、評定所に在りて諸大名の令達、殿中の儀式、諸侯の監察等を司る。

ねほ ーもり 大森 地名 武藏國荏原郡大森村、品川灣に望み、風光明眉、八景園などの小山あり。

ねほ ーやけーがた 公方 古語 將軍などの名、足利時代より始まりたる語。

ねほ ーやしま 大八州 地名 大日本帝國の別稱、淡路伊豫、筑紫、對馬、隱岐、佐渡、大和の八州あるより起ると古書に見えたり。

ねほ ーやまーいわね 大山嶽 人名 日露開戦あるや、滿州軍總指揮官となる。天保十二年十月鹿兒島藩に生る、戊辰の役に功を立つ、端西留學を命せられ兵法を學びて歸る、熊本神風黨及四郷隆盛を平けて功あり、後十六年兵法巡究

の目的にて西洋に渡る、二十七八年日清戦役の時、第二軍司令官となり、陸軍大臣となること二回、今は陸軍大將元帥正二位大勳位功二級侯爵なり。

ねほ ーやまーげんぶ 大山元孚 人名 彫刻家、江戸の人、赤城軒と號せり。

ねほ ーやまーつなよし 大山綱良 人名 武術家、鹿兒島の人、西南の役、隆盛に與みし斬に處す。

ねほ ーやまどねこーひこーくにくるーのーすめらみこと 大日本根子彦國牽天皇 人名 孝元天皇を申すなり。

ねほ ーやまもりーのーわうじ 大山守皇十 人名 皇子、應神天皇の御子、菟道稚郎子の兄、帝は遠江國土形縣原にあり、山海此政をなましめ給ふ。

ねほ ーやまーれんげ 天女花 植物 木蘭科、喬木類、高一丈、白色の花、紅藥を吐き、芳香馥郁たり。

ねほ ーよるーごころも 神樂衣 古語衣服の名、現今神社祀祭にて神樂に舞ふときの衣なり。

ねほ ーよごーかは 大淀川 川名、筑前平原を走る川、源を遠賀川と云ふ。

ねほ ーよごーみちかぜ 大淀三千風 人名 俳諧人、伊勢の人、日に三千句を誦むと云ふ。

オポルト Operto 地名、ホルトガルの一都會、古ホル

ツスカレと云ひ、ブエーロ河に望む、ホルト酒の輸出港、其他絹、綿布、帽子、陶器等を製作す。

ねほ ーろかに 凡 ねほろげにの捕音、ねろそかに、なほさうに等の如し。

ねほ ーわだーたてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

ねほ ーわたり 大渡 地名 山城久世郡にあり、淀川の南木津川と會する所なり、承久の亂に戦ありし所なり。

ねほ ーゐーがは 大井川 川名 甲斐信濃の境界、白根山中を源とし、駿河西海に注ぐ。

ねほ ーゐーがは 大堰川 川名 源を丹波に發し山城に入りて嵐山の前を流れ、桂川となる。

ねほ ーゐーのーはいてい 大炊の廢帝 人名 天皇、天武帝の孫、舍人親王の王子、孝謙上皇の爲め淡路に遷され死し給ふ、明治三年、淳仁天皇と諡す。

ねほ ーぬーどの 大炊殿 古語 役所、今の朝廷に於ける炊事場に同じ。

ねほ ーゐーみかど 大炊御門 地名 門名、平安城都芳門をいふ。

ねほ ーゐーのーつかさ 大炊寮 地名 役所、昔宮内省に屬する役所にして、諸國貢賦の穀類配當所なり。

ねほ ーゐかどーがーはら 大炊御門河原 地名 大炊殿大路の加茂川沿岸の地を云ふ。

ねほ ーゐもり 大蟻蟻 動物 爬虫類の蜥蜴類に屬し、ゐもりの一種、石籠子に似て、時々體色を變ず。

ねほ ーゐみ 黃精 植物 草類、初夏白色花を開く竹に似れるものなり。

ねほ ーなかーただちけ 大岡忠相 人名 越前守、徳川八代吉宗將軍に従ひ、諸奉行を経て元文元年寺社奉行となる裁判、立板に水の流る、如し、寶暦元年死す。

ねほ ーなかーゐいろん 大岡惠尊 人名 儒師、大岡男流の五世の孫、天智天等の知遇を得て、大岡忠性を賜ふ。

ねほ ーなかーだんりう 大岡男龍 人名 書工の鼻祖、武烈天皇の朝、出、て書を善くす。

ねま ーす 御座 國四 文典、敬語、有り、居るの意義。

ねまつ 植物 「くろまつ」に同じ。

オマハ Omaha 地名、ネブラスカ州の首府、宏大美麗の建築物あり、亞麻仁油、蒸氣釜の製造業盛なり、最も銀溶業を以て盛とす。

ねまへーはま 御前濱 地理 濱名、神功皇后、三韓の凱旋の時、筑紫より着船し給ひしところ、攝津國にあり。

Great words
Every title

たまへー 御前崎 地名 遠州城東郡の突海出點の地、燈臺あり。

オマーン Oman 國名 英國保護地、アラビアの一州アラビア海岸ヘルシア灣の海岸の地帯の地帯の便ありて豊饒なるも、氣候酷熱健康に害す。

オーム Oum 烏馬兒 人名 ローマ第二のカーフなり、六三五年シリア、六三七セルサレム、ヘルシアを併し、シヤトアラア河畔にバストラ市場を立て、又埃及にはカイロを築きたりき。

オーマル Omar 人名 トルコの將軍、オーマル、パシヤは、ロシアの南侵を苦しめ功ありしが、一八六二年モンテネグロ國チエニエにて擒になる。

たみ 臣 官位 上古の皇別、天武天皇の朝即清見原朝廷の制度として八姓を改正し給ひ、其六位に置かる。

たみ 花 植物 敗醬科、秋七草の一、越年生にて自然山野に生ず、莖の高三四尺、秋、群黄色の細小花を開く、もみてかぐときは、敗醬の香あり。

たみ 御身試 儀式 釋迦牟尼佛の尊像を白絹に拭ふこと、山城嵯峨清涼寺に行はるなり。

オーム Oum 人名 獨逸の人、電流に付き、オームの定律を定む。

オムスク Omsk 地名 西シベリアの一首府、オム河上にあり、元、ロシアの植民地なりき。

オームのていつ Ohm's Law 物理 獨人オームの發見するところの電流の強さの定律、即ち電流の強さは、電池の電動力に正比例し、輪道の抵抗に逆比例す。

たむろ 御室 地名 仁和寺、宇多院、享子院とも申す、山城國葛野郡花園村御室にありて宇多上皇の隱所なり、後醍醐の亂にて焼けしも、徳川氏の時、法親王門跡となり給ふ。

たほ わたり 大渡 地名 山城國久世郡、淀川、木津川の出會點の地、承久の亂に際し、坊門忠信千餘騎を以て足利義氏の軍と戦ひし地なり。

たにい 隆位 爵位の叙位法（孫は二等下る）

一位の嫡子 從五位下 庶子 正六位上
二位の嫡子 正六位下 庶子 從六位上
三位の嫡子 從六位上 庶子 從六以下
四位の嫡子 從六位下 庶子 從七位上
五位の嫡子 從七位上 庶子 從七位下
正五位の嫡子 正八位下 庶子 從八位上

從五位の嫡子 從八位上 庶子 從八位下

たながー のかは 通賀川 地理 川名、筑前の大平原を走る大河にて支海難に注ぐ。

たながー のしほ 恩賀島 地理 島名、安藝國安藝郡の南海にある嚴島のことにて、日本三景の一なり。

たんこ 植物 「イナヅ」に同じ。

たんこ ちしん 温故知新 古語 習ひしことを復習すれば得るところありの意義、論語に曰く「温故而知新、可以爲師矣」と、こ、より出づ。

オンサ Punting forks 音叉 物理 音響の標準器、能く鍛練したる鋼鐵をU字

形とし之を木製の箱に上せ、胡弓の弦或は軟棒にて摩するときは、規則正しき清耶の音を發するなり。

たんざく のかむり 御幟冠 衣服の名 天皇陛下の神祭に着させ給ふもの、無紋にして、後より頭を越し、前にて絹にて結ぶ。

たん 隆子 古の官位制度 年二十一に至れば、選叙令により、父祖の位に位叙せらる、ことを云ふ。

たん じょう 開城寺 地理 寺名、近江國大津にありて三井寺と稱す、天台宗の本山、大友與多王の開基、初め、眞言をも信せしが、延暦寺の盛んに至るに及び、之と教義を戦ひ、後權力に訴へ、京師を騒がせしことあり。

たん じやく 温石 礦物 蛇紋石の條を見よ。

たん じやく じゆう 温石絨 礦物 化學、石綿のことにして、形状するめを白くしたる如く、一〇〇〇度以上に熱するも溶けず、硫酸硝酸に合ひて變せず、多く火消用手袋を作る。

たん じやく 音色 物生 發音體は其振動數によりて各特異の音を發す、是れ同音調及同強の音を發せしむるも、各樂器特別の性質を有する音を發す、この特色を名けて、音色と云ふ、人間の發音は、喉頭部に在る聲帯の薄膜の振動による、而して各特別を發するを以て暗所に在るも音によりて何人なるかを知る、男子は一秒時間に九十回、女子は二百七十回、五日五十回。

たん せん 温泉 Hot spring 地名 地中流動水、地熱の爲め高温度にせられ、地上に湧出するを云ふ、温泉は冷水よりも溶解力強を以て、種々の礦物を溶解す。これ硫黄泉、鹽類泉、炭酸泉、酸性泉、單純泉のある所以なり。

たん ち 温祚 人名 建國者、高麗郡李王の少子、箕

氏の國に走り 西紀前十八年濟國を建つ。

かんたいたい Temperate zone 温带 ④ 地文 氣候温和、人類生活に最も適當の地、即ち赤道南北各二十三度半より六十六度半の間を云ふ。

かんたたくーぶきよう 恩澤奉行 ④ 歴史 役名、武人の論功行賞を司る役、今の賞勳局役員のことなり。

かんたけーさん 御嶽山 ④ 山名 信濃國に在る高山、海拔九千二百七十尺なり。

オンタリオ Ontario ④ 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く、礦山に富む、首府をトロントと云ふ。

オンタリオ Ontario ④ 湖名 北米加奈陀オンタリオ州にあり五大湖の一、有名なるナイアガラ瀧此湖に流入す。

かんちーさんたらう 恩地左近太郎 ④ 人名 武士、楠氏四天王の一、正成の死後正行を助けて兵を擧ぐ。

かんーちやう Pitch of Sound 音調 ④ 物理 音調は發音體の振動數の多少に關して異なるなり 振動數多きときは高音少き時は低音、學術上は(ハ)調の一を二百五十六振動するものとす。

かんーてい Interval 音程 ④ 物理 二樂音の振動數の比例を云ふ、此の比の極めて簡單なるとき能く調和す、今普通音樂上の繼續する二音程を示さん。

通音樂上の繼續する二音程を示さん。

(一) $9/8$ (二) $10/9$ (三) $16/15$ (四) $9/8$ (五) $9/8$ (六) $16/15$ (七) $9/8$ (一) $9/8$ (二) $9/8$ ……

かんーど 温度 temperature ④ 物理 物體の温度とは他の物體に對し 如何なる割合の熱を有するかを示すことなり、甲乙二體ありて相接するが 相對せしむるとき

甲體の熱去りて 乙體に移りたりとすれば 甲體は温度高し、双方共熱に増減なければ その温度相等しと云ふ可し

かんーのーせじ 音月瀬戸 ④ 地名 安藝國倉橋島より備後鍋島の間を云ひ 昔 平清盛福原に遷都し 屢々安藝の嚴島に參詣す 依て便利の爲め此瀬戸を作りしものなり

かんぬーぬま 恩根沼 ④ 地理 沼名、北海道根室國根室郡にありて周囲七里なり。

かんーのーちくど 音の速度 ④ 物理 音の速度は 傳達體の彈性及密度に關係し 又彈性及密度も温度に關係するを以て、音の速度も 温度に關係す、而して固體最も大、液體之に次ぎ 氣體最も小なり今空氣中にて、 t の時の速度 V は一秒時間に $330.7 \sqrt{1 + \frac{t}{273}}$ 米なり但し 330.7 は 0° の時の空氣に於ける速度 330.7 は 瓦斯體の膨張率なり

かんーのーはんしや 音の反射 ④ 物理 音波の空氣中を進行するに際し 障害物(壁等)に達ふとき更に方向を取りて進行するものなり、之を音の反射とす、山彦及反響とは此が現象なり。

かんーのーくつせつ 音の屈折 ④ 物理 音波の傳達體の疎密により、音波の進行の速速を生ずるを以て、音波は或媒介物より、他の媒介物に入るとき、其進行の方向を變ず、これ光線の屈折に同じ。

かんーのーはきゆう 音の波及 ④ 物理 發音體は一定の週期を以て運動するものにして、物體が外方に動く時は、之に接す空氣は壓迫せられ濃厚となる、然れ共内位に復せんとして、外方の空氣を壓し逐次如此空氣の濃厚部分が外方に進行す、又發音體が内方に動く時は、之に接する空氣は稀薄となり、外方の空氣之を補はんとして來り、更に又稀薄部を成す、逐次稀薄部は外方に進む、斯くして疎密波をなして漸次外方に振動を播及す、之を音の波及と言ふ。

かんーば 音波 sound wave ④ 物理 發音體を振動せしむるときは、其の質點は一定の週期を以て振動し、圍繞する空氣に傳はり縦波を起す、而して濃厚、稀薄の二部を生じ、濃厚部は常に外方に向ひ、稀薄部は常に内方に向ふを以て、縦波は漸々外方に進む、此現象を音波と云ふ。

かんばーのーかんしやう 音波の干渉 ④ 物理 音波は各其發音體の質點の週期により異り起るものなれば、空氣の一部、同時に二個以上の音波に達ふときは、波の山と山と重り 谷と谷と重り 山と谷と相對する如き種々場合あり此の山と谷と相對するときは 音波平均せられて 振幅減じ弱音を呈す、此の現象を音波の干渉と云ふ。

かんばーのーてんたつ 音波の傳達 ④ 物理 吾人の音を聞き得るは傳達する媒介物あるによる、此媒介物も其密度によりて異なるなり 固體最も能く傳達し 次ぎに液體、氣體となる。

かんーはかせ 音博士 ④ 官名 大學寮に屬し 支那の字音即ち漢音、吳音等を教授する人の官、二人を置くを常とす。

かんーびん 音便 ④ 文典 言語發音上の便義にて音を轉ずることを云ふ、例へば「かみさし」替は「かんざし」に變ずるが如し、文典上左の音便最も必要なり。

き、ぎ、しは、いに、ひはうに、に、み、びはんに、ひ、ち、りは、ふに、むは、うに、變轉す。

又形容詞にては特に き、うは、いに、くは、う又はんに變す。

オンフレド Humphrey Outredo ④ 人名 英國の有名な神學者なり、(西紀一五二七—一五九〇)

オシマヤちやう Ommyada's 朝 時代 西紀六六一年オスマンの波斯サフン朝を滅し、ムアウィヤ一世、都をダマメク

に定め、國を建つ、これオシマヤ朝にして十四人のカリフ王朝なり、後七十四年アッバース朝のアブルアッバースの爲め敗られイスパニアに走り、コルドバ朝を建設す。

かんやうーはかせ 陰陽博士 官名 事の吉凶を占ふと

この陰陽寮の官人にして、陰陽學を教授する人なり。

かんーめん 音韻 音とは人の聲にて一氣に出ずる單純なるもの、韻とは首のひびきを云ふ、此が學問を音韻學と云ふ。

ためーむし 腹虫 動物 等脚類、夏秋濕地に生ず、全身薄風色にて横腹に一筋の縞あり、嗅氣にして薬用に供す

たうめんーきやう Concavmirror 凹面鏡 物理 内凹なる處を反射面としたる鏡面を云ふ、この凹面鏡にては、鏡軸に平行する光線反射してその焦點を過ぎ、又焦點を過ぎる光線及焦點より發する光線は、反射の後、鏡面に平行して進む。

たもーがい 面皰 歴史 馬具の名、馬の頭より、鬃まぞぶなをたる緒にて、多くは黄、白、赤等の糸或は布にて組みたるものなり。

たもーがろし 面皰 古語 温靜なることなり。

たもさ 重さ Weight 物理 重量とは、物體の質量が其重力即ち地球の物體を引寄せんとする力に感ずる度合を云ふ。

たもたか 野茨菰 植物 澤瀉科、くわの類なり、球根草にして池、澤に生ず、夏莖生し、白花を出す、食用として味風雅なり。

たもつせい 大晦日 歴語 十二月三十一日のこと、わはみぞかと云ふ。

たもてーどーかけ 表裏影 両者相離れざるものを云ふ「親子は表と影との如し」の如し。

たもてーぶせ 面伏 名譽を失ふ、不面目のこと。

たもてる 面照 古語 恥ぢて赤面すること。

たもてーなーたこす 起面 古語 功勞を立て、名譽を得ること。

たもと 萬年青 植物 百合科 葉は深緑を草質にて根莖より生じ、廣長厚硬なり、花は穗狀花序に排列し、綠黄色或は白色の花蓋を有するなり、秋赤色の漿果を結ぶ、多く盆栽とし高貴のものに至りて幾千圓の價値あるものあり

たもにーにーこつげ 重荷に小付 苦勞ある上に又苦勞することと云ふ。

たものーおげよう 御物奉行 歴史 官名、武家に在り

て調度のことと司る役、將軍參内の時、之に従ひゆくなり

たもひーあまる 思餘 過度に心を勞すること、堪へがたきまで思ふことなり。

たもひーうしろむ 思後見 國上二 古語 心配して、親切に後見してやること。

たもひーかまふ 思構 國下二 古語 心中密に企つること、謀反の心を抱くなどをも云ふ。

たもひーくさ 思草 植物 草名、女郎花のことなり。

たもひーご 思子 古語 親愛なる子。

たもひーなすらふ 思準 古語 彼此を比較すること。

たもひーのつゆ 思の露 古語 涙の出ることなり。

たもふ 思憶 念 想 惟 願 國四 思は思案すること、慕ふこと、憶は思出すこと、昔を憶ふか如し、念は心にかけて常に思ひたること、想は無形物を想ふこと、惟は一心不亂に思ふこと、願は後事を省ること、

たもーぶくら 面脹 動詞より變化せし言葉 顔の肥滿して圓きこと。

たもぶとちーかいつらねて 思ふ同士揃い列ねて 古語 かしは、かきの音便、親友と連れ立ちての意義なり。

たもーへり 顔色 古語 かはつき かはいろの如し、

たもほゆ 所思 國下二 かくれたるは、かくおぼゆの意、

にて たもはゆの變稱せしませなり。

たうもんきんーせい 横紋筋纖維 Striped muscle fibres 生理 人體外部の動運機關を司る筋肉を構成するものにて隨意筋纖維の名稱、顯微鏡に照せば、圖の如く長き横維に横紋の併行するを見るなり。



たやこーつき 親子月 曆語 陰十二月のことを云ふ。

たやしほ 親潮 地名、潮流名 露領カンサツカ牛島の海岸より、日本の千島列島に沿ひ、本州の東岸を洗ひ、金華山沖に至る寒流なり。

たやしらすーしらす 不知親不知子 地名 越後西頸城郡の海岸にあり、立山の麓、斷崖絶壁の下、波打際にて、波にさらはる、ことあれば、親子も相顧みる暇なきは、危険なるところなり。

たやにーかかるときーこにかかるーたり 親に遇る時、子に遇る折 子が親に頼る時もあれば、親が子によるときもあるの意義なり。

たやのーまもり 親守 古語 子を大切に思ふ親の心のことにて、古へ多く歌に詠みたり。

たやま 小山 地名 下野國下都賀郡に在りて今は北陸

日本鐵道の停車場あるところ、歴史に富める地なり、天慶年中、藤原秀綱、平將門を討ちて功ありしかば、世々此地による、後裔朝政に至り頼朝に仕ふ、治定四年、頼朝の佐竹氏を討つに陣せしところ、なり天正十八年、豊臣秀吉の陣せしところ、慶長五年上杉景勝を討つんとて、徳川家康の陣せしところなりき。

たゆみ 小弓 地名 千葉縣千葉郡生實濱村に在りて足利末代源氏の居住地、後武田氏之を陥れ、足利義明東國に出走するや、之を迎へて城に置く、これ御小弓御所ある所以、後義明は北條氏綱と鴻庵に服ひしも敗れぬ、寛永四年、徳川氏の有し、森川重俊に與へらる。

たゆみのごしよ 小弓御所 地名 目下千葉郡蘇我町に在り、昔し將軍義明、兄の高基と不和を生じ、上總に走るや、里見義通等之を奉じて小弓城に居らしむ、これを云ふ。

たよる 御経 國四 古語 敬語 たよなるに同じく、御就經のことを云ふ。

オラフ Oruf 人名 王、四世紀十世紀頃の人、ノルウェーの王第一世より五世に及ぶ。

おらぶ 古語、大聲を發してさけぶことなり。

オラン Oran 地名 名 アルゼビアの最も盛んなる港、回

々教會堂大學あり、エスパルト草 鐵礦を輸出するを以て名あり。

オランイエ Orange (Oranie) 地名 南亞弗利加の共和國 一九〇〇年英法戦争の結果、イギリスの植民地となりぬ。

オランイエ Orange (Oranje) 地理 河名、南アフリカの大川、源をナクル境國バスターランドに發し、西走してオランイエ共和國、英領ベチアナラント及獨逸領西アフリカの地を、ケープロコニーより分離す、全長一〇〇〇哩あり。

オランジュ Orange 人名 將軍、十六世紀の初めフランスのアルゴニエに出で、アレー男爵の子、カロロ五世に仕く大功ありて、一五二八ナボリの總督となる。

オランジュ Orange 人名 西紀一五七九ワットレヒトの同盟により、ウィルム公に推され知事に擧げられしはオランジュ家なり。

オランジュ Orange 人名 フランスのオークルスの一邑、舊名アロシオと云ひ、ローマ古代の遺物多し、西紀前一〇五、シムアリア人のローマを敗りしところナッサア家領の首府となる、一七〇二、オランジュ家に屬し、一七二四、フランスに合す。

オランジト Orange 地名 都府、アメリカのニューオーリンズ州の都會、多くニューヨーク人によりて占領せらる。

オランダ Holland (Nederlanden or Netherland) 地名 名 西部歐羅巴の一小海國ソイデル海深く内地に入込み、シュルテ河口に至る、全國四分の一は海面を下る五米なり、以て堤防を築きて防ぐ、十六世紀スペイン配下を脱して獨立し、十七世紀は雄飛時代なりき、其殖民地は本國の六十四倍ありと、又此國は日本との關係頗る密にして、今日日本の文化も蘭學の迅くに傳來せしによる、殊に醫學に於て最も益を受けたり。

オランダキジカクシ 石刀柏 Asparagus officinalis L. 植物 百合科草本 葉は細微花は帯綠色にて小、嫩芽を食用とす。

オランダイチゴ Fragaria Virginiana Ehrh. 植物 薔薇科草本葉、は複葉三偏より成る白色の花、肥大せる花托に、數多の瘦果の着せる果實、食用として佳味あり。

おらんだーげんげ 植物 「しろつめくさ」に同じ。

おらんだーしょうぶ 和蘭菖蒲 植物 菖蒲科草本、春季黄赤色の莖を出す。

おらんだーせり 和蘭芹 植物 草名、葉刻細かにして

莖高し、食用とす。

オーランド Aland 地名 ボスニア海中の群島なり、三百の小島より成り、内八十島には住民あり、ロシア此地に要塞を置けり。

オリサ Orissa 地名 印度舊帝國 西紀一五六八年迄獨立し、一八〇三英領となる、今はベンガル地方のみ、米、麥、豆、綿を産す。

オリザバ Orizaba 地名 北アメリカのメキシコのペラクルズ州の火山、一八二〇五呎の高さあり、ペラクルズの首府も同名なり。

おらたぐしばーのーき 折焚く柴の記 書名 徳川將軍家宣の臣 新井白石 其一生の經歷を書きしもの、當時の事情を知るに足る。

オリノコ Orinoco 地理 河名、南米北部の川、同河口は西紀一四九八年、コロンプスによりて發見せらる。

オリバ Oliva 地理 寺名、獨逸ゲンナヒ市の近隣にある寺院、西紀一六六〇年瑞典と波蘭との和議を結び、兩國の兵を撤退したるところなり。

オリバレス Olivares 人名 將軍、十六世紀イスパニアの將軍、カスチリア大政治家の後裔、ローマに生る、ヒリッパ四世に仕へ寵臣たり、西紀一六四七年死す。

たりびとーしんわう 織仁親王 人名 有栖川宮織仁親王の御子、花園天皇の猶子となり、親王と成る、和歌を好み給ふ 文政二年死す、文楽院と諡す。

たりべ 織部 歴史 天正の頃織部某の作りしもの、朱塗、梨子の小形木杵を云ふ。

たりべーさか 下部阪 地名 伊勢豊受大明神城内多賀宮の登道のこと。

たりべーつかさ 織部司 昔の役所 綾、絹の織物を司る官省にて大藏省に屬せり。

たうーりん 黄燐 化学 白燐に同じ、燐を日光に曝し、若しくは空氣の流通を遮断しては、○の熱に當つれば赤褐色の粉末と變するを赤燐と云ふ。

オリベル Oliver 人名 侍従武官 カロロ大帝に仕へローランドと馬に乗り常に帝側にある武士なり。

オリベル Oliver 人名 畫家、西紀一五五六年イギリスに出で 肖像畫并に貴顯紳士の密畫に巧みなり。其子オクベルも又父の如かりき。

オリントス Olynda 地名 ギリシア ハルキタ牛島の一部府なり。

オリンピア Olympia 地名 ギリシアのエリス溪谷中の一平原、アルフェイオス河の灌流するところ、西紀前七

七六年始めてオリンピア祭を行ひ四年毎に此式を行ふに至れり 神像はゼウスの神にして其廟の宏大にて諸物殆んを揃へり。

オリンパス Olympus 地名 山脈 ギリシアのアツサリイとマセドニアとの境界山脈にして頂上には松樹蒼々として諸神を祀る最高峯は九七五〇呎。

オリンボス Olympus 地名 亞細亞土耳其の山頂上にはウエビター神の神廟あり これ昔時森林を以て蔽は天に達せしと信せしに由れり。

たりみのーみかど 下居帝 古語、太上天皇のこと、位を退き給ひたる天皇のことなり。

オルガ Olga 人名 スカンナチビアの皇子基督教信者ヘレナに洗禮を受け 宗教の傳播に力を盡す、九〇五年聖尊に加へらる。

オルガ Olga 人名 ロシアの貴婦人、プロシア公の子イゴルに嫁す 後コンスタンチノールに至り耶蘇教に力を盡す 西紀九六九年死す、其祭日七月十一日なり。

たるかん 幹兒寒河 河名 今のオルホン河なり、元の太宗の七年此河の西なる和林木に都を建て、大征伐の事を購する大會を開きたり。

オルガンーかん オルガン管 物理 風琴管に同じ。

オルニ Orni 人名 一八一九年イタリヤの貴族に生れ、革命時代とて共謀して ルイボナートナポレオンを殺さんとて 事願はれ 斬に處せらる。

オルダ Orda 幹魯桑 人名 白黨汗國の領首、元の太祖成吉思汗の孫朮知の長男 拔部の兄なり 西紀一二三六年拔部大軍を以て西征に赴くとき之に従ひ リーグニヒに露軍を破り アラル海の東北シレシア荒原を領し白黨汗國を立て、子孫代々此によらしむ。

オールドム Oldham 地名 イングランの一市、マンチエスターの東北メロドック河上にあり、絹布、天鵝絨子の製造盛なり。

オルデンバルネフェ Oldenbarnveld 人名 政治家、紀一五四九 ナランダに出で 西班牙と條約を締結し、一六一八年ナツサウ將軍の爲め捕はれ ハーグ死刑斷頭臺の露と消ゆ。

オルデンブルグ Oldenburg 地名 獨逸國オルテンブルグ、リューベック、ヒルケンヘルトの三州を合せる大公國 面積二〇七六方哩、オルデンブルグの首府。

オールドス Oldors 鄂爾多斯部 地名 清國蒙古の一部、歸化城、土默特、喀爾喀の東の地にて 秦以來幾度も他國に合されしも 察哈爾に至りて鄂爾多斯名と名く

天總九年支那に歸す。

オルバク Holbach 人名 佛國哲學者にして、少よりパリに住し華美の生活をなせり、其哲學は唯物的にして宗教は無神論なり、(西紀一七二二—一七八九)

オルハン Orkhan 人名 建國者 オスマンの子、ナワルクメン部酋長、トルコ帝國を建つ。

オルホン Orkhon 地理 河名、蒙古の北方に流る河、長三八〇哩。

オルミューツ Olmutz 地名 オーストリアのモラヴィア城邑、三十年戦争、七年戦争の中心點、ラファエットの幽せられし所、現今商業盛なり。

オルムズ Ormuz (Hormuz Hormuz) 地名 波斯灣にある島、一五一五年ホルトガル印度總督アルブケルケの占領地なり。

オルレアン Orleans 人名 フランスの四分王家なり、(一)フィリップ (二)ルイ(三)ガスコレ(ルイ十三世の兄弟)(四)フィリップ一世(ルイ十四世の兄弟)。

オルレアン Orleans 地名 フランスのロアル河上、ロアル州の首府、西紀四五年エーナウス及同盟軍のアツチラを撃退し、一四二八年英國の包圍せしとき一少女ジャンダルクにより救濟せらる、現今は羊毛、葡萄酒、穀類、材

木、油等の商業盛なり。

オルロフ Orlov 人名 名將、西紀一七三四年ロシアに出でグレゴリイオと稱し、カマリオ二世の寵臣、七年戦争に功あり。

オルロフ Orlov 人名 海軍大將、グレゴリイオの弟、アレキスと稱す、西紀一千七〇年土耳其を伐つ、後露帝ペートル三世を弑しぬ。

オリーブ油 Olive oil、オリーブ油 植物、橄欖油とも稱す、木犀科木本の果實より製出す。成分はオレイン及ステアリンなり。淡黄或は褐色を呈す、不乾性にして機械油に用ふるなり。

オレイン Oleic acid C₁₈H₃₄O₂ 化学 油酸と云ふ、所在は動物物の脂肪及油中即ちオレイン酸グリセル(C₃H₅(C₁₈H₃₃O₂)₃)に存在す、性状は不飽和酸、無色無臭の油状液 14°Cにて凝固す、空氣中にては黄色となり苛性加里と溶解すれば、アルミチン酸及醋酸となる。

オレクマ Olekma 地理 河名、シベリアの河、四〇〇哩にてレナ大河に會す。

オレゴン Oregon 地名 北米合衆國の大平洋海岸一帯の州なり、西北に山脈雲中に聳へ土地高し、牧畜、材木、石炭、金、銀を産すること多し、首府をサレムと云ふ。

オレフィン Olefin 類 Olefins, Olefins 化学 炭化水素の不飽和體なり。

オレンジ Orange 地名 オレンジを見よ。

オレンジリバー Orange River 地名 南亞非利加南方の共和國、ケープコロンの北にありて西紀一八五四年英國の領を脱す、小丘多く氣候溫和、羊兎、石炭、金剛石、獸皮などを出す。

オレンブルグ Orenburg 地名、ロシア東南部の一州、ウラル山脈あり、ウラルのコサック騎兵駐屯す。

オレンブルグ Orenburg 地名、ロシアのオレンブルグ州の舊首府、タタル及アジア人を歐州人との貿易場たり。

オレル Orël 地理 川名、ロシアのハルコフ州の一川流れてドニエプア河に注ぐ、(二三〇哩)。

オレル Orël 地名、中央ロシアの一州面積一八〇四二哩、又、オレ州の首府も同名にして、オカ河畔に在りキリ、シア及ロシアの一大市場とす。

おろし Oroshi 地名、地方風一種にして、高所より低處に吹き下るす風なり、即ち兩所の氣壓の大に異なるより起るものなり、佛國南部のミストラル風、アルプス山のフーン風北アフリカ海のアラフ風等、此風に屬せり。

オロス Oros 地名、元太祖成吉思汗の西征の

いよいよ
文入用

時、大將哲別速不台來るも敗る、其後漸く勢を恢復し金帳を滅し、七十回の戦争を以て諸國を侵襲し今や歐亞に誇る大國となり、現に我日本の爲め征せられつつあり。

オロンテス Orontes 地理 亞細亞の西部シリアの河、源をアンタレバノン山脈に發し、地中海に注ぐ、全長一五〇哩、沿岸實に絶景なり。

おわり 尾張 地名、東海道に在り、於波里のこと、天武の朝國守を置かれ、鎌倉幕府の爲め、野上成經守護となる、應永年中、新波義重守護となる、其臣織田氏に至りて之を徳川氏に與ふ、徳川氏代々三代家の一をこ、に置く、今は第三師團の所在地にして、土地平坦豊饒、交通の便極めてよし。

か

か 架 なたな、物をのするだいのこと。

か 語氣を強むるため形容詞に添ふ。かよわしの如し

か 夏 地名、支那太古に於て、禹なる人、治水の功を以て、帝舜の禪を受け、國號を夏と云ひしなり、十七世、四百餘年、桀を以て終る。

か 蚊 Nematocera or Mosquito 動物 昆虫類、二翅類、濕地に産卵し、幼蟲をゴキフラと云ひ、夏期盛に人畜を齧す、我國にては二種あり、Culex Anopheles 即ち是れなり、前者は人血を吸收するのみなれども、後者はマラリア熱の病源を傳染するを以て其害甚し、又蚊の奇なるは、雌のみ人血を吸ひ、雄は、葉裏にありて露を吸ふのみ。

か 賀 祝賀の意と、高齡を祝ふ意とあり、重に七十七八十八の年に祝ふなり。

か 蛾 Moth 動物 昆虫類、鱗類、カイコ或はケムシの成虫なり、カイコは益蛾となれども、ケムシは樹木を害し、成虫は夜間飛行す、體肥大、觸角細し、翅の裏面は表面より、後翅は前翅よりも美なり。

か あう 苛殃 残酷なる災禍、無罪の咎なきの意。

か あつりやく 下壓力 Downward Pressure 物理

教

これの身と律
はあらずと
誓やう道。

後
貞

かい

擢(名) 船を動かす具。
舟と長(名)の
もの。

船(名) 持て懸け、前後に押寄りて水を掻く。

液體の其容器の底面積を壓する力は、其上部の屈曲度如何に關せず、底面積同じければ、其壓力は相等し、此力即ち下壓力なり。

かーあん 何晏 人名、儒者、支那三國魏南陽の人、何進の孫、大將軍曹爽によりて列侯を賜はりしも、爽等官物を私し、州郡を求むるに至り、彈劾せられ共に誅せられたる。漢書論及其他數編の著書あり。

かい 戒 佛語、所謂勸善懲惡の法にて、佛教に歸依する人の、師道に背きて、佛者と對してその罪、五戒八戒、十戒等あり。

かい 貝 Shellfish 動物、二枚の貝殻を有する動物の總稱、ハマグリ、カラスガに皆是なり。

かい 艾 艾 老人のこと、曲禮に「年五十曰艾」とあり。

かい 甲斐 地名、山梨縣に屬する、市九郎の國、昔甲斐國邊の置かれしを始め、源義光の子孫是に居り甲斐源氏となる、頼朝の兵を起すや武田信義是を管し信支起りて之を一統、明治維新に至る。

かい 脚 脚脚 動物、蝦の腹部に在る脚状のものを云ふ。

かい あし 機脚類 Cepoda 動物、甲殼類、口部には上下兩顎、顎脚に二對、胸肢四五對、體の環節明瞭。

かい あんじ 海晏寺 地名、舊京府佐原郡品川町にありて北條時頼の建立せる曹洞宗の寺なり、大覺禪師の開山。

ガイウス 人名、法律家、ローマの人、進せし法典はユスニアン法典の基礎となす。(西紀一〇一八年)。

ガイウス、オクタビウス Gaius Octavius (Augustus Octavia, 163-87 BC) 人名、ローマ最初の皇帝、ユリア・シーザルの甥、其十八歳の時シーザル殺害せらる、乃ちローマに歸り、紀元前四二年カシアス及アルタスを殺り三一年アントニアス及クレオパトラを滅し、自ら皇帝となる。

カイウス、マリウス Caius Marius 人名、ローマのコンスル(紀元前百七年)、ユリウス・シーザルの義叔父、民黨の領袖、スルラの強敵、ゴールキンプリを討ち、スルラを追ひ、後カルタギに住す、歸りてスラの黨を苦しめしが、八年頓死したり。

カイウス、ユリウス、ケーサル Caius Julius Caesar 人名、ローマの大人物、民黨の領袖、(西紀前一〇〇)、スルラと敵しスルラの死するや、コンサルとなり、紀元前六〇年ポンペー、クラサスと第一三頭政治を作る、四八年ポンペーをギリシアに追ひ、ローマに歸りてサクテーターとなり、コンサルたること五年間、エジプトを伐つて功をなし、宏大なる

